

紙をあげよう
 何のおめ... たいのやらわらぬやうなそのせ
 ても急よ肩の軽くなるたわゆる何とも知りぬ本持
 であらうたもさうへおき我を扱きまうと思
 としたうまきたるる時よあんのことをお
 ぬらうたいことにはおないます
 たいの心を引きまめやううることには致し
 そのまをどめよこの百から去くてもめよした
 杖のうへともううる
 うち家産生活よ、私でいひまうた
 くにまよし
 りまい有用、責任感と大キの抱負とをもちたる
 善力を私にどれおどのこらるる出来まわら
 の叔母様ののりお徳よ皆うぬわう最善を
 つもりていひまわす信に對し、忠告な
 ともちなることお信をせしむるま
 ちますすにつしこの是忠告ふん
 惑むなくあまつそゆる強いのな
 じやいす

信をせしむるま
 ちますすにつしこの是忠告ふん
 惑むなくあまつそゆる強いのな
 じやいす
 叔父様にも何をお
 しこ

就職を祝ふ(返事)

就職なさ

ろしいさうで

そして、私は

みどりさん、あ

して認められ、その

緊張の中に毎日を送

たいといふことです。

婦人が職業に就く動機

ためか職業に對する真剣味を缺

職業に就いてみられる間は誠意を傾け全力をつくして、その仕事に當つて頂きたいと思ひます。私はあな

いふやうな差別を自らつけて努力を惜しむことは、あなたばかりでなく、職業婦人全體のために、おつしみ願

す。職業婦人としての喜びは、自ら真剣な生活の中にあるものです。

二三日うちに素晴らしいお祝ひの品をお送り致します。あなたもお暇があつたらお遊びにいらつしやい。御自

ります。

就職を祝ふ(返事)

田中孝子

叔母様、私の就職についてお祝ひのお手紙頂きました。有がたう存じます。

實は入社早々参上している、お話し申上げようと存しながら、日々仕事に忙しく、自然来る日曜

来る日曜も難用に追れまして、今日までつい伺ひそびれてをりました。何とぞお許し下さいませ。

就職中のこまの御注意本當に有難く拜讀いたしました。早く親を失ひました私には、をばさまの御言葉、身

にしみてうれしく存せられます。やうやく職場の門をくぐりましたばかりで、もう一歩の職業婦人になり切つたつ

もりでゐた私でございましたが、お手紙により、職業生活といふものがそんな上つ調子のものでなく、もつと

強い責任感と大きな抱負とをまたなければならぬことを覺ることが出来ました。

無力な私にどれほどのことが出来ますかわかりませんが、叔母様の御期待に背かぬやう、最善を盡して働くつも

りでございます。それが會社に對して忠實な道ともなることを信じてをります。

職業婦人として世に立ちますについて、この先出會ふいろの困難や障礙にも、惑ひなく打克つてゆけるやうな

強いものになりたいと存じます。

いづれこの月末あたり、はじめて徳給を頂いた喜びを御一杯についでお伺ひいたします。

叔父様にも同卒およろしくおつたへ下さいませ。かしこ

叔母様私の就職についでお祝いのお手紙頂きました。有
 がつたうあじま原宮へ入社するお上りしてソレにお話し中
 上帯まうとあじま原宮へこの信を可憐いのおに信し
 自然まつ日曜も来る日曜も酔用に出水もきや今日
 でついでいそがしさをわけてた何と特にお許しあせ
 ませ

就職中のうらやまの市はさあ本當に有難くあ讀たは
 りしたお父親を先ひよした私にらるるをさよの市云氣地
 めにしみてうねるあせられやすやうやく職場の門をく
 らりすたならうがもう一ぱしの職業婦人になりあつた
 ちもりておの私でいよいよしたるおやにより職
 業生活とふりののりそんなよ調子のりのであつた
 と、強い責任感と大キい抱負をももたらしたる
 ならあいうともあつたうあつた

善力な私にどれほどのお力を出集まわううませ
 の叔母様ののりお徳よ皆うねわう最善をおして勤
 つもうていよいよあつた会社に勤しめ忠實な
 としあつたことを信じてううあつた職業婦人として
 ちますすについでこの是出念ふのりこの困難や障碍にも
 惑いなくあつてやあつたやう強いのよなうたいと
 じやあつた

お力このお月ああたうはじめて講録を預けたお力を
 叔に信んてお何いんたうあつた叔父様にも何をお
 しこあつたうあつた

就職を祝ふ返事

原宮一太文中に留す

お祝ひの手紙

入營を祝ふ

池田宣

いよ／＼御入營の由、何よりお芽出度きこととお祝ひ申上げます。國家の重責を双肩に負うて軍務に服せらるゝことは、日本青年として此上なき御榮譽と存じます。貴下様はいふも更なり、凛々しい御子息の軍服姿を御覽になる御両親様のお喜びいかばかりでございますませう。

祖父も大喜びにて、これで山田一家からも五人の兵士を出した芽出度い／＼と大満悦にて、昨夜はいつもより晩酌の杯も數重ねられたやうでございます。そしてあの老軍人らしい顔を明るい笑顔に崩しながら、あなたの小さかつた頃の話をまた／＼繰返して「あれは本當に元氣者ぢやつた。きつと立派な兵になるぢやらう」などと上機嫌でございますました。それを聞いてゐる私どもまで何か肩身がひろくなつたやうな心持がいたしました。

營内では諸事嚴肅な軍規に従つて御活動なさることゝ、さぞお骨も折れることございませうけれど、そのためお心もお體もいよ／＼鍛へられて、天晴れお國の護りに役立つ人におなりになるのですから、女ながらも羨しく存じます。どうぞ、祖父はじめ皆々、あなたの御入營をわがことのやうに喜んでゐることをお思ひ下すつて、軍務に御精勵、一生懸命に御奉公なすつて下さいませ。たゞ御體だけは十分お氣をつけになつて、御無理などなさらないやうに、後にお残りになる御両親様のためにお願ひいたします。

同封の繪は、弟があなたの兵隊姿にあこがれて描いたものでございます。弟は「兄さんが兵隊になつたら倍も十倍も好きになつた」と申して居ります。どうかお暇の日曜に一度お出で下すつて、弟のあこがれを満足させてやつて下さいませ。父母よりもくれ／＼もよろしくのことでございます。とりあへずお祝ひまで。

除隊を祝ふ

池田宣政

この度は芽出度く御除隊なさいましたとのこと、心からお祝ひ申上げます。御両親様はじめ皆々様のおよろこびさぞかしとお察し申上げます。

非常時國防の重い任務を負ふこの二年間の兵營生活には、さぞや私共の思ひもつかぬ御苦勞もあつたことと存じます。一生懸命御精勵の甲斐あつて、大勢の同輩を抜んで、上等兵にまで昇進されたこと、國家から天賦の優秀な青年としての折紙をおもらひになりましたわけで、お家にも輝かしい御報告がまいります。遅しなればあなたの双肩に輝く三つの星は、この先々あなたを勵まして力づける守札となつてまいります。遅しなればお迎へに参つた主人も、欽一君はほんとに立派になつた、あんな男の子が一人でも自分達にもあつたらと、羨しさに何度も繰返して居るのでございます。

どうか一度お泊りがけでお出で下さいませ。主人も私も娘も愉快な軍隊のお土産話を承りたく、お待ち申して居ります。御入營前主人が同伴してよく釣りに参りました秋川も、今年も鮎が多いさうでございます。主人は今、あなたと二人で驚くほど澤山鮎を釣つて見せると、釣道具の手入れにかゝつて居ります。

御両親様にどうぞよろしくお傳へ下さいますやう。ではお出でをお待ちいたして居ります。かしこ

病氣全快を祝ふ

岡本かの子

御病氣のところ御全快の由何より悦ばしく存じます。あなたさまはもと／＼お弱い方でなく、お體格から見ても随分御健康でおありの筈なのを、どこか内氣で神經質なところがあるに成りそれが氣鬱症にもさせ運動不足にもさせ易いと思ひます。昔からの言葉に「病は氣から」と申しますが、現代の常識から病氣を全部この流儀に解釋するのも乱暴ではございますが、しかし一應の眞理はあると思ひます。殊にあなたさまのやうな御性分の方に取りますれば、この度御全快のお報らせを頂き、もちろん御両親さまはじめ御近親の御介抱、名醫のお手當など十分お居きになられたこと／＼は存じますが、またあなたさま御自身の御氣の持ち方がお變りになつたことも、かなりの効果があること／＼、お手紙の御様子だけでもお察しすることが出来た。お手紙にはほどことなく明瞭にお力強いものが感ぜられ、もう大丈夫といふ氣持がいたしました。とは申せ、御安堵の餘り輕はずみをなさらぬやう充分御警戒肝要と存じます。お氣持だけは只今のまゝにて、なほ當分御精養御怠りなく願ひ上げます。

御全快お祝ひの印までに、志ばかりの品お届けいたします。なほ御両親様にもお祝ひ申し上げます。

片断的な文字

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

おととを
おととを
おととを

借金の申込を断る

歸郷した文中に...

十一月十五日
原より子へ

水物たる子

か

不在のお詫び

伊東 田宣

光子様

昨日は折角おいで下さいましたのに、二人とも出かけてをりまして、ほんとに申しわけ御座いませぬ。夜家を明けることなどほんとないでございませけれど、昨夜は珍しく主人が英帝冠式の映畫を見に申しますので、つい誘はれるままに出かけましたが、行きましたら恰度ニュース映畫はいま終つたところ、出るのも惜しい氣がして、つまらぬ封切ものを一本ほど見て表へ出ましたらあのひどい雨。さんざんな思ひで帰つくと、留守にあなたがおいで下さつたことをばアヤからさかされ、何といふ悪い日だつたのだらうと、がっかりいたしました。

どうぞ一度のことで、もうこりたなどおつしやらず、この次の土曜日に又いらしつて下さいまし、幸ひ前の日が月給日に當りますから、御返事がなければおいでときめて、昨日のおわびにもお好きな御馳走を澤山こしらへておまちしてをります。では、お詫び萬々その時に。

不參のお詫び

福田 正夫

先達はわざ／＼いらして下さつたのに、取込中で、御相談もゆつくり伺ふことが出来ず、ほんとに申譯ありませんでしたわ。役員の方端に連なつてゐるのに、此頃女子青年團のことゝいふと、何から何まであなたばかりにはたらかせてすみません。御承知のやうに外に女手のない家となつた悲しさ、

——こんなことでは……！

と心ではあせつてもどうにもなりませんの。どうぞ許して下さいませぬ。

あなたのお骨折には、いつも感謝の念がいっぱい——心の底では、泣いてありがたく思つてゐますのよ。このだけは察して頂きたいの、どうかお願ひしますわ。

それにしても、大切な今夜の集會だけは、どんなことがあつても、出るつもりで、前から心がけてゐるうちに、此頃中少し快い方に向いてゐた母が、昨日からわるくなつて、どうしても私が外されなくなつたの。不甲斐なくて、泣きたいやうな氣持ですけれど、苦しんでゐる母のそばをはなれる氣にはなれ、お母さん、今度は許して下さいませ。あなたがいらつしやりさへすれば、相談がまとまることも、私は信じて。では、皆様へも、あなたから、よくお詫びして頂きたく、取り急ぎ、かしこ

御無沙汰のお詫び

大村 嘉代子

其後は御無沙汰を申上げて居ります。日に増しお暑さにむかひます。御両親様にはおさほりもなくお過しであらうしやいますか、例年お父様の御丹精になります懸望、今年も御見事に出来ましたか、花壇の花はいかゞでございませう。さぞいろ／＼咲き揃つて美しいことで御座いませう。御二方様の御丈夫なもの一つには朝夕花壇の御世話が、おからだのおためにおよろしいからだと存じます。先日友達の家へまゐりましたら、そのお父様が有名な朝顔つくりのかたどさうで、まるで牡丹の花のやうな朝顔が咲いて居りましたので、早速種をいたゞくやう御願ひしておきませう。火こは御送り申上げます。

昨年お父様のおともをして、を今から並べてこゝ致し、先日主人がお父様にと

歸郷した文中に歸來を催促する(返事)

おれいといふるを長きお時を
お土をよむに似て去るに
おれいといふるを長きお時を
おれいといふるを長きお時を

又思ふに市手紙を
おれいといふるを長きお時を
おれいといふるを長きお時を

おれいといふるを長きお時を
おれいといふるを長きお時を
おれいといふるを長きお時を

おれいといふるを長きお時を
おれいといふるを長きお時を
おれいといふるを長きお時を

おれいといふるを長きお時を
おれいといふるを長きお時を
おれいといふるを長きお時を

おれいといふるを長きお時を
おれいといふるを長きお時を
おれいといふるを長きお時を

おれいといふるを長きお時を
おれいといふるを長きお時を
おれいといふるを長きお時を

あ

病氣のさるゝは快の由何ぞ悦むとぞぞ
すあるはさるゝは快くおよい方ひたすお侍格の
見ても随分健康でおありは若年のさるゝの内業で
神格候なとさるゝおほいになりそはの業禁症にもせ
運動不足にもせ易いと思ひます若かりのさるゝに病
を業のさるゝと申すは現代の若衆の病業を
しめし一應の生理とあると思ひます殊々あるは
のわくを市性分の方と取らるゝは

さるゝは快のおおれしを伝はれろんは親を
さるゝは親のさるゝ抱名留めのおもあたるは十分お侍に
なりはたさるゝはあはれまたあるはさるゝはあはれ
のさるゝの持ち方がお變りになつたさるゝはあはれ
軍のおあはれさるゝはおおれはさるゝはあはれ
するさるゝはあはれ

お手紙はさるゝはあはれさるゝはあはれ
さるゝはあはれさるゝはあはれさるゝはあはれ
とは申せは安堵の餘り
さるゝはあはれさるゝはあはれさるゝはあはれ
さるゝはあはれさるゝはあはれさるゝはあはれ
さるゝはあはれさるゝはあはれさるゝはあはれ

さるゝはあはれさるゝはあはれさるゝはあはれ
さるゝはあはれさるゝはあはれさるゝはあはれ
私にさるゝはあはれさるゝはあはれさるゝはあはれ
さるゝはあはれさるゝはあはれさるゝはあはれ

病氣全快を祝ふ

新築を祝ふ

大村 嘉代子

初秋の風の身にしむ頃となりました。
 いよいよ御新居落成で御移轉になりましたさうで、おめでたう存じます。
 茶道に深い御趣味をおもちのあなたのことですから、どんなにか風雅なおすまひでせう。ことに武蔵野のなごりの海を、その土地にあるがまゝでお庭の中におとりいれになつたといふことは、何ふだけでも羨しさの限りです。これらの月の夜、虫の音の美しい頃などどんなによろしいでせう。
 武蔵野と、名は聞けばかりで、大變遠いやうに存じてをりましたら、乗物の便利も大變およろしく、日用品のお買物にもすぐお近くでお間にあひますところと承つて、そんなに好條件ぞろひのところならと、主人も少々ばかり食指をうごかしかけてをります。御新築祝ひの折りは、ぜひ主人同道お伺ひさせて頂きます。
 別送の花瓶、お祝ひのおしるしまでに御覽にいます。あなたの御趣味に添ふやうに、せいゝ風流な品を選んだつもりです。何しろ無風流なもの、私の見立、あなたが御覽になつたらお笑ひになるかも知れないと思ひますが、然しこの私が、兎も角も心愉しく二日ばかり歩きまはつて、これならと選んだ心持をおくみとり下されば嬉しうございます。まづは取りあへずお祝ひまで。

開店を祝ふ

奥むめお

いよいよ三月一日より婦人子供服店を御開業のよし、何よりおめでたうございます。
 長い歲月、涙ぐましいまでの御努力が實を結んで、立派に役立つ日を迎へました喜び、わが事のやうに私も嬉しく、衷心よりお祝ひ申上げます。遠い筑紫の空から、三月一日がどうか明るく晴れるやうにと、待ち祈つてをります。どうぞしつかり御奮闘下さいまし。あの店ならではの、名指しを受けるまでに信用第一の人氣をお集めになつて下さい。田舎とはこと變り、いろいろの人が多く住む都會の商賣は、誠實と氣轉一つで、どのやうにも發展の道があるものと伺つてをります。お思ひつきのよいあなたの御計畫で、どんなにお店は異彩を放つてゐることとせう。あのはきゝと可愛いく雅子ちゃんを助手にして、鈴蘭屋の店先に立たれるあなたの雄々しいお姿が、はつきりと私の目に見えるやうな氣がいたします。
 このおめでたい紀念に、何が心ばかりの品をと、いろいろ思案いたして見ましたが、いゝ智慧も浮はず、かてゝ遠方のことでもございすし、まことに失禮とは存じますが、金十圓也小爲替にて同封いたしました。開店のお店飾りの費用の一部にお加へ下さいすなら、うれしうございます。
 御開店の日も間近になりまして、あれこれとお忙しいことと存じますが、御忙しに任せ御無理などなさらぬやう、雅子さんにもおよろしくお傳へ下さい。では、鶴首して、うれしい第二第三のおたよりおまちしてをります。
 先づはお祝ひまで。かしこ

壽賀を祝ふ

圓地 文子

秋雨しづけき折柄、先生初め御一同様御機嫌よく御起居遊ばされ候や御伺ひ申上候。いつも心には念しながらついで手前事にかまけて御無沙汰のみ申上げ誠に申しわけ無き次第に御座候。
 さて、先日同級永田すみ子様、藤井美代子様御連書の御手紙にて、先生にはこの度御目出度く古稀の御誕辰を御迎へ遊ばされ候。おもむき拜承、いつしらず御節御重ね遊ばされ候御事よと、喜びの中にもうち驚かれ申候。私的な今年度の春高等學校に入學致候。長男をもちながら、先生の上のみいつまでも學園にて親しく御薫陶を蒙りし頃のお若き姿を思ひうかべては、懐しくお慕ひ申上げ候もかしき事に御座候。
 御目出度き御祝ひに是非參邊致度く存候へども、何分遠隔の住居にて相かなはず、まことに残念に存じ候。
 只私心の心ばかりの御祝ひのしるしに、手作りの御胴着一組別便にて御送り申上候間、御笑納賜はり度く候。まことに不細工なるものに候へども、眞綿は故郷より取りよせ、充分お暖かくお召しよろしきやう工夫致しおき候へば、多分御普斷着の下にお重ね下され候はゞ嬉しき事に存上候。
 猶々、この上ともに御健勝、喜壽、米壽の御喜びをお重ね遊ばされ候やう御祈り申上候。
 御祝ひの御慶びまで謹んで申上候。未ながらみなく様によりしく御つたへ願上候。かしこ

秋雨し初けき折柄先生初めの一周年市権嬉飛
 以銀座遊を々々なりや少頃中よる以有七心よは念志
 ながらついで、いあるにこのまを布て以善由所のみ中と希
 誠り申志わ希善子以有に以度有

さて是日同級永田すみ子様藤井美代子様市権在玉の
 以手紙よて先生にわこの及以同出夜々古橋の以証辰
 を以由く遊を々々礼おひむきお承りしとす以敬由善収
 遊を々々礼おひむきお承りの中にもう七喜う以中私
 今季の書言本学秩に入学致れ長男をもおなごり先生の
 上のこ以有まが学園にて親まう以善由を蒙り三頃のお若ま
 安を思ひうけては懐まうお慕ひ中とすわをわ休もさうの
 きるに以度有

市目出なま少祝ひよ是心無端致存く存たへとも何分
 意満の位店にておのなをすまことに強念に感じし
 只私の心ぞううれ祝ひのまうに以作りの以細意一
 ろ便まう以送わ中とす有以笑納物をうなうおまこと
 不細工するものよおんども其縁を故郷と取りよせ光
 分お暖まうお居くよるま手やうエを致しおまこと
 以善由意の下におまぬまわ有るう嬉しやるに
 取上り程この上とたに以健勝意善由善由の以善由をお重
 収極を々々礼おひむきお承り中とす
 市祝ひの以善由を以讀て中とす未たうらみる、以
 によらまう以つたへ無上儀 一のこ

お正月に友を招く

三津木貞子

その後ごきげんいかゞでいらつしやいますか。
 さて正月七日は祖母の誕生日なのでいつも七種を賑やかにお祝ひするのでございますが、今年には特にその古稱の賀をもかねて、せい一ぱい賑やかにお祝ひをしようといふことになつて、私たちごらんの通り兄弟姉妹がめい／＼のお友達をお招きして、若々しい気分分度祖母をよろこばせようといふので、私からは第一番にあなた、それからふたりの仲よしことですから、極くお親しい方々に限るといふ條件つきです。私からは第一番にあなた、それからふたりの仲よし君島さまと牛田の悠紀子さま、あなたには御弟妹みな様でいらつしつて頂きたいの。そして願へば寛子さまと園枝ちゃんには童謡踊をお願ひ致したいと思つてますけど、勝手すぎませうか。いつも會館に御出演のお手並をうちでお囃すのを、外出の出来ない祖母がその度に残念がつてをりますので、座敷ではお踊りになりたくいでせうけれど、一度拜見させていたゞければ祖母もどんなに喜ぶことかと存じます。こちらでは父の謠に母の仕舞その他餘興澤山ございしますが、まづまづ天機もらすべからず。

なほ、これは餘興にも即興にも當りませんが、園藝好きの祖母が秋の頃から丹精して居りました春の七草を、硝子戸の内の縁側に大半を箱庭にして作り込みましたのが、摘草に丁度頃合の新芽をこみ合せつゝ萌え出て居ります。祖母は今から日の深く射し入る部屋一杯に絳毛氈など敷きつめて、野遊びのお辨當かなんそのつもりで、秘蔵の蒔繪のお花見重箱を撫でながら、七草にはお嬢様かたと摘草あそびをすると申して、ひとり頬をへこませてほくほくして居りますよ。こんなことあなたのお氣には召すかも知れませんが、その日を樂しみにお待ちいたして居ります。

お正月に友を招く (返事)

三津木貞子

七草のかをり床しき御招きありがたう存じあげます。御言葉にあまえ、御指圖のメンバー引具し推察いたしましたませう。年の始めに御長壽の匾のこやかな御顔を拜しますこと、ほんたうに幸福なことでございます。

わたくしたちも、せい一ぱい踊つたり騒いだりさしていただきます。
 かねて御祖母上様が女性のお身に稱らしき園藝に御堪能なことをうかゞつて居りましたが、春とは言へ、まことは寒に入つたばかりの嚴冬で地は朝々の霜ばしら深く、草の芽など根もとの土ふかく隠れて角も出し得ぬころ、七草摘みが出来まことはほとほと若いもの顔色なしてございます。歌にきくだけでその草状を知らなかつた、

せりなづな ござやう はこべら ほとけのぞ すずな すずしろ はるのななくさ
 を手づから摘み、それを知ることもしみの一つでございます。

お當日はいろ／＼御用もございませうと存じ、私だけ少々早めにお伺ひいたしますから、お手傳ひをさせていたゞきたう存じます。

誕生日に友を招く

矢田津世子

珠子様

ずるぶん御無沙汰しましたわね。あなたは不相變お元氣ですかしら？英語の勉強休まずお通ひになつてゐますの？ゆふべ母と用達しに出て、夜ふけてあの道を歸つたら、不意に、木屏のにはひがして來るではありませんか。あなた方をお送りしてよく歩いたあの思ひ出の道にですのよ。さうしたら急に、皆さんにおあひしたくなりました。考へるとこの春學校を出てから半年あまりになりますのね。何かにつけて思ひ出すのは仲よしだつた五人組の事です。丁度十七日の日曜は私の誕生日ですから、久しぶりで皆さんにいらして頂いて、春から一杯たまつてゐるお話を伺ひしたいと思ひます。お招きしたのはあなたの外にみね子さん、琴枝さん、葉子さんと五人組がみな揃ふ譯。それに従妹が二人入つてゐますけれど、どなたも皆御存じなんですから、ちつとも御遠慮いりませんの。どうぞ、學生時代にかへつたおつもりで、氣輕にいらして下さいませ。皆で思ふ存分遊びませう。おそくも二時まではいらして頂いてお夕飯はこのごろ少々自慢の私の手料理でさし上げると決めてゐますから、お家へさういふ風にお断りになつていらして下さいませ。あなたが一番お遠くにお氣の毒ですけれど、お歸りは車でお送りしますから、雨降りでもぜひいらして下さいませ。おまちしてゐます。

すねぶんの巻ゆ所しよまうたもねあるたもふお愛
 おえ草ですのしらり、葉路の勉修体も考お通ひよ
 ちんそねまほの？
 ゆふへ母も用を建しに出て和ふけやあのを道を通つたら
 不こうよ本存のにおひのしして来らうはありませんこのあるい
 方をお送らうしそらくあいたあの思ひ出の道にですのよ
 さうしたら多うよ皆々んにおあひしたくになりましたの考へ
 っつこの考考特を考てやら半手あまりになわまのね
 何うよつけと思ひますのは沖よりならた五人組のりです
 丁度十ちるの日は曜と私の生まるですのりえいぶわど
 皆々んよいらして頂ソと喜のら一杯たまををわお話
 をお便ひりたいと思ひますお招きしたのはあるこのお
 にこね子さん無枝さんおふ子さんで五人組のみる掛ふ味
 そ水よ送味の二人入つてぬを考け斗どをなたも皆存
 いちんですのらちんともい趣お電いわまさんのどうおせ
 時代ようつたおつちりて草鞋よいらしてりさいよ皆々
 思ふなを考ひませうおおれよ七二時よよいらして頂
 ンてお夕飯をいあふ少く自慢の私の子料理でナ上
 ちると法知を考ますのらお家へさうふれよお断り
 になんそいらしてりやい
 あるたご一書お遠くにお草の毒ですの斗をわお悔り
 を申でお送らうしますのり雨降りごせむいらちん
 さいやーねおまちまらおまを考

鎮守祭に招く

白鳥省吾

夏とは申せ朝夕は大分涼しくなりました。皆さまお變りもございませんか、さて来る八月二十日は町の八幡様のお祭でございますから、何のおもてなしもございませんが、どうぞ御子様達を御連れしてお泊りがけにてお出で下さいませ。お待ち申して居ります。今年は隣の値段も宜しく、また青田を獲めるやうですが、作物もどうやら良いらしいとのこと、町にも明るい和やかな気分が溢れて居ります。それに昨年満洲の守備兵として町から五人も赴いて、いづれも揃つて無事凱旋したのも八幡様の御蔭といふわけで、催し物としては、晝は放祭の草相撲も例年よりは盛大にやるさうですし、夜は名物の神樂がございます。

今も昨日のやうに思ひ出されるのは、あなたがお嫁ぎになる秋の祭の夜のことです。あれから、つひぞ、御一緒に鎮守祭に詣る機会がございませんでした。ほんとうにこの町の神樂は名物だけあつて、誰でも原始的な神代の神々の粗脚さが現れてゐると感心いたします。あの晩も一夜で足袋を一そく踊り切るといふ青年達の牛蒡のやうな指に笑ひころげたり、黒々と茂る老杉の上の空に、金砂子を撒いたやうな星や白々と煙つて流れてゐる天の川を見つけて話し合つたりしましたね。

月日の経つのは早いもの、もう御長男の順一様も中学に御入学のよし、綾子様もどんなにか御可愛ゆくおなりでせう。見事な御成長のお姿を拜見したいものです。私の處の美代子も町の女学校の二年生になりました。私より背丈が高いくらゐります。伯母様がおいで下さいましたら、學校で習つた料理の腕前をお見せするとかで、今から献立を作つて居ります。しかしその不味かるべきことにお怖れなくお出で下さいませ。

いづれお目もじの日を楽しみに。お姑さま、御主人さまに末ながらおよろしくお傳へ下さいませ。

あら／＼かしこ

鎮守祭に招く(返事)

白鳥省吾

おんなつかしきお便りありがとうございました。思ひながら家事にまかけ御無沙汰にのみ打過ぎました、何卒お許し下さいませ。このたびは鎮守祭の御招きありがとうございました。御言葉に甘え順一、綾子もひきつれて御邪魔に出ますから何分よろしく御願ひ申します。

まことに御手紙のやうに乙女の日が今更ながら懐かしまれます。私もあの夜に仰いだ銀河は忘れられませんが可笑しくて笑つた涙が、乙女の日とわかれる感傷の涙が、過ぎし日はたゞ夢の如しと申しませうか。

それにこちらは漁村のせむか、波の音をききながらも、時折り山里の気分が戀しく、あなたの町や鎮守の森やそこから見える遠い山々が目に浮ぶことがあります。

何年かぶりであなたにお逢ひし、そしてあの八幡様の社殿にぬかづけることも喜びでございます。子供等も前の泳ぎにも飽きて、夏休みも稍々倦怠の頃、嬉しいお招きを頂戴し、それこそ欣喜雀躍して居ります。

それから、美代子さんには一つ大きい鯉を持参、御手並を拜見しようと皆で今から興じて居ります。それからもう一つの名案は、私達の隣りにはあなたと美代子様をこの濱邊へお誘ひしようといふことです。これもそのつもりで御用意遊ばして下さいませ。

クリスマスに招く

ささきふさ

お上越はもう相當の雪と承りましたが、スキーにはお出かけになりましたか？ 私は兄が學校がありますので暮までお帰りの予定です。

いつかのクラス會の時ちよつとお耳に入れておきましたうちのクリスマス、廿一日午後六時からと、極りましたから、お隣はくり合せの上是非々々御出で下さいませ。今年父の發案で、昔の日曜學校の同級生全部の方に集つていただくことに致しました。五年前教會の教壇に並んで歌つたクリスマス、キヤロルを皆でうたはうといふのです。ひさ子さんやまち子さんはどんなおすまじな顔をなさるでせう。勇ちゃんや楠雄さんはバリトンでせうか、それともバスに變つたでせうか。あの時小さな手でオルガンをお奏きになつた貴女には、どうしてもピアノを受持つていたとかなければなりません。

これではお招きするのだか、押しつけるのだか判らなくなつてしまひましたが、私は母から當夜の主婦の大役を仰せつかつてしまひましたので、とても伴奏どころではないのです。貴女に弾いていただく代りに、御馳走は腕によりをかけてするつもりです。だからどうかお腹を空かして、正六時には食卓につけるやうにお出かけ下さいませ。スキー行のお打ち合せもその節出来ること、楽しみにしてをります。

ではそれまでに間違つてもお風邪など召しませぬやう。お願ひを兼ね、お誘ひまで。かしこ

雪子

お葉お様

と紙をもうお葉の書と似たりました。スキューにはお出
しを市にあげわきしての。私を忘るうが、お葉が
書まじは滞めておましますの

いぬのけくらゐの時の時、お葉は入札をおまします

たうてのクリスマス廿一日午後、お葉は極くおまします

よりお葉をよめ合せの上、お葉は出で、おまします

年一も父の書、お葉の日は、お葉の同級生を部の方

に集うて、お葉は、おまします。お葉の教壇

よそで、お葉は、おまします。お葉は、おまします

ふのです。お葉は、おまします。お葉は、おまします

を、お葉は、おまします。お葉は、おまします

そ、お葉は、おまします。お葉は、おまします

かしを、お葉は、おまします。お葉は、おまします

て、お葉は、おまします。お葉は、おまします

これ、お葉は、おまします。お葉は、おまします

く、お葉は、おまします。お葉は、おまします

ま、お葉は、おまします。お葉は、おまします

に、お葉は、おまします。お葉は、おまします

お、お葉は、おまします。お葉は、おまします

ま、お葉は、おまします。お葉は、おまします

や、お葉は、おまします。お葉は、おまします

クリスマスに招く

雪子

壽賀の宴に招く

茅野 雅子

拜啓、菊のたよりもそちこち聞え、爽やかな季節となりました。お宅様にては、皆様お揃ひにますます御元氣の御様子、何よりと御よろこび申上げます。

さて、いつぞやお越し頂きました折も一寸お話し申上げました通り、今年父の還暦に相當いたしますので、内々心ばかりにて祝ひをいたしたいと存じます。御承知の通り、萬事質素な父のこと、殊にはこの先一仕事も二仕事もいたすつもりと見えまして、わしの祝ひなどいらんと、言ひ張つてをりましたのを、娘たちが是非にこのことにて、やうやく許しが出ましたやうなわけでございます。つきましては、お出で頂きますのも、あなた様の他には本家と、上原の家と、今里の家と、ごく内輪だけにとどめまして、長年の父の奮闘を慰め健康をも祝ふ意味にて、儀禮ぬきのお集りにいたしたく存じます。

右様のわけにて、日は父の誕生日の本月十五日、場所は私の宅にて午後二時よりと致しました。小さい方の多い方が賑やかでよろしく、父も元氣な孫たちの打ち揃つたところを見ればさぞかし満足と存じますので、ぜひ美保子ちゃんも春雄さんもおつれになつて、御出かけ下さいませ。本家の芳子さん、一夫さん、今里の百合子さん、上原の花子さんも皆々お揃ひになりますと伺ひ、父は父にて、この頃少し御自慢の謠ひを皆さんの御聞きに入れるつもりらしく、子供たちは子供たちにて、皆揃つてお祖父様をお相撲で負かせないかなど、その日を楽しみに致してをります。

私お伺ひいたしまして申上げる管でございすが、日頃むさくるしき庭を少々手入れいたしますので一寸外出いたしかねまして、失禮ながら手紙にて御案内申上げます。末ながらお姑様にもよろしく御つたへ下さいませやう。右御案内まで。

壽賀の宴に招く(返事)

茅野 雅子

お手紙ありがたく拜見いたしました。

さてこの度は御伯父上様御還暦の御宴お催しのよし、おまねき頂きましてありがたくあつく御禮申上げます。かねてより承つてはをりましたが、いつもながら御元氣の様子を拜見し、まだ先きのやうに存せられましたことにて、義雄もおどろいてあるやうでございすが、まことに御めでたく、心より御よろこび申上げます。

幸ひ當日は土曜のことではありおちい様のお元氣にあやからせ度く、皆で賑々しく何はせて頂きます。尤も義雄は會社の都合で少しおくれるかも申してをりますが、どうぞ御ふくみ頂き度う存じます。

なほ前々から今日の御慶びの日のために、何か記念の品も心がけてをりましたが、ついまだ思ひつきもございませんで、手製絞り染の長襦袢を一枚お届けいたし度く存じてをります。まだ習ひはじめの事にて、色も思ふやうには出ませんでしたが、心持だけをおくみとり下さいまして、御不斷着の下になりとお重ねになつて頂き度う存じます。芳子よりも毛糸のシャツをさし上げたいと、大急ぎで編んでをります。少し宣傳が過ぎさうでお笑ひ下さいませ。何れお目にかゝりました上萬々御よろこび申上げます。義雄よりもおよろしくと申出てをります。めで度くかしこ

新築祝に招く

山中峯太郎

堪へがたき寒間のお暑さも、どうやら朝夕は暖かくなつてまゐりました。皆々様お揃ひお元氣にて御避暑さきよりお歸りの御由、御悦び申上げます。さて、いつぞや申上げました私どもの住居も、漸く本月七日に出来あがりましてございす。就きましては、来る十八日、お親しき方々をお招き申上げ、心ばかりの新築祝をかね粗飯さしあげたく存じます。どうぞ當日五時までに、皆々様お揃ひにてお運び下さいませやう、御待ち申上げてをります。

加瀬工務所の新進技師の方の行届いた御設計にて僅かな坪敷にもかまはらず、思ひの外に住心地もよろしく、濕氣の多い海濱でございすのに、窓の具合、樹木の配置まで、いろ／＼と苦心して頂きまして、此の上もなく感謝いたしてをります。主人の鼻高々なのは、書齋の内部の新考案とやら、これは御覽の上、ぜひ、御批評頂きたく存じてをります。いかに物ぐさとはいへ、寝たり起きたりは申すに及ばず、入浴も食事その他の用もボタン一つですみませ仕掛にて、人欲しがりの本人が、幾日この部屋に籠城できますことやら、をかしくらんでございす。

ともかく費用も少く、その割に好き出来ばえと存じまして、當日は技師の方その他もおいでの上、打明けて、御説明くださることにいたしてをります。

どうぞ御普段着のまゝ、萬事お氣輕にお越し下さいますやう、では、お待ち申上げてをります。先は御案内まで。

堪へうたるやい書留のおまをいともうやら物々を渡やう
なうとすおまうした皆極お揃いおえとまにてう廻りさ
きとれお揃いの自由で悦び中と布ますしやうつらや
申と布すた私どもの住居も漸く本月七日に出来あう
至りうてうさいます然さすしては来る十八日お親し
方にお招き申すを布心をうのの新築祝をうぬ靴飯
さしあを布たくあしますうとるを布ぬ五時までに皆極
お揃いうてお遊むちさいますやうお揃ち中と布をうま
す

加瀬工務所の新造技師の方の納届いたう設計にて働ら
な坪敷にもう、もう布思ひの外よほ地もようき温業
の多い海濱で、いいますのに窓の合樹木の配置
下うあくと苦心しを思ひうて此の上にもう感
つたうてをうまほ主人の鼻高くなるのはお富の由部
の新考案とやらこれをお境の上せん御批評頂き
たく存ぞうをうますいふは物ごうとはつく寝たり
おやたりを申す及ます入浴も合す、その他のもも
ボタレ一つですみますは掛にて人欲志づりのお人の幾
この部屋に張床下きますうとやらをういふらあてこ
さいますうともうのう費用も少う、その割に好き出来は
えと係しうますう、あを技師の方その地もおいでの上
おめり御説明くださるうことにおきうてをう、ま
う、お富お喜のよう、お富お喜にお誠しうさい、ま
やうではお待ち申上りてをうます先とら案内まで

法事に招く

大妻コタカ

謹啓 日ましにお暑く相成り候へども、お宅々々様、ますく御元氣に渡らせらるゝ御事と存じ上候。さて、来る七月十二日は、亡母（梅照院妙光大姉）三周忌に相當いたし候へば、生前御親交賜はり候方々の御來臨を願ひ、午後六時より拙宅に於て、心ばかりの法要相嘗み粗飯さし上げたく存じ候間、御多忙中、かつ御遠路をまことに恐れ入り候へども、御光來下されたく、右御案内申上げ候。追て、暑中のことに候へば、御みなりなど御氣輕にお出向き下され候やう、當方もその心組みにて時刻もおくらせ候ことなれば、何卒その邊おふくみおき下され度願上候。

全快祝ひに友を招く

岡田禎子

濱子さま。三月目に、からして自分の手にペンをとるのですわ。あゝ本當に、たうとう快くなりました。とび上りたくて、あばれたくて、起きて見る世の中は何といふ新鮮さでせう！ お部屋の前のは縁は、毎年こんなに黒々と堆く茂つてゐたのでせうか。網の目を見るやうな小枝に、紅色の露のやうにこまかく芽の吹いてゐるのを見たのが最後でした。何といふひどい病氣をしたこととせう！
病中は、お忙しいところを度々お見舞ひ下さいまして有難うございました。ほんとに今年には、あなたのお贈り下さる花で、春から夏へ、季節の移り替はりを味はつたのでした。ほけ、連翹、彼岸櫻と、かういふ頃の三度は、丁度高熱の盛りでお目にかゝれず、後に母から、もう花はなくなつて、稚葉の伸びかゝつてゐる、御好意の枝を見せて貰つたのでした。そして四度目、あの、大輪の桃色椿を頂いた日、ほんとにあの時三週間目で初めてお目にかゝられたのでした。

面會が許されて最初に見たお顔があなただつたのですわ。あの、お馴染の、青地に濃緑の芭蕉の葉の浮出したお羽織を召して、すつと這入つていらつしたあなたを見た時、あゝほんとに危なかつたと、助かつたことの喜びが初めて身にしみて感じられたのでした。ほんとにあの時に感じた、生きた世界にゐるのだといふ、身顛ひするやうな印象は、生涯忘れることが出来ないでせう。活を入れられたやうに、あの瞬間から私はしやんとして、めきめきと快くなつたのでした。御丈夫なあなたに引張られて、私もこの世に立戻る、そんな心地でした。こんなこと、もう幾度も申しましたわね。でも、書くのは初めてですからかんんして。
久しぶりにペンをとつた嬉しさに御用を忘れるところでした。母が床拂ひの祝ひをしたいと申しますので、お忙しいところを重ね重ね御迷惑とは思ひますが、あなたなしでは意味がありません、どうかお加はり下さいませ。ほんの内輪の、従妹達とお友達許り、何時もの誕生日のお客様許りですから、何うかお氣輕にお出かけ下さいませ。來月六日の午後一時頃までに、四時には散會いたしますから、お家へはそのやうにお断りおき下さいませ。それでは後はその節として。 ———— かしこ

全快祝ひに友を招く(返事)

岡田 禎子

規子さま。
御全快お目出度う、ほんとにほんとにおめでたう。あなたは、私があるあなたをこの世へ引戻した網でもあるかのやうに仰有いますが、私は又、かうして、ほんとに久しぶりの御自筆を見てみると、自分の生命が倍にも増えたやうな氣がします。心からもう一度お目出度う。
お祝ひにお招き頂いて有難うございます。必ずお伺ひ致します。丁度御病中にお誕生日があつて、毎年の楽しい行事のひとつがぬけて、そんなことも随分私を寂しませてゐたのでした。當日は、あなたの御健康許りでなく、私達の元氣の毒回會のつもりで、大にお祝ひいたしませう。

ほんとに今だから申上げられるのですけれど、お母様のお心盡して枝を活けておいて頂いた、ほけ、連翹、彼岸櫻、あゝいふお花を持つて病院をお訪ねした頃の私の心持は、丁度世間は浮立つ頃でせう、學校時代からあなたとは毎日のやうに思ひ出のある季節ですもの、思ひ出しては、途方にくれて、泣く許りでした。
あんな涙も取返へしたい。本當にうれしい。でも、起きて見る世の中の新鮮さに、あんまり有頂天になつて、病後をおしくじりになりませぬやう、御用心に御用心を願ひ上げます。ではその節に。 ———— かしこ

花子ちゃん

非常快お同き夜うおんとは思ひとよおめがたうあ
なくは私があなただこの世へ引知した縁で、もある
このわくに信有いすすの私を又かうきそはんとよ久し
ぶめ此ら身草を足ておるといひ分の生命の信にも培えた
やうなふまのさすす心うらむう一度お同出度う

お祝ひよお招き頂つて有難うございませう必ずお伺い
致しませう丁度病中にお返生るがあらそあ年の出い
りすのいとらおぬきそんをこも随分私を寂ま
せせておたのげした日はあるこのは健康許りてる
私達のええ業の奪田念のあやめがたつよお祝ひつたし
ませう

おんとよ今だうら中上ちりりですませいお母様
のお心盡しで枝を治ちておそ頂つたはちり連翹彼
岸楼あいソふお美を替うて病院をお訪ねした頃の私
の心持を丁度世帯を治ちる頃をせうそ我時代いらあ
なたとはあるのわくに思ひ出のある季節下すもの
思ひ出しては毎方よそれを泣く許りでした
あんな涙も取返さした
あなまうねい

でもおきてくる世の中の新鮮さにあんなう有頂
天よなうて病後をおくごちりにあなまをぬやう市用
心りし心用心を頼む上もませう

ではその書に――

か――こ

寒中見舞

北川千代

寒に入りましてから、急にお寒さがきびしくなつたやうに存じますが、お母様の御持病の關節リョウマチは、この寒さにお痛みが加はりませんでせうか、お案じ申上げてをります。

それにつけて前々から、何かお膝の冷えをふせぐ好いものはないかという考へてをりましたが、先達てふと女學校時代の友だちにあひました折、さまざまの話の末に、その人の知人で東の飼育をしてゐる人があり、好い毛皮の製品が安く願めるといふ話をききましたので、お母様のお膝かけにいかゞと存じ、早速真綿入りの毛皮の膝かけを注文いたしました。それが昨日やうやく出来上つてまゐりましたから、お寒さのお見舞のおしるしまでに、別便にてお目にかけてました。此方からさし上げるものを可笑しうございますけれど、昨夜主人が急ぎの調へ物をいたしますのに失禮してお先きに一寸拜借してましたところ、膝がほかほかとして暖かく大變工合がよかつたと申し、床子にしては大成功だ」とほめて下さいました。ほんとにこれが少しでもお役に立つて、お母様のお膝のお痛みが軽くなれば、本當に嬉しうございます。どうぞお食事の時もお縁側の日向でつぎものなど遊ばす時も、お膝をおくるみ下さいまし。

主人は今度會社が増資いたしますについて、かなり忙しうございませうが、夏以來の冷水摩擦をつづけてをりまするか、六百匁ふえたと申します位で、二人とも元氣で風邪一つひかずにをりますから、こちらのことは御案じ下さらず、どうぞ御自愛專一に祈り上げます。春お暖かになりましたらお出かけ下さいますやう、こんどの家は庭もひろく、二階からの眺めも大變よろしうございますから楽しみにしておいで下さいませ。お待ち申してをります。

殘暑見舞

長谷川かな女

暫く御無沙汰申上げて居りました。皆様お變りなくいらせられますか。

そろ／＼伯父上様御活躍の釣シーズンが近づきますのに、今年暑さがいつまでも去らないやうでございます。伯母様はお障りもございませんか。私などは酷暑の際よりも意氣地なく、虫干なども秋口の仕事に殘して置き、未だ一向に手もつけませんで日々ぐづ／＼して居ります。然し日没の後にはさすがに縁などに居りますと、冷たさを覺えて思はず襟をかきあはせることもございます。御老體にはなか／＼御油斷のならない時候でございます。

私共ではこの前伯父様がお分け下さいました、夕顔の苗を見事に育て上げてまして、薄闇の中に思ひがけないほど白い花を開きますのを、この夏の中の眺めいたしました。その花の季節も終りにちかく、お禮には少々遅れましたが、殘暑お見舞がてら、虎屋の羊羹に靜阿より到來の掬茶少々をへてお届け申します。伯父様とお二人であの北窓の靜かなお部屋で召し上つて下さいまし。そろ／＼あの窓下の秋も物寂びた花をつけはじめたこと、午後の暑さに浸ききれなくなる、いつも思ひ出します。秋には今年も主人の丹精の菊を見がてらお二人お揃ひお泊りがけてお越し頂きたく、皆々おまちいたしてをります。私もその頃までには元氣に立ちかへります。

暑中見舞

伊福部敬子

ことの外きびしいお暑さでございますが、先生にはお障りもございませんか。もうそろ／＼學期試験で、さそお忙しくいらつしやること、存じます。私共も昨年までは今頃になりますと、毎日あの虞美人草の眞赤に咲く後庭に集つては、試験のこと、夏休みのことばかり話しあつてあつたのをなつかしく思ひ出してをります。

今年も試験の苦しみもございません代り、夏休みを指折つて待つ楽しみもございませんが、おかげ様でいつも元氣で毎日家事に精出してをりますから何卒御安心下さいませ。學校にをりました頃、手をとるやうにして教へて頂きましたおかげで、お料理もどうやら皆にみとめられまして、この頃はお台所を一人で引受けてをりますが、一日中忙しく働いてをります家の人々を、今日の夕食には何をこしらへて喜ばせようかと考へますただけでするぶん楽しく、働き甲斐があるやうな氣が致してをります。

この間、お花のお稽古の歸りだといつて、久しぶりに山川さんがお寄り下さいまして、二人で先生のことや、學校の事や、同級生のことなど、いつまでもお話し致しました。

秋になりましたら、ぜひ一緒に學校へおたづねする約束をして別れました。

九月早々、つれ立つてお伺ひ申上げます。あのポプラの見えるなつかしいお教室で、その後のいろ／＼なお話し承りたりございます。どうぞ十分お暑さおいとひ遊ばしますやう。かしこ

あつておましたの
 出まよせしの
 帰のときよおを
 ますのよ

とりあへず御返事まで
 御返事

あつておましたの
 出まよせしの
 帰のときよおを
 ますのよ

あつておましたの
 出まよせしの
 帰のときよおを
 ますのよ

あつておましたの
 出まよせしの
 帰のときよおを
 ますのよ

あつておましたの
 出まよせしの
 帰のときよおを
 ますのよ

あつておましたの
 出まよせしの
 帰のときよおを
 ますのよ

あつておましたの
 出まよせしの
 帰のときよおを
 ますのよ

あつておましたの
 出まよせしの
 帰のときよおを
 ますのよ

あつておましたの
 出まよせしの
 帰のときよおを
 ますのよ

あつておましたの
 出まよせしの
 帰のときよおを
 ますのよ

分 後 巾

お
の
手
紙

就職の依頼を断る

豊島與志雄

一昨日はたへん失禮致しました。あの御思ひを下さしました結構なお菓子、あれをいただいてしまはない御返事を差上げたいと思つてをりました。お嬢さま就職希望の件についてでございます。あれからいろいろ考へましたし、實の、私の方で御紹介なり御推薦なり出来る方面も、あれこれと物色してみました。結局、これは御取止めなさいましては如何かと、さういふ結論に落ちたのでございます。給料などはどうでもよく、たゞ本人が希望するので、楽しく働けるやうな所を、といふお話でございました。私としても、お嬢さまの僅かな収入を何かの當になさるやうなお宅様でないことは、充分に存しあげてをります。ところで、さういふ御事情が却つて、反對の理由となるのではございませうか。何か將來のために經濟的獨立の素地を得させるとか、實社會の経験をつまるとかいふことも、一應はうなづけますけれど、それも、實際上の必要から来る決意を伴ひません場合には、單なる遊びに終つて、而も至つて危険な遊びになる恐れはございませんでせうか。いつぞや、お宅にお伺ひしました節、お嬢さまから、映画やレヴューや音楽のことなど、いろいろ面白いお話を承り、尙その時、きれいな雑誌の婦人記者になつてみたいなどと仰つたお言葉をも、只今微笑ましく思ひ出せまつてしまひますの。年若い女の就職といふものは、たとひ収入が目的でありませんでも、現在の社會では、人の額や階を曇らすことがどんなに多いことございませう。お嬢さまが至つて明らかな御性格なだけに、私は一層そのことを恐れるのでございます。これだけ申上げますれば、私の意のあるところを充分御察し下さること、存じます。なほ近日お目にかゝりまして詳しく申上げた、それまでにも一度お考へおき願はしう存じます。御判断下さいませ。

寄附金の依頼を断る

仲町貞子

お手紙を拝見いたしました。ほんたうにお久しぶりでござります。昔とちつともお變りなき御様子お察し申上げられお羨ましく存じました。同窓會の御模様おひとりごとのお姿お膝までがお手紙の上に手にとるやうにて、拜見致しながら氣持は速く昔にかへりました。それから御同封の別紙も有難く御趣旨のほどよく拜承致しました。出来れば是非お仲間に入れて戴きたいので御座いますが、御承知でも御座いませうが、私の方で、ハハ運悪く、主人の勤めましたA會社が潰れ、只今やつと再度の勤め口を探しは致しましたもの、漸く二人の口を糊へたけの収入にて、誠に心細き限りのところへ、私事主人失業中、他家の裁縫など徹夜して無理致せしため、胃腸を痛め藥師の代にも事飲くありさま、折角お進めの事も本意なくお断り申上げねばならぬ辛さ、どうぞお察し下さいませ。御發起の皆さまへもどうぞあなたからよろしく御ゆるしお願ひ下さいますやう、まことに起き臥し半ばで筆も亂れ失禮でございますが取り敢へず御返事のみ申上げました。

借金の申込を断る

平山信子

只今御手紙を拜見、涙ぐましく御奮闘廻りを承り、深く御同情申上げる次第で御座います。數ならぬ私共を御信賴下さいまして、細々と御打明け下され、御内々の御相談にまであづからして頂きましたことは、かたじけなく存じます。差迫つた御入用の事で御座いますから、出来ます事ならば是非お役に立たせて頂きたいので御座いますが、實は最近私共少々冒險的に仕事の方を擴げましたので、表面だけは相當に張らねばならず、その爲内を極度に切詰めましても尙足らぬ勝ちにて、私共も人知れず苦勞を致して居ります。それだけ餘計に御事情お察し申上げらるの御座います。何分にも力及ばず此度は如何とも御役に立ち兼ね誠に申譯ない次第で御座います。何卒悪しからず御赦し下さいませ。尙ほそちらの方は中々物解りの宜しい義侠的な御方と承はつて居りますから、却つて直接御訪ねになり、御事情を打割つて御話しになりましたならば、案外御同情ある取計らひをして下さるのではあるまいかと存じます。私もよく考へた上、お断り申上げます。何卒長い道が早く開けますやうにと謹ながらお断り申上げるばかり立つてお伺ひ申上げます。あのボブで、どうぞ十分お暮ささいといひ遊ばせ

轉地療養中の友へ

室生犀星

お手紙をいたゞくたびに良いお便りでどんなに嬉しいか知れませんが、もう、あんなに長い道のりを海岸までお歩きになれるなら、餘程良くおなりになったものと思ひます。お元氣なのに家ではみんなが驚いてゐますわ。それに、去年の秋あたりはお手紙の文字にもどこか弱つていらつしやるところが表れてゐて、悲しかつたのですけれど、このごろのお元氣なこと、本統に生き／＼してゐて嬉しうございますわ。わたくしの家では、こんどお庭を二階からも見たいといつて、父の設計でお二階を建増しすることになりました。あなたのお好きな芝の中の路も、あなたのおかへりを待つてゐるかも知れませんわ。あと一ヶ月もすれば建増しが終りますから、そのころにおかへりになるといふと思ひます。庭もなるべく平面にして木などはすくなく植ゑるやうに作りかへるのだと父が云つてゐますが、わたくしには少しも庭のことなんか分らないんですけれど、あなたにはよくおわかりになるのね。だから、父もあなたがおかへりになつたら、お庭でお茶でもさし上げるやうにと申してゐますの。けふ町に出ましたから、思ひついてレコードを一枚お送りいたしました。白采露西亜人で、やつと十七になつたばかりの、提琴の天才らしいのですわ。ハルビンにゐらつしやるんですが、日本ではまだ誰も知つてゐないかも知れません。併しきつとボンチエ・オスモロフスキーの名前が世界にひびきたる時があると思ひますの。何とも云へないすぢのよい音楽なんですもの、屹度、お氣に入るにちがひありません。では、またそのうちにおたよりいたします。さやうなら。

轉地療養中の友へ(返事)

室生犀星

けふも濱に出てかへつて参りますと、お手紙が着いてゐました。濱では小鯛がとれる季節でございますから、少々干してお送りするやうに願ひてまゐりましたので、鮎もありませんからそれと一緒に明後日あたり着くことと思ひますわ。健康はとも快くなりましたので、ひどく暑くならない前に信州追分の方にまゐらうと思ひますの、あそこ小ざい別荘を貸していただくやうに母が交渉してくれましたので、こんどは母も一しよにまゐることになつてゐます。涼しくて空気がよく、すぐ淺間山が肩の上に見えるところださうですわ、わたくしが参りましたら屹度いらしつて頂戴、その前にお庭とお二階を拜見にまゐりますわ、どんなにお美しくなつてゐるか、今から楽しみですわ。ボンチエ・オスモロフスキーの提琴は立派な、身に沁みるやうな曲だと思ひますわ、何だか昔の露西亜の小説をよむやうに妖しく美しい氣がいたしました。お禮を申しますわ。わたくしはあなたとちがつて音楽のことはまるで分らないんですけれど、良い音楽は誰にでも分るものだと思います。一等良いものは誰にでも分るものぢやございませんか。では、もうあと二週聞くらぬでお逢ひできるのですから、出来るだけ運動をしてからだをきたへるやうにしますわ。さよなら。

病氣見舞

松田解子

伯父様。その後二病氣はいかゞでございますか、日頃お丈夫な伯父さまが、肺炎におかゝりになるなんて、全く思ひもよらないことでございます。前から、伯父様のお勤めが、大変お忙しく毎日のお歸りも遅くなられがちのことは、度々伯母さまから伺つて居りましたが、もしかしたらさうした普段の御無理がかりその風邪にも影響してゐるのではないかなどとお噂申して居ります。でもこの前お伺ひしました折は、御大病とも思へぬ御元氣で、お熱もだん／＼お下りになるやう承りましたので、快くおなりになるのも間のないこと、心丈夫にお暇したのでございます。

伯母さまをはじめ美代子様、廣さん、光子ちゃんなど、みなさんお心を合せて御看病のこと、存じあげます。伯母様も、美代子様が、學校を卒へられ、おうちにゐらしやることとて、御相談相手にさぞかしお心強うございませう。私など姪とは名ばかり、同じ東京に住みながら、夫婦とも／＼仕事をもちつてをりますこととて、何のお役にも立たず申譯なく存じてをります。今度の日曜は宅も必ず勤先を都合いたしましたして、二人でゆつくり伺はせていたゞくもりでございます。何卒々々御油断なく御養生のほどお願ひ申上げます。

良人の病氣に惱む友へ

圓地文子

十五日付の御手紙、只今拜見いたしました。さだめてあなたの御一家も御健康でいらつしやること、獨りぎめに安心して居りましたところ、思ひがけず御主人様御重病の御便、あまりだしぬけなのでびつくり致しました。

御地へはまだ御赴任後間もないこと、言ひ、御親戚もそちらにはいらつしやらぬやう、承つてをります事故、さぞさぞあなたお一人で御看護にお心をお砕きになりましたこと、御案じ申上げます。それでも御看護のおしるしが見えて御病状も峠をお越しになりました由、讀みながら思はずほとと致しました。

胃潰瘍は痼など、遠ひ御養生さへお届きになれば、間もなく御全快になる御病氣故、心ゆるみなく、十分といふところまで御養生なすつて下さいませ。お二方ともとより御如才ないこと、は存じますが、この後萬が一にも御再發になるやうな事がございませと、本當に大變で御座います故、御全癒の後も御酒だけは是非ともお控へになりますやう、これは私からくれぐれも御願ひ申上げます。餘計な指圖を差出がましく申上げますのも實は私、叔父を同じ病氣で失ひまして、御酒の怖さはかりは忘れかねてをりますからのごとで、この事はよく御主人様へおつたへ下さつて、ともなくお氣をつけになつて下さいませ。あなたも御病人の御快くおなりになるにつれ、御看護疲れが御出になる事と存じますが、御主人様にお氣をつけになつて下さいませ。

別便で三越より林檎少々御送り申上げます。青森産のもので御病人のお口にもあふよし、お好みによりましては煮てなりとさし上げて下さいませ。親しくお見舞ひしてお慰め出来ないのが残念でございますが、取敢へずお手紙でお伺ひ申上げます。一日も早く御快くなられます事をひたすらお祈りいたします。

病氣の子供をもつ母親へ

中河幹子

きのふけふの御寒さ、お嬢さまにはその後の御様子如何にやと御案じ申上げて居ります。もうお熱はお下りになりましたでせうか。

一昨日、ほんたうに何年ぶりかで保田さんにお逢ひいたしましたら、あの方もやはり今中學へいつてゐられるお坊ちやんが九つの時、おなじ病氣で一年半も學校をお休みになつていらした由、なんでもお咳や痰までも出てゐられたのが、すつかりよくなつて、今はもうその氣もない御由でした。

自分の子供がかゝりますまでは、そんな病氣が世の中にあるのさへも知りませんでした、うかぶつてみると肺門淋巴腺といふ病氣は、都會の子供にはなかく多いらしく、然し早くから氣がついて養生がどきさへすれば、必ず全快するらしいございませから、どうぞあまり御心配なさらず、お氣水に御養生遊ばすやう願つてをります。

保田さんもお灸がよかつたとのこと、私のところの子供もたしかにお灸がよかつたと思ひますので、お醫者さまの方の療法と合せておためしになるやうにおすゝめ申しあげます。もしお試みになるやうでしたら、よいお灸の先生にそちらへ行つていただきますから、御遠慮なしにおつしやつて下さいませ。このごろ宅の温室に出来ましたトマト少々御食後に召しあがついたゞけましたらとおとゞけ申しあげました。まづは一筆御見舞まで。かしこ

老人の病氣を見舞ふ

原田琴子

伯母様、其後御祖母様の御容態如何でいらつしやいますか、朝夕御案じ申上げ乍ら自分の事にかまけまして、御たづねも致さず、何とも申譯ございませぬ。御老病の御事とて、さしたる御苦痛はおありになりませんでせうと存じ上げられますけれど、永い間には御氣分の變化もいろいろございませうし、御看護役の伯母様の御氣苦勞、さぞかしと蔭ながらお察し申上げて居ります。私がまだ實家に居りました頃でございしたら、伯母様の御手代りにお伺ひする事も出来ましたのになどと密かに思ひ耽る折もございませぬ。お年を召したとは申しながら格別難かしい御病氣がおありになるわけではございませぬし、元來が、御丈夫なのでございませぬから、氣候が定まりましたなら、すつとお快くおなりになるのではないかと、昨夜も主人とお噂申上げましたことございませぬ。

實は私この土曜日から日曜にかけて、御見舞ひがてら久々で伺はせて頂くつもりで、お祖母様のお口に合ひさうな軽いお菓子など整へて居りましたところ、突然主人が出張を命ぜられた為、お留守居番で家を明けられなくなりまして。この次の日曜こそはと存じて居りますが、お菓子は少しも早くおすゝめ致したく、小包に致し、この手紙と一緒にお届けいたします。お祖母様くれぐれもお大切に、伯母様もお疲れが出ませぬやう御願ひ申上げます。

かしこ

お見舞の手紙

近火見舞

長谷川 かな女

啓上 只今ラチオにて美町町大火を承知 大いに驚き、即刻電報にてお見舞ひ申上げましたが、御無事でございましてせうか。

ニュースによれば、お宅様の邊りは延焼お免れのやうに察せられますので、些か安心致して居りますが、町の中心は悉く焼きつくされた由、混雑も被害も想像以上のことと存じます。

皆様方のお驚きもいかゞ、御老母様お小さい方々などに、お怪我などございませぬでしたか。お知邊の方々には定めし御類焼になつたお家もございましてせう。差し當り當座の御用にと、食料品取り交ぜ御見舞のお印までにお送り申します。何かお入用の品がありましたら、御遠慮なくお申掛け下さいませ。こちらは御承知の通り買物には便利な土地でございますから、何に限らず御用立てることが出来ませうと存じます。

家内の皆々よりもよろしくと申出でました。この際なればとりわけて御身おいとひ下さるやういの上げます。とりいそぎお見舞まで、匆々。

近火見舞(返事)

長谷川 かな女

拜復 此度の大火につき早速お見舞いたゞきまこと忝けなく、厚く御禮申上げます。その上御惠送頂きましたお心づくしのお品々、澤山、時にとりてこの上なく重寶有難く頂戴いたしました。

なにじろ御承知の通りの小さな町が、目抜き場所をすつかり焼き拂はれ、焼野原に停車場ばかりぼつんと残りまして、實に蕭條たるものでございます。一時は私共の方も危いかと思ひまして、子供のものなどそちこち纏めました。が、仕合せと中途から風が變りまして、類焼を免れることが出来ました。

日用品など求めたくも賣る店が無いやうな始末でございますが、今日あたりは、ぼつ／＼假小屋で商ひの用意をし始めた家がございますから、案外早く復興いたすことと存じます。御心配をかけたましたが、右の様な次第でございますから、憚りながら御安心下さいませ。いろ／＼の頂戴のものの中、佃煮を早速ながら類焼されました知邊のお家にお届けいたしました所、東京の佃煮を頂けるとは思はなかつたと、お年寄が涙をこぼして喜んで下さりまして、私までもうれしうございました。宅でも子供達も主人も大好物とて、皆々賞美いたしてをります。

尙主人よりも手紙差上げる筈でございますが、私より御受かた／＼御挨拶申上げる次第でございます。皆々様へよろしくお傳へほど願ひ上げます。匆々

類焼見舞

河崎 なつ

今朝の新聞で見てびっくりしました。あの烈風の中を藤屋から出火して、吉野川の千石橋まで、目抜きの通りを二百戸も類焼させたとのこと、きつとお宅も御災難だつたでせう。どなたもお怪我はありませんでしたか。お荷物などお出しになるおひまがございましたか。昨秋歸國してお訪ねしたあの川沿ひの明るい御新居がもう無いのだと思ふと、心の震へる思ひがいたします。

何にせよ、この寰空では御不自由の限りでせうから、取りあはず私共の不斷着一襲ねづつに眞綿を添へて、いそぎお送りいたしました。まづまづおからだを暖かくして、町の復興に努めて下さい。とりいそぎお見舞まで。

暴風見舞

長谷川 時雨

伯母さま、さぞお驚きのことと存じます。ほんとにひどい暴風雨でございましたね。お庭の秋草、どんなにいためられたことかと氣にかります。それよりか、もつと氣になりますのは、伯母さまが、あの雨風の中で、倒れる草を起したり、支へをしておやりになつたり、風除けをなさつたり、濡れながら御さし圖遊ばしはしなかつたかしら、そして又神経痛でもお起しになりはしないかと、それが案じられるのでございます。

あたくしにはもう、伯母さまがお一人よりないのですから、どうかお身體を御大切にすつて下さいませ。でも、兄の申しますには、伯母さまは、近來達観なさつていらつしやるから、眺めていらつしやるだけでよ、濡れてまでお庭に出られはなさるまい。きつと、雨が霽れてから、野分のおとの八重葎かな、なんて、俳句でもなさつていらつしやるだらう、などのん気なことを申してをりますが、屋根はお手入になつたばかりだから、洩るやうな所はなかつたと存じます。後ほどお見舞に伺ひます。この鮎は、とても子を持つてをりますからお好きな煮ひたしにいたしました。利根の上流も昨日から降つて荒れてゐると、鮎を届けに來た漁師がさう申してをりました。

垣根がいたみしたら、この使にお申越し下さいませ。とりあはず御見舞まで。かしこ

伯母さまを我しお尋るまのころ何じすおんといひど
暴風雨でございませうしたね

お尋の杖さぞんあふためりわたことこの忙事にてうらま
すそれよりこの忙事なすめすのを伯母さまより
あの雨風の中で倒れるを起したり支へておや
さまならたり除命をなすたり濡れまらぬ
圖おむはしなうたりたのまらそそ又お経痛でもお起
しになりはしないかとそれの案じられるのでございませ
あたまよりおんもゆる伯母さまがお一人よりないのです
うねとるかお力俵をもち切になすつてございませ
でも兄の申しよすのにお伯母さまはお東を達し親をな
てつらつらゆるり暇をとりつとやごまをたよ濡れ
てませお尋も出り物はたまたまいまつと雨の西高水
のり、那分のあとのいそぎをなして他司でも
たまたまといらつとわだらなすのんお東なごら
を中へてございませうの

刷根をお手入なすつたはずたうら減りやくを
なうらたとあしませる後はおおしおに御座す
この船をとくも子を拾つてございませうらお好ま
意いたしよいたしよした利根の上流もゆるり隙つ
て荒れをみるも船をゆきにきた漁師のちゅうちを
をりあつた垣根のちみなりたりこの使はお申越し
あせいませとてあへんはらふらなご

のこ

水害見舞

横瀬多喜

拜啓 昨日あたりの新聞にては、御地の水害もかほどの事とも存せず呑気に構へて居りました所、意外の御惨状らしくまことに驚き入りました。殊には、さして川に遠くもなきお住居の如何にやと、急に心にかゝつて参り一入御案じ申上げ居ります。

嗚かし物堅き叔父上様など、稲作の被害にはお心を痛めてお出の事なるべく、また、佐太郎様にはお役場向きもおありにて、公私とも並々なぬ御苦勞のほどひたすらお察し申上げます。手前どもの方は、何分長の降りではあり、ひとしきりは出入りの者も大きにこぼし居りましたが、御承知の通り平地の事として急激な變化もなく、堤防の方も無事に相済みましたから御安心下さいませやう、何卒皆々様にもその向き御願ひ申上げます。

別送小包は、お珍しくもございませんが、お取込中のお菜にもと存じまして、白魚と公魚の鹽干しでございます。新聞にては交通杜絶も追々回復中との事でございますが、念のため少々鹽の利いた方を選びましたから、お察し下さり度く願ひ上げます。先づは取急ぎ心せくまにお見舞のみ。早々

水害見舞(返事)

横瀬多喜

拜復 この度は當地の水害に就きまして、早速お手紙やらまた何よりのお總策をお送り下さいまして、何時もながら至り至れる御心盡しには、深くおん禮申上げる許りでございます。でも漸く今日となりまして沁々御禮を申上げるやうな有様にて、私こそ佐太郎任せ切りの御無沙汰だらけにてお詫びの致しやうも御座いません。

老父も何彼と村方を案じ力落しの様子に御座いますが、矢張り私同様佐太郎任せに安心致し居りますから、何卒御放念下さいませやうにお願ひ申上げます。

一時那珂川の橋が落ちました際には、流石に主人も文字通り茫然自失の態にございましたが、何分にも夜半の事ではあり、夜前よりも役場吏員消防組青年團など勵まして、お互に一同力を注ぎましたが、山地の事として、恰で置の水を覆すやうな水足の速さには、人家の倒潰も流失も瞬間の事として手の下しやうも御座いませんでした。暗夜に助けを求めながら流れていつた人達の聲がまだ耳に残りをりまして、こゝしばらくは心の疼みも薄らぐ事と存じます。

私方にては佐太郎からも一寸申上げました通り、東の物置から倉の土臺まで浸水いたし、何うなる事やらと生きた心地も御座いせんでしたが、幸にも皆々無事に逃れましたから、御喜び下され度くお願ひ申上げます。

一週間ほどは焚く薪炭にも事飲き、井戸水も使へず殆んど難儀いたしました。假寝の夢すらも結ぶ毎日でございました。とは申せ谷津方面の惨状にひきくらべまして、何の不足も申せる事では御座いません。

ではこれにて厚く御見舞のほど御禮申上げ度くと存じまして一筆致しました。時下なか／＼陽氣も不順につき従姉上様には折角おいとひ下さいませ。あら／＼かしこ

盗難見舞

河崎なつ

先程哲男から、昨日の御災難を聞いて屹驚しました。市場へ買ひ物にお出かけの留守中だったさうですが、玄関へ鏡前を下して出られたのではありませんか。あれは却つて一家の不在を公告する様なもので危険なのです。去年私の宅でも、留守居に来てゐた國の母が、郵便局へ爲替を取りに行つた一寸の間に、玄関脇に懸つてゐた家内中のオーパーをゴソリと持つて行かれ、その冬中みんな寒い思ひをしたものでした。

私の方はどうせ古オーパーで、大したこともありませんでしたが、今度のあなた方の御災難は、新しい御生活への出立間もない一切の御衣裳だから、大きな痛手に相異ありません。でもこれが深夜の押込みで双物を振り廻されて、怪我などさせられたのでは堪りません。まあ／＼着物の身代りでも、事なく済んでどの位めで度いか知れません。感々御二人が文字通り、身を以て踏み出されるにつけても、いつそ簞笥は空に、金力と精力の全てを仕事と研究に傾け盡す方が、氣樂で氣強く、後後のためでもあることを、いつもの老婆心から申上げます。

私は後で、警察から品物が返された時盗難届けを出しておかなかつたとて始末書をとられて冷汗を出しました。あなた方は兎に角、届出だけは早速しておきなさいませよ。今好きな兎やの「最中」を届けさせました。熱い番茶で召上つて元氣を取戻して下さい。いづれ哲男も伺ひませう。

先程折男より昨日の函突難を少ソそ吃驚させられた
 市場へ買ひ物はお出さる事留守申た下さうです。又其へ
 宛先を知らせず仕らしたのではあるまいせん。あつは却つて
 一筋のふれをを公告する様なり。この危険等のご事
 去年私の電でも留守申す事々々。國の母が郵便局へ
 為給を取りに行つた一寸の宵に玄突脇に懸つて、家
 内中のオーバーをゴリと持つて、いさよの夜中みんるま
 い思ひをしたものごもた

私の方のはどうぞ古オーバーでたしたこともありませ
 して来たので今夜のあるた方の函突難を新しーい生
 活への出立間もない一切の函衣装たつらたきを痛み
 にお負ひりませしてもこの夜の涼風の押込みをみ物と
 振り廻さる様怪我なごさせられたのを堪りません
 まあ、差物の力代りでもなく、信をどの位免で
 夜の知事よせん。家々二人の文字通り力を以て踏み
 出さるるにつもやても、おその筆筒を共に筆力と精力の全
 てを仕事と研究に似せ申す方が筆樂で筆強く後
 後のためにもあること。おその力志望心の中上げませ
 私を後で、おその家々より品物の返すられた時、函突難を出
 ておうなうつたとき、始末書をとらして、冷汗をおいませた
 あなた方も免は角、函出さる事、おそのおきいなさいや
 せよ。今お好きいな免やの、取中を届けさせました。熱心
 當業で、お上つて元氣を取戻させ、おそのおきいなさいや
 何んませう

盜難見舞

婚約中の青年への贈物に添へて 松田解子

この間はほんとは楽しい一日でした。あのしづかな林、風の吹く度に青い空にをのゝいてゐた梢の美しさが心に沁みてあります、でも實のところ、翌朝朝勤め先に出てさすがにくるぶしのあたりに疲れを覺えました。健脚を誇られる後夫様は如何、おうかどひいたします。

さてその節のお約束たゞいま果させて頂きます。あの青空と、をのゝく松林の下でのお約束をこれで遂行しようといふには、あまりに平凡なお贈物といさゝか氣おくれしてゐるのですが、でもこれは働いてゐる私が、毎日の晝のお食事時間や、朝夕の電車の中でこつ／＼と編みすゝめたものです。どうぞ私の氣持の現れとしてお受取り下されば仕合せです。

全く、仕事場の屋上から見ると、この間の空のやうに澄みでは居りません。風にをのゝく緑の梢もありません。がこの空の下に、私と同じやうにいろ／＼の仕事に一生懸命働いてゐる女の人たちがどんなに多いかと思ふと、わたくしは何ともいへぬ力強さを感じます。この貧しい品もさうした日々の中でつくり上げましたもの、さう自ら勇氣づけつゝお贈りすることに致します。少しばかり寸法に過不足があつてもおとがめになりませんやうに、豫め寸法をうかゞつてから編みはじめるとよかつたのですが、後夫様のお體格に對する私の目分量がどの程度に確か／＼をお試しになるつもりで、このまゝお手を通されるやうにお願ひいたします。お着心地お洩し下さいませ。

この次のお休には、母もぜひ家へいらして頂くやう申してをりますから、豫定に入れておおきになつて下さいませ。ではその時まで、お元氣で。さやうなら

結婚の祝品を贈る

長谷川時雨

朱實さま、いよ／＼御婚禮のお日どりがお定になりましたつてね、昨夜お兄さまがお歸宅になつて、母さんが、それはとても悦んでゐた」と仰りましたのよ。

あたくし、今朝目がさめたら、すぐにお悅びにおうかどひするつもりでしたけれど、お兄さまが、たゞの體ではないのだから、一人で出てはいけない、明日僕と一緒に「行かう」と仰るので、伺ふのは明日になりますが、折角私

いの一にお祝品を差上げようと思ひましたので、せめてその品だけ先にお届けすることにいたしました。朱實さま、あなたが幸福にお目覺めになる今朝、枕許におかれるこの品が、どうかお氣に召しますやうに。お召物は、お兄さまと私の共同圖案、幸さきよく昨日京都から持つて来てくれました。染はよいのでございますが、別の品は、お兄さまにお見せすると笑はれますから、まだ御存知ないのです。わたくしの心ばかり、どうかおいでになる日まで、御婚約のお方のお寫眞を、そしてその日の後はお二人お揃ひのお入れ下さいませ。可祝

結婚の祝品を贈る(返事)

長谷川時雨

お姉さま、

あたくし、今日の朝のこと、屹度いつまでも忘れないでございませう。

「朱實、お姉さまから、こんなに早くお祝ひを下さつたよ」と、あたくしをゆり起しになつたお母様のそのお顔。あんな好い、お母さまのお顔見たことございませんわ。お母さまの顔から光がさしてをりましたの。

好い朝と仰しやつて下さいます通り、爽やかな緑の風が吹いて、枕上の紅白のお水引のと、金銀のとの奉書紙の眞白な上に、お兄さまの「祝」とした墨色と、お姉さまの「壽」といふおやさしいのとが實にあざやかに目にしました。

有難う存じます。お二人様のお心盡しの晴れ模様——曉の色のほかに、立葵や石楠花や桐の花の立體的な良さ、新味があつて落つてゐてモダンで、お母さまもまあとお眼をおかどやかしになればあたくしもアラと跳り上りました。

銀製の寫眞立、お宅のと同じ品ね、お宅では目下お揃ひのね。先日伺つた時、お兄さま仰しやいましたわ、いまに、坊やのを入れるのだつて——あたくし、自分のところへおかずに、私の寫眞を入れてあちらへあげときますわ。ほしくてほしくて堪らなかつた、淡色紅玉。私、すぐ指にはめて、手をさし上げて見てばかりあります。後刻伺ひまして、澤山御禮申上げます。かしこ

結婚の記念寫眞を贈る

小堀 杏 奴

伯母様、その後はお變りもございませんか、私共の結婚記念寫眞が昨日やうやく出来てまゐりましたから、一枚お送り致します。結婚式の當日にうつした寫眞は、固くなるせいか出来がよくない事が多いといつて、母など心配してをりましたのに、思つたよりずつとよく撮れてゐましたので、本當に嬉しうございました。たぶん私が心から楽しく、安心しきつた氣持でゐた爲でせう。伯母様が選んで下さつたこの振袖は、皆さんがよく似合ふといつて褒めて下さいました。赤坂のお祖母様などは、何處か買つたかなどとわざ／＼聞きにお出でになり、よし子にも今度作る時はあれと同じやうなのを拵へてやりたいなぞ、いつていらつしやいました。よし子さんも近い中御結婚なさるさうですね。あの夜披露がすんで旅行に出ます時、伯母さまとお母さんと並んで見送つて下さつてゐた心配さうなお顔を見ましたら、何だか不意に悲しくなつて涙が出ました。そして、お父様が生きていらして、この姿を見て下さつたらなんて事まで考へました。でも、昨今やうやく新しい家庭を作り上げるといふ落ちついた氣持になつて來まして、時々近所の植木屋さんから植木など買つて來ては少しづつ庭に植ゑてをります。薔薇が今盛りで見事な花を開いてゐます。今度の日曜日にお天氣がよろしかつたら、和ちやんをお連れになつてぜひお遊びにお出で下さいませ。日曜でしたら岩瀬は朝から家にゐますし、それに子供が大好きなんですの。

寫眞の裏の署名は、あまり岩瀬の方が上手いので少し取しいのですけれど、仕方がありません。泥糺みたいですが、これから少しお習字の稽古を致しますせう。相變らずだつてお笑ひになるでせうが。

では又、和ちやんによろしく。さやうなら

結婚祝のお返しに添へて

杉 浦 翠 子

敏子さま、おかげ様で私の結婚式も新婚の旅も無事に済みました。やつと今日はこの新家庭に落ちつきましたのでベンを取ります。

私の結婚に就いてはあのやうにお喜び下され、新家庭の記念として結構な花瓶をお贈り下さいましたこと、まことに嬉しく厚くお禮申上げます。思へば少女のころから今日まで永い間、同じき愛を持つて厚い御友情を賜はり、ほんとうに感謝せずにはゐられません。

何分にもさ／＼やかなる新家庭、いづれも粗末な世帯道具ばかりでございますが、あなたに頂戴しました花瓶だけは立派に光つてをります。今日早速花屋から白百合の花を買つて來て挿して見ました。ところが、あの陶器の青磁色に白百合の花の反映はまことに夢のやうな軟かさ、全く私の眼に美しい物を投げてくれました。

尙ほんの内祝の印までに甚だ粗末な品で失禮ではございますが、別送いたしましたから御笑納願上げます。先づは御禮券と御挨拶まで。

お中元に添へて

佐藤 惣之助

そろ／＼お暑くなつて参りましたが、皆々様御機嫌麗はしくいらつしやいますか、その後は打聴えて御無沙汰ばかり致して誠に申譯も御座いません。休日には是非一度お伺ひ申さうと主人ともお噂ばかり致して居りますが、新居のことゝて次々と新しい用事におはれつゝ失禮致して居ります。お蔭様で私こと幸福にその日その日を送つて居りますからどうぞ御休心下さいませ。結婚前の御言葉通り主人も誠に優しくしてくれまして、いつも心のうちで皆様にお禮申して居ります。月末になりましたら主人も會社の用務がや／＼一段落つくとかで、三四日休暇をとり亡きお父様の展墓かたがた郷里につれゆくお申して居ります。それを樂しみに私も毎日一生懸命に家事に働んで居ります。別送の品は誠に御恥しいものでございますが、どうぞ御中元のおしるしまでに御笑納下さいませ。主人からもくれ／＼も宜しくとのこと御座います。本来ならば是非お伺ひ致さなければならぬのでございませ、御存じの通り日曜以外は全く私ひとりなので、留守に致すこともならず、失禮とは存じながら郵送申上げました。どうぞ悪しからずお許し下さいませ。いづれ郷里から歸りましたら、なつかしいお土産話も携へて主人とも必ずお伺ひ申上げます。末筆ながらい／＼お暑くなりませので、皆々様くれ／＼も御自愛のほど祈り上げます。かしこ

お歳暮に添へて

小寺 菊子

十二月に入りましてから、さすがに東京もめつくり冬らしくなりまして、庭の山茶花に射す陽の光も弱く、しみじみと底冷えのする日がつゞいてまゐりました。東京でさへこんなにお寒くなりましたのに、北海道にお住居の御両親様には、今日此頃の御機嫌如何かと、朝夕主人と共に御寒し申上げてをります。

私どもはおかげ様で二人とも元氣でございますけれども、何分にも慣れぬ新世帯に迎へるお正月のことゝて、是非お國風にと存じまして、主人は料理の仕方をしらず、たゞこんな風に煮てあるんだ、何の魚だつたかな、とにかくともうまいんだ、などいふ説明にて、私には見當がつかず、こんなことでしたら最初の新年はおそばにくだされていただくのをと、つくづく遠い御両親様をお懐かしく存じ上げてゐる次第でございます。

就いては、せめてお歳暮の品だけでも、私の手作りの心をこめた品なりと差上げ度いと思ひまして、主人出勤後家事のひま／＼に、毎日楽しみながら少しづつ編みました御父上様への襟巻、御母上様へのお羽織下のお胴着、いづれも軽くお暖かくと工夫をしてみましたものが、やうやく今日出来上りましたので、早速小包でお送りいたしました。出来ずやうお祈り申上げます。主人よりもよろしく申出でました。かしこ

出産祝を贈る

佐々木 邦

先日は御安産のお知らせを戴きまして、まことにうれしくお祝ひ申上げます。以前ですと、早速お喜びに上つて、赤さまにもお目にかゝるのですが、海山數百里を距てしまひ、思ふに委せません。唯々順調にお肥立ちになるやうにと念じ上げてをります。眞の寸志、お祝ひの品、御送り申上げましたから、御笑納下さい。尚ほ襪の乾したのを添へました。これは産後に必要な染養價のあるものと、承はつてゐますから、澤山お召し上りを願ひます。

私共のところは男女取交せて五人、この方は充分経験がございます。何日かの長を誇ることが出来ます。お初に女のお子様がお生れになつたことを取分けてお喜び存じ上げます。誠に一姫二太郎と申す通り、女の子は育て易いものでございます。私共も初めが女の子で、案じるより生むが易く、育てるのも案外容易に感じました。兩方お持ちの方は何方様もさう仰有います。しかし次が男で、今度は骨が折れました。尚ほ悪いことに、初産の安かつたのに油断して、二度目は少し早く起きたのでございます。それが果つて又寝つく。平常に戻るまでに一年近くかかりました。かういふことがありますと、お乳にも影響しますから、自然餘計に手がかゝつて参ります。お輕いと思召しても、くれ／＼も御大切に御願ひ申上げます。まあ／＼先輩ふりを發揮して、飛んだ御講釋を申上げてしまひました。相済みません。お母さんがついていらつしやるから、萬一にも、間違はございませんまいと存じながら、つい老妻心、何卒お笑ひ下さいませ。

御主人様、お母様へ宜しくお傳へを御願ひ申上げます。當方主人からも宜しく申出ました。

甥の初節句に武者人形を贈る

福田 正夫

先日は誠一さまのお寫眞、お送り下さつて、ほんとにうれしうございましたわ。まる／＼とふとつて、ほんとにお可愛い／＼お姿、お丈夫さうで、宮松さまによく肖ていらつしやるんですもの、……それにあなたによく肖てあつたつちりした大きく奇麗なお目々。——僕より先に、妹にこない／＼子をもたれちゃあ、頑張らなきゃならんぞ！ つて、良人まで申しますの。……御免下さいませね、私もほんとに、羨ましい氣がいたしましたのよ。

お母さまもほく／＼なすつて、その後お寫眞をお手許から、お離しになりませぬ位。

——遠くて、初節句にも行けないつて、宮松さまのおつとめが遠いのを、うらんでいらつしやいます位ですわ。

それで昨日、お母さまと御一しよして見て頂き、武者人形を一つお飾りの端に加へて頂きたく御送りしましたの。誠一さまがお父さまのやうに、雄々しく出世をなさるやうにとお祈りする心持。どうぞ御受納なすつて下さいませ。末筆ながら、宮松さまへも、お三人おそろひでの、その日のおよろこびに、お母さまや良人から、お祝ひを申し上げて下さるやうのこと、よろしくこれをおつたへ下さいませ。かしこ

到來品のおすそ分けに添へて 細川 武子

先日失禮申上げました。その後皆々様にはお障りもなくお過しでいらつしやいますか。さて只今北海道から赤蕨を送つてまゐりましたから、使にもたせて少々お目にかけます。毎年あちらからこの季節におくつてまゐりますが、この土地ではあまり見かけません品故、お酒の肴にいかゞかと存じまして、おすそ分け申上げます。御承知かとも存じますが、この頂き方を御参考までに申上げて見ます。

この蕨を洗つてうすく切り、二三日程三杯酢につけておきますと、すつかり赤くなりまして、誠に美しくございす。それに細く切つた唐辛子をふりかけますと、外の酢のものと同けあはせにいたし、お酒のお膳に殊の外結構に頂かれます。その他料理のお上手なあなた様の御工夫で又いろくめし上つていたゞけること、存じます。

同じ御酒を好みます主人をもつてをりまして、あなたとちがひ工夫の下手な私は、毎日のお肴にいろく音勞をいたします。同じものをつゞけて頂くことを好まず、何か珍しいものを少しづつ等と注文されましたも、もう材料がつきてしまひまして、日々困つてをります。何か新しい試みがおありでございましたら、お智慧を拜借させて頂きたうございす。数人の奥様方だけでよりあひまして、時々お酒の肴の研究會でも開きましてはいかゞでございませう。どうぞお考へおき下さいませ。末ながら、御主人様へもよろしくお傳へ下さいませ。かしこ

到來品のおすそ分けに添へて(返事) 細川 武子

此度は、お珍らしい北海道の赤蕨をたくさんにおとけ下さいまして、誠に有難う存じました。又細々と料理の方までお知らせ下さいまして、いつもながらの御親切の程身にしみて嬉しく、厚く御禮申上げます。

北海道の赤蕨といふお話は承つてはをりましたが、拜見いたしますのは、初めて。赤い蕨に青い葉の出てをりますのは、そのまゝ頂いてしまふのは惜しいやうでございす。早速、お示し頂きましたやうに三杯酢にいたたく存じます。

仰せのやうに、お酒呑みの主人をもちますと、ほんたうに苦勞ではございすますが、又このやうなお珍らしいものを頂きますと、嘸かしよろこぶであらう等といふ、人に知られたのしみもございす。お料理の研究會の事、大賛成でございす。是非實現させたいものでございす。いづれお目にかゝりました時いろく御相談をいたさせう。ほんたうに有難うございす。とりあへず御禮まで。かしこ

病氣見舞品を贈る 水町 京子

青葉を吹く風もすがやかな季と相成りました。見學や關西旅行などが、引續いてございました。心にも無い失禮いたしてをりますが、先生にはその後の御容態いかがでいらせられませうか、お伺ひ申上げます。召上り物も大變におむづかしい御病氣と承はつてをりますが、これならば召上つても頂けるし、藥養價も相當にあるといふものが見つかりましたので、少々ばかりお届け申しあげました。醗酵味と申すのださうでございす。あの眺めのよい三階のお教室で國語の時間に先生にお教へいたゞいて初めてわかつた醗酵味といふ語、その名を負うたものとして、名に愛でて召上つて頂きたく存じます。痘癩症に「若し服するあれば、衆病皆除かる」と書かれました「醗酵の法味」には遠く及びますまいけれど、お口にあへばこの上の喜びはございせん。副へました小箱の人は、關西旅行のおみやげと申すほどのものではございせんが、お許許にお置き下さいまして大原の里をお偲び下さいますれば嬉しいこととございす。月末の二日續きのお休みに、御見舞にお伺ひ申したく、それを待ち楽しんでをります。決して決して御無理を遊ばしませんやう、そしてお氣長く御静養下さいませ。相模の海は夏らしく赫きはじめましたでせう。お大切に。

六月五日

花野百合子

香を吹くゆもすのやまを香とお集りやうたに学や
夏西旅りなむらが引續りてごいまいりた、め心にも無
先格ソつたをわすれり先生にもその後のに容態の
がでいらせられませうかお伺ひ申すあぢやます

君より物も大変におむづかしい病氣と承らうとす
ますううなるらは君上つても預けるし業費價もおお
にあるといふりのう免つたりしたので少しなうお屋
け申すあぢやうた「醒醐味」と申すのたきうごい
ますあけ醒めのよい三階のお教室で國語の時習に先
生にお教へつた、つて初めやわうらた醒醐味と小語そ
水の名を負うたりのと名に習て、君上つて預きたく
あじまを温樂經に「若し病するあまは鬼病皆除う」と
書りしうた「醒醐の法味」にも遠く及びますまい希斗也
お口よあはこの上の喜びをいませ〜副へりした小笈
の人形も夏西旅りのおみやげ申すおとりのので
もいません、お枕許にお居り申すいりや大原の
里にお惚びあひますは嬉しいことごいませ
月某のうら續きあお休みにちみんおにお伺ひ申し
たくも水を待ち樂まんごをうます決ま決ま無理
を越えませんやう様々とお氣長くお祈り申すいませ
お様の海を交らうと茶きはじめうたでせうお大切に

六月五日

美那る合子

喜山茂先

病氣の見舞品を贈る

餞別を贈る

大村嘉代子

爽やかな夏景色となりました。旅行によい此の季節に、明後日は東北から北海道へかけて修學旅行ださうで、さぞ楽しみな事です。あなたも来年は學校を卒業ですから家庭人となるのも間もない事です。今度の旅行は、それこそ一生を通じて最も身軽氣輕な旅ですから充分に旅を楽しんでおいて下さい。北海道と云へばなかく遠いのですし、今は寒かつたり暑かつたり、かはりやすい陽氣の時ですから、旅行中着るものによく注意して下さい。冬ではないのですから寒い時の用意と云つても一枚の肌襦袢なりシャツなりで薄山でせうから、必ず餘計に持つて行つて氣候の變化にともなつて着たりぬいだりおしなさい。それから旅行中は腸胃を大事にして過食をしない事。これはよく／＼氣をつけて下さい。宿屋で出す朝々の梅干は腸胃の消毒のために必ずおあがりなさい。くどいやうですが、腸胃を丈夫にしないと旅行は愉快にゆきません。それから見物する箇所々々の豫備知識の有無は見物の効果を左右しますから、充分に豫備知識を蓄へていらつしやい。豫定の中にはいつてゐる中尊寺金色堂に就ての史話と寶物に關する傳説を取りあつめた本を別送しましたから、出發前によくよんでお置きなさい。見物する場所が多いやうですから宿に歸つたら其の日の日記を必ずつける事を忘れないやうに……。記事を明細にかいておくと他日の思ひ出ともなり參考ともなります。

其の他の事は先生のお指圖をお守りなさい。では、元氣で楽しい旅をしていらつしやい。

形見分けの品に添へて

大妻コタカ

日増しに新緑の色が濃くなつてまゐりました。御地ではさだめし麥田もゆたかに稔つたこととごいませう。伯母様には愈々御着者でお過し遊ばしておいでとごいませうか。

さて先日老母死去の際には御鄭重な御悔み並に御香料を頂戴いたしました。まことにありがたう御座いました。おかげさまで野邊送り、初七日いづれも滞りなく相濟せましたからどうぞ御安心遊ばして下さいまし。

しかし、萬事片づきまして落ちついてまゐりますと、ありし日の母のこととがそれからそれへと思ひ出されまして、何ともいへぬさびさに仕事も手につきかねることもあるやうなしまつ、死去が突然だつたことも一つはございますが、ふだん何もかも母に頼り切つて、母が死ぬ！など夢にも考へてゐなかつた愚かさゆゑと存ぜられます。このやうな時、伯母様が近くにいらつして下さつたならと今更お懐かに堪へかねる氣持で御座います。どうぞこれからはいよいよ倍してお心添へ下さいませ。

さて何かと母のありし日の思ひ出がつかなく、のび／＼になつてをりましたが漸く亡母の形見分けをいたしました。ふだんあのやうにみなりなどかまはぬ人ゆゑ、さし上げるやうな品もございませんが、中でもこれがまあ一番まじと思はれますので、伯母様には帯と羽織とを送らせていただきます。これは昨年伯母様が御上京なさいました時、御一緒に歌舞伎座へ着てまゐりましたもの、伯母様にめしていただけたら母もさだめし喜ぶことと存じます。どうぞお納め遊ばして下さいませ。又御上京をお待ち申上げてをります。伯父様はじめ皆様によろしく。

姑へ手製の編物を贈る

北川千代

ごぶさた申上げて居りますが、御母様には御障りもなく、いつもながら御元氣にてお暮し遊ばされることと存じます。もう十月も終りに近づきまして、そろ／＼菊のたよりが聞えるやうになりましたから、さだめしお父さま御自慢の菊のお客様も、これからは大勢お見えのことと、御母様のお忙しさがお察し申上げられ、おそばに居つて御手助けの出来ません身には、たゞ／＼御健康を願ふばかりでございます。どうぞ御丈夫に任せずおからだをおいとひ下さいませやう、かげながら念じあげてをります。

さて、別便にて手製のお羽織下をお送り申上げましたから御笑納下さいませ。これは昨年の暮に婦人雜誌に出てをりましたのを見ました時から、お母様に是非お着せたいと存じつゝ、馴れぬ新世帯に何かとまごつくこと多く、ついそのうちに季節を過ぎてをりましたもの、今年こそはと早くから心がけて、やう／＼昨日出来上りました。まことに不出来でお耻しうございますが、御ふだんにお召し下さいませすれば、ほんとうに嬉しうございます。一つだけは又お父様が占領なさることと思ひ、同じもの二つお送り致しました。派手な方がお母様のつもりでございます。では、くれ／＼もおからだおいとひ下さいませやう。私もはおかげさまで元氣でをります。ごまづしんこつて。

薔薇に添へて 西條 八十

さわやかな初夏になりました。あひかはらずお元氣なことを存じます。フランス語の方もずぶんお進みになった
てせうね。わたし、このころはずつかり怠けてしまつてお恥しいのよ。
母と二人、楽しみにつくつてゐる小やかな花壇の薔薇が咲きました。今年はんまりきれいに咲いたので、どちら
かへ差上げようと、今朝ちつと見つけてみましたら、花の中にあなたのお顔が浮んで来ました。その昔、クラスで
『薔薇の君』と謳はれて清純と優美のあこがれの的だつたあなたよりほかに、この花を贈る方は無いやうに思はれまし
た。それで、失禮ながら使の者に持たせてお届けいたします。實は御無沙汰のお詫びかた／＼自分で持つて伺つて、こ
の花とあなたの美しさを見較べたかつたのですけれど、今日は差し迫つた母の用がありますので失禮いたします。
この花をご覽になつたら、昔、二人で習つた、あのロンサールがカサンドラへ贈つた『薔薇』の十四行詩を想ひ出
して下さい。

愛するものよ、いざ見にゆかん、

この朝、かの薔薇は

くれなるの衣を、陽にひらきたりや。

といふきれいな詩を。——(あの詩、最近ミュロオが作曲して、レコードになつてゐますの上。變つたコーラスで
面白いわ。いちど聴きにいらつしやいませんこと。)

ほんたうに花つて美しいものですわね。こんな美しいものが地上を飾つてゐる以上、どんな淋しいことがあつて
も、神様はやつぱり人間を愛してゐらつしやるのだと考へたくなりませう。母からもよろしくと申出てをります。

新茶を贈る 白鳥 省吾

その後は御無沙汰いたしました。伯母様にはお變りもございませんか。この間東京にまゐりました節はたいへん御
厄介になりました。田舎もそろ／＼農繁期にて、蛙の聲が仕事をせきたてるやうに賑やかにきこえてまゐります。
さて手製の新茶僅かばかりでございますが、小包にて御送りいたしました。

御存知の裏山の茶畑のものを、八十八夜(五月二日)に私と妹とで摘み、父母が製したものでございます。御
承知の通り八十八夜の新茶は長壽を助けるものよし、粗茶ながら野の香りを御風味下さいませ。

茶どころの宇治や静岡とは場違ひの鄙ながら、廣い那須野のそちの茶摘も、趣あるものでございます。
餘談ながら村のニュースとしましては、小學校の上棟式が昨日ございまして、紅白の餅撒きがありました。同じ日
に隣りの茂子さんが宇都宮の銀行員に嫁がれました。此の夏には皆様おそろひにて、鹽原か那須へ御出かけ下さいま
せ、御案内いたし度う存じます。父母よりもよろしくのこととございます。あら／＼かしこ

筍を贈る 吉田 絃二郎

先生にはますます御機嫌うるはしく御遊ばされ何よりの御事と存じます。この程は私今後の方針などにつき
いろ／＼御配慮をたまはりまして誠にありがたく存じます。お蔭さまで私も自分の歩みます道にも多少の自信を
得ましたやうな氣持になりました。日々お稽古をつづけてをります。まつたく先生の尊き御さとしのたまものと忝
く存じます。さてお珍しくもございませんが、私どもの裏の竹山に出ました筍少々、お目にかけてたく使の者にもたせ
ました。たゞ掘立ての新らしきを取柄にお納めたまはりますればありがたく存じます。親竹は先年父が京都から取り
寄せまして移し植えたものでございますが、武蔵野の土では味もいかゞかと存じます。今年はじめて十五六本出まし
て御座います。半分ばかりはやがて小鳥たちの囀の藪にもと残して置きました。御笑ひ下さいませ。

筍は御存じでもございませうが皮をつけたまゝお米のとき汁にてお茹で遊ばし、一晩そのまゝに置きまして、翌
朝とき汁からお出しなされますればよろしいと申すことで御座います。成るべく今夜すくお茹でいたゞきますやう
御願ひ申し上げます。いづれ近日ちよつとお邪魔させていただきます。そのをり御話の源氏物語湖月抄、持參
いたすつもりで御座います。餘は御目もじの上。かしこ

松茸を贈る

長田幹彦

相變らず筆不精をいたしてをりまして、何とも申譯がございません。二三日前の雨からめつきりお寒くなりましたが、御當地はいかゞでいらつしやいますか。このやうな不順な時候でございますから御持病の神経痛におさはりになりやしないかと、蕪ながら御案じ申上げてをります。

いつもながら宏一が一方ならぬ御世話さまになりまして、何んと御禮を申上げてよいやら、たゞたゞ有難涙にくれてをります。昨日宏一からの手紙によりますと、このたびの休暇には、湯河原温泉へ御一緒に御伴させていたゞきますとのこと、まああの子は何んといふ仕合はせものでございませう。いつもいつもよいところへ御伴させていたゞき、當人も子供ながらよほどうれしいとみえまして、お母さんからもよろしく御禮を申上げてくれと書いてまゐりました。ほんとにいつになつたらこの御高恩に報いられることかと思ひまして、もうたゞたゞ身の不甲斐なさが情なくなるばかりでございます。

どうかこの後とも宏一のことにはよろしく御願ひ申上げます。追々寒さに向ひますことゆゑ、先達から心がけて仕立てました綿入一枚羽織一枚この便とにも郵送いたしましたから、どうか宏一におつかはし下さいませすやう御願ひ申上げます。

それから御宅様なぞでは御珍らしくもいらつしやいませんでせうけれど、當地城山名物の松茸をほんの少しばかり御眼にかけましたゆゑ、どうか走りものとしてなりと御笑味下さいませすやう御願ひいたします。

乍末筆御主人様へもくれぐれもよろしく御傳へいたゞきたうございます。かしこ

柿を贈る

野口雨情

たへ難き残りの暑さもはや過ぎ去り、遠く近く鳴く虫の音も、しみんと心地よくおぼえます。山近き此の地には門田吹く風に穂波もさや／＼と、一入秋は早く参ります。先生にはその後お變りもなくいらせられますか。

此の夏は、私も上手になつたと母にはれて、お籠を一枚ふやしました。バラ／＼とかける葉も面白く、日に／＼大きくなるのが楽しみでございます。今は秋意にかゝつてをりますが、もう間もなく稲の取り入れも始まります。

いつか先生が、何かのお話で、惟然坊が「別るゝや柿食ひながら坂の上」と吟じた柿は、色も味も日本のだ、とお仰せになつたことが思ひ出されます。その柿が今年はずの外好く出来ましたのでお送り致します。

この柿は、祖父が手植の柿の木で、一度接木をしたさうですが、幾本かある中ても實によく、歳毎に我家を樂しませてくれます。

都會にはいろ／＼と美しい果物もおありでせうが、田舎には田舎で又忙しく働ながら、四季とり／＼に人々を慰めてくれるものもありまして、楽しみは盡きないものでございます。私たち田舎生れは、物言はぬ土に親しみ働くことに、本當に幸福があると思ひます。

先生どうぞこの田舎生れの柿を御笑味下さいませ。かしこ

寫眞を贈る

楢崎勤

その後お變りはございませんか。一度お邪魔にあがりたと思ひながら、この頃は何かと家のお手傳ひをさせられてゐますので、これでなか／＼忙しんですの上。

あなたにいつかお約束しました寫眞ね、四五日前やつと撮りまして、今日出来上つてまゐりました。實は、始めて島田に結ひましたところ、母がどうしても寫眞をとれと申しますので、たうとう寫しましたの。可笑いでせう。

お笑ひにならないでね。お嫁にゆきたいいふしるしなんですつてね。わたくし、そんなことちつとも知らなかつたものですから、後でお兄さんにかかはれてしまひましたのよ。見合ひの寫眞だらうなんてひやかされて、さんざんてしたのよ。

首がすこし右の方にかたむいてゐるのは、はじめて結つた髪が重いせいですのよ。肩が凝つたと母にいつたら、お婆さんのいふやうなことをいふと言つて笑はれましたのよ。もう日本髪なんてこり／＼しましたわ。お笑ひにならないで。誰にも見せないで下さいませ。近いうちに、ぜひお目にかかりたいと存じます。母も一度貴女におめにかゝりたいなんて、申して居りますから、あなたの方からいらしつて頂ければ尚結構ですが、では又。

その後お慶りもございませぬの一夜お初鷹にあぐら
たゆみお慶りもございませぬの一夜お初鷹にあぐら
らねをのみすのぞいねをたすの、いねいんですのよ

あつしにりたるのお物束へした書きぬひ五日あやつた
撮りまきつて今日出来上りておつしした書きぬひ五日あやつた
多田よ結ひまきつたことゝの母がどきどきして書きぬをよき
とちへまきすのぞいねをたすの、いねいんですのよ
うお笑ひもあらなりぞねお婿もゆきたりそいふまゝ
しなんですのぞいねをたすの、いねいんですのよ
うつたものぞいねをたすの、いねいんですのよ
まひ可したのよい合ひの書きだるなりをいひやうをい
たえさんでしたのよ

首のすういねのりうたむつてお慶り
をいねを結つた数いねの書きぬひのよ
肩の漸うたも母もいつたり

お慶さんのいねのりうたむつてお慶り
したのよ
もう日お慶りもございませぬの一夜お初鷹にあぐら
お笑ひもあらなりぞね

海にもお慶りもございませぬの一夜お初鷹にあぐら
おいねにせむお慶りもございませぬの一夜お初鷹にあぐら
貴女にお慶りもございませぬの一夜お初鷹にあぐら

あるたのりうたむつてお慶りもございませぬの一夜お初鷹にあぐら
いねのりうたむつてお慶りもございませぬの一夜お初鷹にあぐら
いねのりうたむつてお慶りもございませぬの一夜お初鷹にあぐら

結婚披露参列のお禮

服部 嘉香

陳ば長男一郎の結婚披露に際しては御多蒙中御實臨の榮を辱うし、特に御鄭重なる御祝品を賜り誠に有難く厚く御禮申上候。折角御招待申上候儀にも拘らず萬端御粗略にて、何共申譯これなく恐縮の至に存じ奉り候。何分未熟の者共に御座候間、將來特に御指導御援助の程御願申上候。此段御禮旁と御願まで斯の如くに御座候。 敬具

結婚後媒妁人へのお禮

加宮 貴一

此の度はいろいろと御世話になりました。厚くお禮を申し上げます。一度ゆつくりとお禮を認めたいと存じてをりましたが、旅行から歸つて参りましたも、数日の間は何かや彼やと慌しく打過してをりまして、失禮いたしてをりました。どうぞやら家の中も一通りかたづけ、今日初めて、かうしてゆつくりと机に向つてをります。

旅行から歸つて参りますと、すぐ新居の方へ移つて参りました。こちらへは、皆様のお蔭で、新しい生活に入るために必要な品々はもうちゃんと揃つてをり、私達が歸つて参ります前に、わざわざお姑様がいらして、掃除萬端すつかり準備をして下さいましたので、新生活とはいへ、なんの心配もなく、まるで夢のやうな氣持でございます。けれど、あとはお前に任すよとおつしやつて、お姑様はお歸りになりましたが、さあそれからが大變でございます。食事などは、どんなものでもいゝと云つて下さるのですけれど、日頃の手並みを見ていたよのは最初が大切だと思ふのですから、先づ一番得意の御料理をつくり、第一日は見事難關を突破いたしました。二日目、三日目となりまして、そろ／＼得意も品切れに近づき、そつとお料理の本を出してみるといふ始末でございます。『あんな御馳走ばかりすると、月末に大變だよ』と良人にひやかされ、なるほどと氣がつくほど間の抜けた花嫁でございます。これからは御本を讀んだり、ラヂオを聴いたりして、家事の實際を落ちついて勉強するつもりでございます。芝のお舅様お姑様も、いろ／＼優しくおつしやつて下さいますので本當に嬉しうございます。昨日も、お二人連れでお見えになり、お姑様は、お庭に少し花でも作つたらとおつしやつて、美しい草花の種子をお持ち下さいましたし、お舅様は、名刺の門標ではをかしいとおつしやつて、立派な門標をお持ちになり、御自分で筆をお揮ひになつて、打ちつけてお歸りになりました。

私しは本當に幸福でございます。これも皆々様の御蔭でございます。厚く厚くお禮を申し上げます。良人も今朝くれ／＼も宜しく申上げてくれと云つて出かけました。郊外で乗物に不便ではございますが、近くには景色の大變よいところもございます。ピクニックを兼ねてお出かけ下さいますならば、是非御案内を申上げたいと存じてをります。何卒お身體をお大切に遊ばすやう祈つてをります。先づはお禮旁と近況お知らせまで。 かしこ

卒業後師の許へ

小金井 素子

いつしか、青葉かげ深い頃と相成りました。先生にはいつも御機嫌よく御過しの御こと、深く御よろこび申上げます。いつまでも遠い先のことと思つて居りました卒業式もいつしかすみ、はじめてひとり学校からはなされてしまいました。當座は、何かにつけてと學校時代がなつかしく、朝が来てふとう自分は學校へゆくのではないのだと思ひますと、何ともいへずもの足りない寂しささへ感じて居ります。此頃では母のするのを見真似て少しづつ家の事を手傳ひ、おけいこもピアノと油繪をつづけて居りますが、あのやうに嫌ひだつたお料理やお裁縫も、だん／＼たのしみをもつて致すやうになりました。でもこんなことを申し上げましたら先生はきつと、をかしく思召すかもしれません。先日加藤様のお宅で、二度目の同級會が開かれました。三ヶ月の間に二度は随分多いのね、など母に笑はれましたが、私たちはたゞもうお饒舌がうれしくてたまりませんでした。先生には生憎お差支への御よしほんとうに残念に存じました。秋には九月早々、また、佐伯様が開いて下さいますよし、今度こそ是非先生にも御出席頂けますやう、いまからのしみにいたして居ります。

御無沙汰御わびかた／＼右一筆申上度、かしこ

六月十四日

小野田 みつ

つゝのあまふりお深い頃とお集りよした先生にをり
との様壇とくう過一のうとくはくはよふとん中へ上げます
のほよと遠い先のまに思をなめすした卒業式も
つゝしかすみはせいといふが校うらなをたや、れをしま
ひやうた当座を何うもつとあてたいが授時代がなつ
しゝおの事とあともう自分を学校へゆくのをな
いのたとも思ひますと何ともしくずの足らない癖し
さく或ぐをちりちりす此頃には母のすゝめをい喜しく少
づ家の事を手付けおけいこせとハハと油絵をすあや
たりますすつあのおうに嫌ひいらたお料理やお裁縫
もだん、たのしみをもらを致すやうにならわすた
でもうんふこうと中らかりたら先生をキラとさう
思召すうし志せません

先日かお様ののおちで二夜目の回数ごの再々れすた三
ヶ月の間に二夜を随分多いのねなと母は笑をいれりた
の私たちをたいもうお鏡台のうけとろしたまわません
でした先生にわ生悟お差支へのりや、ほんとうに残念
に感じました秋にわ九月あこまた佐伯様が再々ト
さいわすよと今夜こそお光先生にわ出席頂きます
やうにうらたのみにたててありません
あまふりおわだうたごお一草中とてお後かしこ

六月十四日
小野田みづ
穂中、のり、先生

卒業後師の許へ

病氣静養中上役へのお禮

平塚 伊都子

この三日、梅雨の先ぶれらしき雨に、海の色も降り込められて只一色の鬱陶しさ、湘南ばかりかと存じましたら關東一帯へ掛けてとのラヂオの氣象通報に、みなさまの御出勤の朝夕を御案じ申上げてをります。

その後私の容態はおかげさまで日ましによく、この頃は夕方の微熱もとれ、この分ならば雨の上る頃には短い散歩位は出来さうでございます。ほんとに課長様の御心づかひにて早いうちに休養をとらせていただいたのが幸せだったのでございます。母など、他の會社にゐたらかうはして頂けまいと涙ぐんでいつもさう申してをります。

それにしても休ませて頂いてから早二ヶ月もたつてをりますが、こんなに永く休んでゐてよろしいのでございませうか。私の休養がどんなにか皆様様に御迷惑をおかけしてゐることかと、少なからず氣にかゝり心から申しわけなく存じてをりますが、全快いたしましたらきつと御恩返しをいたしますから、どうぞ皆様へもよろしくお傳へ遊ばして下さいませ。

末筆で失禮でございますが只今は課長様初め皆様より復々お心づくしのメロンやお菓子など山々賜り、思召しのほどまことに嬉しく厚く御禮申上げます。

その内松露少々御届けいたしたいと存じてをります。母からもくれくれ御禮を申出てをります。

暇を頂いた舊主人へのお禮

河崎 なつ

その後御一家皆々様御變りもなくお過していらつしやいませうか。梅雨が来ないうちに、しつかり掃除をしておかうよ」と奥様が御元氣に、今年も先に立つて御指圖を遊ばしていらつしやいます御様子を御偲び申上げて、おなつかしく存じ上げて居ります。

郷里に歸りましてからは煮糞、掃除、裁縫をすつかり私が引受けましたので、大變喜ばれて居ります。これも皆、奥様の永い間の御導きの御蔭でございます。ことに無駄費をせぬ様にと日頃の御諭しによつて、お給金を積立て、頂きましたことは今度の結婚の支度に目に見えて役立ちますので、父母が何よりも有難いことと喜んで居ります。毎日東京の話の出す度に、「良い御主人様にお仕へ申してお前はしあはせだつた」と申して居ります。

歸りました翌日結婚をすませましたが、式は秋の取入れがすんでからの事でございます。母から委しく聞きましたのは、先方は七反歩ほどの小作農ださうでございますが、トラクタを運轉することが出来るので、村の産業組合の工場に働きに行き、百姓は主に私にして欲しいと申して居るさうでございます。幸ひ二人とも頭丈でございますから、力を協せて働かうと今から心に勇んでをりますからどうぞお喜び下さいませ。

けれども、何と申ししても、すべてがこれからの私共の生活でございます。日頃の皆様の御諭しを心にしめて賜ひはいたしますが、どうぞこの後も何かとお導き下さいませ。御願ひ申上げます。

就職について世話になつたお禮 佐藤 惣之助

先生。
先生はほんとうに有難うございました。お蔭さまで私も後で志望してをりました所へ入ることが出来まして、七つ上ない喜びでございます。母も大變喜んでをります。何も彼も並々ならぬ先生のお心づくしの賜と深く感謝申上げてをります。あれから毎日會社に出勤してをりますが、どこまでも先生の日頃の御教訓をしつかりと守つて臨日向なく唯真心をもつて勵んでゆきたいと心掛けてをります。そしてかうして職業婦人として世の中へスタートした以上は、必ず一人前の女性として立派に行動してゆきたいと念じてをります。どうぞこれからも何彼とお導き下さいませ。幸ひ先輩の方々も、皆大變おやさしく指導して下さいませし、同僚のかたへも親しく御交際下さいますので、毎日が明るく楽しく幸福でございます。

先生ほんとうに有難うございました。この御恩は一生涯決して忘れません。學校で親しくお教へ頂いたことが、今一つく役に立つて、タイプライターを打つ指も思はずはすみ勝ちで御座います。次々と仕事も片づいてゆくれば、何と申しますか、職業婦人ならば味へないものでございませう。

いづれ近い日曜日に母とも、参上、親しく御禮申述べさせて頂くつもりでございますが、とりあへずその後の御報告旁々心からのお禮を認めさせて頂きます。あら／＼かしこ

お金を用立てて頂いたお禮

新妻 伊都子

すつかり夏めいてまゐりましたが、皆様にはお障りもなくお過ごし遊ばされますか。お伺ひ申し上げます。さて此の度は、甚だ勝手な御願ひ申上げましたのに、多額のもの御用立て頂きまして、まことにありがたうございました。おかげ様にて盆の仕入れも例年より早く、例年より豊富にいたすことが出来まして、このところ店は何年にもない華々しさにて、主人はじめ皆々御蔭様と深く感謝いたしてをります。

この上は、御厚志にそむきませぬやう、皆々氣を揃へて永年の赤字を克服いたし今年こそ益すぎにはよい御報告を携へてお伺ひできるやうにと、そのみ樂しみに、日々心明るく立ち働いてをりますから、何卒御休心下さいませ。殊に娘もこの春學校を出ました當座は、何かと小商賣をきらひまして、お友だちのやうに勤めに出たがつて困りました。お宅様の御厚情申聞けましてから、すつかり以前の氣持をすて、本氣で帳場の仕事を受持つやうになりましたので、どうやらこの分では番頭の手が一人はぶけます按配、自然店の仕事もそれだけ擔げられますやうな譯合ひにて、これならと本當に心強く存じてをります。

いづれ益過ぎには御恩借のもの揃へて御返済申上げたたく、その節參上して御禮も萬々申上げるつもりでございますが、おかげ様にて店の活氣立つてまゐりました嬉しさを、取りあへず申述べさせて頂きました。主人よりも、くれぐれもよろしくと申出てをります。

お通りすがりもございましたら、どうぞ店の長氣御覽がてら、お立ちより下さいませ。先は御禮まで。かしこ

借金を返すお禮

新妻 伊都子

青葉の頃と相成りましたが、御一統様にはいつも御健かに渡らせらるゝ御事とお喜び申上げます。扱、この度主人病氣の節は、一方ならぬ御厚志に預りまして、まことにありがたう御座いました。おかげさまにて早速入院いたすことも出来、手當の方法も早く講じられましたため、思ひの外日數もかゝらず、ぶじ退院することが出来まして、何とも御禮の申上げやうもなく有難く存じてをります。

日頃から不時の場合は考へぬではなく、月々幾分かの貯金はいたしてをりましたものの、あの莫大な手術費や入院費には、到底足りやうもなく、他におすがりする方もないまゝにとうとう御無理お願ひ申上げてしまひましたが、お快くお貸しいたゞけました時のうれしさはどのやうでございましたか、あの時の氣持を思ひますれば、もつと早く御返し申上げなければならぬ管でございましたが、主人の會社はボナスの出る日がおそく、やうやう昨日渡りましたやうなしまつなので、まことにおそくなり申しわけも御座いません。それに主人が持つてお伺ひいたさなければ相すまぬことで御座いますが、しばらく會社を休んでをりましたために事務が滞滯いたしてをりますやうで、歸りがおそくなります上、何分病後のこととて疲れると申してをりますし、又私もあいにく三男が扁桃腺をいたためで發熱いたしをり、幼児のこととてむづかりて手が離れませんものですから、重々失禮とは存じましたが、取敢ず替替にてお送りさせていただきました。何卒事情御察しの上あしからずおゆるし下さいまし。

いづれ近日改めてお禮に參上いたす心組みてをりますが、先は手紙にて失禮ながら御禮まで。

借りた品物を返すお禮

伊福部 敬子

拜啓 先日はお大切のお品拜借いたしましたことにありがたう存じました。お會席隣五客、衣裳盆三枚、とりそろへ只今使ひにもたせてお返し申上げますから、何卒お改めの上、御受取り下さいませ。

おかげ様にて、はじめての佛事を滞りなくはこぶことが出来まして、安堵いたしました。何分歸來早々のことではございますし、これまで萬事手輕な旅の上の暮しにて、この地の流をもわきまへませず、折目正しい目土の方々お迎へいたすには調度などの用意も、ちませんこととて、最初はいかやうにしかと、戸惑ひいたしました。いろ／＼お心づけの上、お大切の品々まで御用立頂き、やうやく無事に相すませました。厚く御禮申上げます。

紙包みの品は、到來ものにて失禮でございますが、京都寂光院の大原漬、うつつたうしき折柄お茶漬にそへて珍らしき味と存じますので、少しばかり御覽に入れます。どうぞ御笑味下さいませ。

いづれ一兩日後、逗留客も引取りました上に參上、いろ／＼申述べたくと存じをりますが、とりあへず書中を以て御禮のみ申し上げます。

末筆ながら御主人様へも、この御禮よろしくお傳へ下さいますやう御願ひ申上げます。先は右まで、かしこ

お成り先白とおちねのおお借したるに
りごたう極じまきたにお会席儀玉衣
裳等三枚よりそ
ろ人具今使ひよした物をお色一
中よ布よきうら何事
お改めのし受取りのさいませ

おの布様よりともなひその佛
等を歸りなうをふこ
との出来よきを安堵したる
まきた何か物事あるのこ
にはごさいませとしこ
れをよき種な旅のし
にやご地の流れをも
わきまを原折同
向い目上の方
お通へたすよ、調度
などの用さも、ちよ
きこころ
最初おしるるに上
てしうら戸巻
ひいたきやうたつ
ぬお心
づもの上おちねの
おとす下し用を
取まやうやえ
きやにお
すまよきた厚く
うれ中よ布
まは

紙やみの糸と
刺まりのまき
糸れでございませ
のちねお寂光院
の大原儀くらた
き手、折柄お
兼儀にそへて
珍き味
と高しませの
や少しごうら
い晩よひ
水すすぎ
ごぞい
後
味りさいませ

いぢり一
あひ後
運番
おも引取
しりた
よき
美と
る
中よぶ
たもや
極じま
きたの
とめ
あは
き
お
中
よ
い
け

あき
あひ
り
あ
主人
極へ
も
この
御
禮
よ
ら
ま
き
お
借
入
り
い
す
す
や
う
の
務
に
中
よ
布
ま
き
先
を
お
ま
ま
で
の
こ

月 日

喜 那 み び

秋 月 照 子 様

借りた品物を返すお禮

訪問して御馳走になつたお禮

三津木貞子

拜書、昨日はお伺ひいたしましたして、久しぶりの御温客に接し、おん懐かしさのあまりつい長座いたしました誠に失禮いたしました。殊に先生には信州への御講演の旅の御疲れのあとと存じ上げつゝ、旅のお話の面白さま、時の経つのも忘れ、おいとま申上げようと思ひましたとき、こんどは御馳走にあづかりまして、重ね々恐縮つかまつりました。御心づくしの御もてなしとはあのことと、わたくしの今後の家庭生活へ後光が射すやうにさへ感ぜられました。お食卓に出された水鮎とグロスタソースの調和のよさ。アスパラガスがお庭につくられたものであつたり、高貴やセロリの新鮮さ……高貴な洋菜も菜圃に種子をおろせば人蔘牛蒡よりも作り易く、而も安價につき、味の世界も豊富になることなど、おはなし伺ひながら頂くお料理の結構さ、無類のお調味と拜味いたしました。

いつたいわたくしは、都會生活の人は、御馳走と云へば外でいたゞくものゝ様に考へる人が多くて、家庭生活を享樂することが乏しく、客あれば外から種々のものを取寄せて御馳走ぶりを見せ、手料理は失禮といふ様な卑下した態度に出るのは滑稽だと思ひます。なまいきを申すやうで恐入りますが、感激のあまりお世辭なしに申上げる次第でございます。ほんたうに昨日は、わたくしにとつて恵まれた時間でございます。

満ち足りた心持で先生の御門を去りますと、槐の樹かげに折から新月がかゞやいてゐましたが、今宵も晴れていくらか大きくなつた月影を窓にながめて感激の念に一杯で、この手紙をしたゞめました。

在米の兄よりのサンキスト・オレンヂ、僅少なながら御笑味下さいませ。

観劇に招かれたお禮

加宮貴一

昨夜は本當に有難うございました。宅へ歸りましたのは、まだ十時少し過ぎたばかりで、母も大變早いのに見舞いてをりました。無事歸りましたから、何卒御安心下さいまし。歸つて参りますと早速プログラムを擲げて母や妹に面白かつたシーンの説明などをして聞かせましたので、レヴューなど見ず嫌ひで通してゐました母までが、それでは是非一度妹を連れて見に行かうと云ひ始めました。だん／＼母もハイカラになると申して、父も大喜びでございます。かうしてお手紙を書いて居りますと、昨夜見たばかりの、あの天津乙女のときばきとした鏡獅子の姿が目の前に浮んで参ります。本當によくあそびて六代目を勉強したものと、つく／＼感心いたします。お師匠様からいづも、をどりがきまつて来なければ見られたものではない、と云はれ／＼してをります私、見てゐるうちにも胸がわく／＼する程自分の不勉強が恥ぢられてなりません。今後とも益々懸命にお稽古を勵むつもりでございますから、よろしく御指導のほど伏してお願ひ申上げます。

日本舞踊や長唄をやるものでも、これからの若い者は、レヴューなども機會があつたら見におかなければいけない、といふお師匠様の御意見には、父も大變感服いたしました。その父からも、くれ／＼もよろしくお禮を申上げてくれと申出でました。本當に有難う存じました。では、次のお稽古の日を楽しみに。取急ぎお禮まで。かしこ

お見送りのお禮

新妻伊都子

先日はお忙がしいなかをわざわざ一顧までお見送り下さいまして誠に有難うございました。おかげさまで途中無事、昨日任地に到着いたしましたから、どうぞ御安心下さいまし。

久しく御懇意に願ひました上に、美彌子ちゃんも年子と無二のお友達として、毎日遊んでいたといつて居りましたので、本當に御地を離れるのがお名残り惜うございました。年子は危いと申しますのに、汽車の窓から半分體を出して『まだ美彌子ちゃんの赤いおべむが見える』と申しました時には、涙がこぼれてなりません。

私にははじめての轉勤が、いきなり滿洲といふのですから一層淋しさ辛さを覺えます。然し孤島の燈臺守の妻となる人さへあるのですもの、それから見れば子供を教育する立派な小学校もありますし、會社の住宅も御近所に澤山あることですから、淋しいなどと申すのは贅澤かも知れません。何れ此地のよいところが見つかれば、住みよくなることを心に念じながら、毎日引越しのあとかたづけを致して居ります。年子もまだお友達が出来ませんので、一人ぼつねんと土いぢりをして遊んで居ります。其うち地理に明るくなりましたら、こちらの模様をいろいろお知らせ申上げませう。何卒御主人様はじめ美彌子ちゃんにもよろしく。先は御禮旁々右安着お知らせませ。

夏川すみ子さま

小原しげる

先づお忙いといふことわしく願ふをお見送り下さ
 いりて諒は有難くございすたおこの事下さるにて是中
 無事昨日任地は到着いたしまさういふらどうも我し心
 ちきいませー久しくの懇意に転任かりた上に義祿子
 んと筆まとも無二のお友を逢ふて毎日遊んでいたゞそ
 りもまたの午お苗に地を離れるののお名残り情し
 ぶいりた季子を危いと申すまよめに汽車の窓から
 分俵を出きりおに義祿子ちわんの毒いおべの思えは
 申すまよた時よい涙がこおれをちりませんでした
 私よいたゞおその轉勤のいまなり浦洲とふのです
 一層淋しく辛うさるるおえまよ

然し孤島の嶮名守の妻とたなる人々あるのです
 のらつた斗ば子供を教育する之振女小学校もありす
 会社の住宅も近所に海山あることですまら淋しいなど
 申すのを賛嘆うも知れません何れ此地のよいところ
 ういひよくなることおいふ言ひながらある引越しの
 うたづも申す政をたすもまたお友を逢ふて
 来ませんのて一人ぼろねんと土ツクリをいへお
 ますそらち地理はゆるくなりたりたらこらりの様
 様をつらつらお知らせ申すませませ
 何れお主人様をいふ義祿子ちわんにもよろしく先
 づ様身、右安美のお知らせませ

夏川すみゑさま

小原一け

お見送りのお禮

手傳を頼んだお禮

原田 琴子

まり子さん、先達中は永々お女中さんを貸していたとて、誠にありがたうございました。私共が大助りました。したにつけ、お宅様ではさぞかし御不自由なさいましたとせうと、ほんとに申譯なく存じてをります。

私全く今度のやうに困つたことは、家を持つてからはじめてとございました。永年ふたねえやを慰勞のため郷里へ歸しましたあとで子供二人が突然發病、主人は恰度決算期で休んではもらへず、派出歸會へ電話をかけてもどこも出拂つてゐて、私一人で看病やら食事の仕度やらお薬とりやら、全くどうしていいか泣きたいくらなところへ、御親切なお言葉で、もうくすがりつくやうな氣持でお願ひ申しましたが、今考へると御迷惑を考へなかつたやうに思はれて、ほんとにすまない氣がいたします。でも、お蔭様で病人の看護もゆき届き、全快も早かつたのだと、ほんとに有難さが身にしみます。それにあの女中さんは、日頃のお仕込がいゝせらるか、とても役に立つ人で、子供の扱ひ方などあの若さでおどろく位上手で、どんなに頼みになつたか知れませんが。

あんなにしていたら、實は早速お禮に伺ふべき筈なのですが、ねえやも歸り子供たちも全快して、やつと平生のくらしにかへつて安心しましたせらるか、私自身が少し疲れが出たやうですから、勝手ながら失禮させていただきます。いづれ近日お禮に参上いたしますが、心ばかりの品を別便でお送りいたしましたから、どうぞお納め下さいまし。小さい方の品は女中さんへのお禮でございます。私のうれしさと一緒にお渡し下さいまし。

子供が世話になつたお禮

北川 千代

永らく御厄介に預りました英夫こと、今夕五時、見ちがへるほど元氣な顔をして歸宅いたしました。あばれ者を一ヶ月も御面倒下さいました上、かずかずのおみやげもまでお持たせいただき、お心づくしのほど、お禮の申し上げやうもなく嬉しく存じてをります。

頂戴のお野菜は早速夜の膳にのぼせ、新鮮なお味を一同味はせて頂きました。故郷を離れて十五年、まだ一度の歸省の折もなき主人には、ことに子供のやうな喜びにて『ああ故郷の匂ひを久しぶりて嗅いだ』と、くり返しくり返し申しながら、思ひ出話をさつきまでもつけてをりました。又英夫も、はじめての田舎の生活がどのやうに楽しいございしましたものか、歸る早々スワツケースをひろげて、石や昆虫や草花などを並べ立てての大自慢にて、姉妹たちをすつかり羨しがらせ、やつといま床に入りました。さだめし夢はそちらに飛んでゐるのでございませう。

『多やすみには、實ちやんに東京へいらつしやるやうお約束して来た』と申しますので、それは大手柄であつたと主人ともども申してをります。田舎と違つて東京では、のんびり子供の遊ぶ處もございませませんが、動物園、博物館など爲になる處もございませう。どうぞ冬休みには實ちやんをお貸し下さいますやう、今からお願ひ申上げておきます。おちいさま、先達での藤村のやうかん大變お喜びだつたと英夫が申します故、同じもの少々別便にてお目かけました。お口にあつてほんとにうれしうございませう。

御主人様はじめ皆々様に、よろしくお禮お傳へ下さいますやう願ひ上げます。

土地の名産を送つて頂いたお禮

中村 武羅夫

その後は打絶えてのご無沙汰、申譯もございませぬ。皆々さまには、いよ／＼おすこやかな趣きを承りまして、何よりうれしく存じあげます。

さて、この度は思ひもかけず御地名産の美事なる鯛の漬焼きをお送りいただき、ありがたく存じました。主人初め一同、何よりの好物にて、お志のほどもうれしく、とも／＼に賞味いたしました。何かとお忙しきところを、わざわざご自身にてお出かけの上、雄鯛を選んでお焼かせになりましたとのこと、風味も一層に覺えました。

斯く遠隔の地にゐながらにして、御地の新鮮なる食味を一家打ち揃うて賞味いたしますこと、これも偏へにあなたさまのお心づくしの賜と、厚く御禮申し上げます。先づ容れ物の風雅さ、形の美事さ、色の鮮かさ、それに香りと、味ひの好ましき、賞味のほかに更に潮の色も見え、風濤松籟のひびきを耳にし、豫て伺ひ及ぶ御地の磯の景色まで、思はず眼前に浮ぶ心地がいたし、御饗しく存じました。先は取敢ず拜受のご挨拶と御禮まで。あら／＼かしこ

近藤たづ子様

御もとに

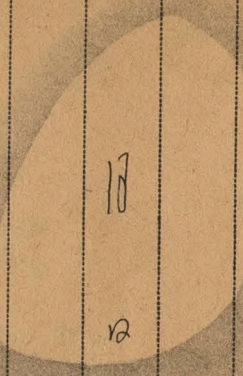
鈴木みちえ

その内を其給をそのご養は居申すは甘きやいお世
 皆：たるにちよよくおすくやうな趣きを承り
 まさしく何とわい好くあしあぢます
 十てこの夜を思ひしうけず市地名産のなるを
 鯛の産地をお送りいたすきありうたく存じました
 主人初め一回何とりの好物にてお志のほどしう
 一うともとくに賞味し申すました何うとおねい
 とをわびごひきにてお出うもの上種鯛を運んで
 お焼うせにならましたとのうや風味も一層に賞
 えました

新しく遠隔の地よりやうらにまきし地の新鮮なる
 食味を一家おち揃うて賞味いたしなほこもこれ偏
 へよあきし十すのお心げえしの賜と存じしう括中
 上と申す先づお礼揚の凡種や所のなるささの
 鮮のやいそゆよ 高麗に味いのおすくや賞味のあ
 更又漁のりしおんえ風流松葉のいどきを身にし
 繰て何ひ及ぶし地の磯の魚をさす思をすねおよ
 浮ふや地のうたしお懐きうあしやうた
 先と取致すお文のご挨拶さうしう括中

あはれーかーこ

新木みちえ



近藤たけ子様

いしと

土地の名産を送つて頂いたお禮

花見に誘ふ

檜崎勤

先日は折角お遊びにお出で下さいましたのに、お喋りばかりしてゐて、何のおかまひもいたさず、まことに失禮いたしました。

その節お話しいたしましたお花見を、今度の十二日の日曜日にいたしたいと存じますが、御都合いかがでいらつしやいますか。奥多摩の方の櫻が、恰度そのころ見頃だらうといふことを聞きましたので。

飛鳥山とか、稲田堤とか、小金井とかいふところは、きつと大變な人出て花見どころか人見になりさうですから、清い水の流れてゐる、静かな奥多摩あたりでの櫻見のほうが風流だと思ひますけど。私達だつて、一年に一度くらは柄になく風流心をもつてもいいぢやありません？ うららかな暖い春の日さしを浴びながら、しづ心なく散る櫻の花びらの下をさまよふのも、何となく心たのしいことだと思つたりしてゐますの。

お辨當は私の方で用意してまゐりますから、どうぞそのおつもりでいらして下さいませ。こちらは主人の弟に私共の三人、都合がよろしかつたら、小さい方の妹も一日お母様にお暇をいただいて、一行に加はると申してをります。

當日雨でない限り、朝九時新宿の待合室にて落ちあひ、お目にかかつて御一緒にまゐりたいと存じます。

ぜひぜひお出掛け下さいますやう、その日を愉しみにしてをります。末筆ですけれども、どうぞお妹さんもお誘ひ下さいませ。

先は、御都合おうかがひかたがたお誘ひまで。何れお目にかかりました上にて。かしこ

花見に誘ふ(返事)

檜崎勤

先日はながながとお邪魔いたしましたして、大變失禮申上げました。

今日は、御挨拶もいたさないうちに、また御丁寧なお手紙いただき、まことに有難う存じました。今度の日曜日に奥多摩へ櫻見にお誘ひ下さいまして嬉しく存じました。ほんとにお言葉のやうに、麗かな春の日をゆたかに浴びて、静心なく散る櫻の花の下をさまよひあるくなど、私こそ柄にもない風流人めきますけど、埃にまみれた街中で暮してゐます私どもには、この上もないよろこびでございます。いまから、静かな奥多摩の景色を思ひうかべたりしてゐます。妹もぜひぜひお伴させて頂きたいと大變な喜びやうでございます。

わざわざお誘ひしていただいた上に、御辨當まで御用意していただくなどと、ほんとに恐縮に存じます。お言葉に甘えて、私のはうでは、何んの用意もいたしませんから、何うぞよろしくお願ひいたします。それとも、花の下の実で一献を傾けるために、お酒でも持つてまゐりませうか。

當日は、御指定の通りにお伺ひいたします。先は取り急ぎ御返事まで申上げます。何れそのせつに。かしこ
なほ、お辨當は私が持たせていただきますから、せいぜいご馳走をお願ひいたしますよ。

潮干狩に友を誘ふ

佐藤惣之助

もう野も山もすつかり春になりましたわね。いつものやうにお元氣でいらつしやいますか。私も毎日家事におはれながらも元氣で働いて居ります。この前お目にかつた時、お約束致しましたわね、あの潮干狩の事、恰度よい時期になつて、この次の日曜が大汐だといひますから、是非行きたいと思ひますの、御都合なすつて、御一緒にお出で下さいませせん？

およろしかつたらお妹さんもおつれになつて是非ね、こちらは母に弟、それに私の三人です。御存じの伯母の家がすぐ海の近くですから、お仕度は何もありません。なるべくお普段着のまゝで、手拭と古い足袋ぐらのお持ちになれば、それで薄山ですの。あとは小舟もありますし、おいしくはなくても、おむすびも作つてある筈ですから、どうかお氣輕においで下さいませ。大風か雨でない限り日曜の朝八時に歸してお待ちして居ります。春の海は朗らかでどんなに美しくせう。ひねもすのたり／＼かなとか申して、きつと油のやうになぎ、淺利も蛤もあ

さど波の中から自由にとれて、小さい鯉なども泳いでゐるだらうと思ふと、今から輝しくてたまりませぬのよ。晴れてゐれば房州も上總も手にとるやうに霞んで見えませう。よいお天氣にしたいものですわね。

では楽しみにお待ち致しますわ。萬一雨でしたら又次の日曜に致しますが、お天氣でしたらきつとお間違ひなくね。取いそぎお誘ひまで。かしこ

もう私にしろすうりまななこころたにねいあるもの
 やうにおえ業でいひつらしくやいますの私もある家にお
 てもれるがらもえ業で働いてたりよほこのあお同よこの
 つた時お約束致しよたわねあの潮干狩の事懐夜よ
 時節もなうそこの頃の目輝が大汐だといひます
 是れは行きたいと思ひますあの都立なすうてあ一緒に
 お出でなさいませうの、およろしくうたらお妹さんとも
 水なうそと心ねこらら母と弟を水は私の三人で
 すりあじの伯母の家へすう海の近くですうらお仕度
 を何とひりませんなうそとお言ふあまのよとてお拭と
 古い足袋くらおお持ちよれ斗はる水で海山ですの
 あとと小舟とありませう——おいさくはなきてもおむす
 とも作らるある筈なすうらとうかお業程におつてあやう
 ず——大風の雨をない限り目輝の物八時よ録でお待ちして
 くれよと考すあの海を郎りかでとんたすよ美しいでせう
 いねもすのため、いねなとか中をまくと油のやうに
 なう、油利も懐もあの十、波の中をら自由にと水と小
 さい鯨なども泳いでゐるだらうと思ひせううら嬉し
 てたよとて、せんのだよ
 晴れをおまは、おおと上総もよとるやうにおおんて
 だそそやせうよいおえ業にしたいのですわねうは
 ちよみよお待ち致しすすわあ一雨でしたら又次の
 目輝に致しすすのおえ業でしたらまるとお百連ひな
 くね取いそやいお誘ひませう

ピクニツクに誘ふ 北村小松

先日は失禮致しました。
 お宅では皆様御元氣の事でございます。
 あなたのおすゝめのお蔭で、講習會に通ひまして以来、宅の食卓が賑かになり、主人も毎晩「今夜は何を喰はせるんだ」など楽しみにして歸宅して呉れますので、この所大いに張り切つて板前さんの實演を致してをります。
 さて、天氣豫報にそむいて昨今は良いお天氣が続き、いかにも初夏らしい氣候になりました。
 この次の日曜日、もし、このまゝの良好いお天氣でしたら、お宅の正夫さんと和子さんも御一所に、ピクニツクに皆で出かけようではないかと、主人と私と弟とで決議してしまひましたの。そちらの御都合を伺ひもせず、決議してしまつたのは勝手でございますが、もしよろしかつたら私どもの決議に、事後承諾をお願い致したうございます。
 何でも日吉の方に出かけ、歸りに日吉園で苺つみをすれば、御子様方にも珍らしくて、よいだらうと話してゐるのでございます。私はまだ一度も行つた事のない所ですけど、弟が昨年、お友達と、ハイキングとやらで出かけて覺えて參つた様でございます。
 食料品は、私共自製のおむすび、サンドウィッチ等持参いたしますから、たゞお身輕にお出かけ下されば結構でございます。皆様、よろしうございましたら當日九時頃、こちらからお宅にお寄りして勢ぞろひの上出發致したいと存じます。御返事楽しみにしてお待ち致します。かしこ

ピクニツクに誘ふ(返事) 北村小松

おさそひのお手紙拜見致しました。ありがたうございます。
 かう云ふ決議なら、いつでも喜んで事後承諾致すのだからでございます。主人に話したら、二つ返事で、それはよい事にお氣づきだ、流石は峰さんの奥様だと申しまして早速、子供達に、この日曜日には峰さんの小父様や小母様方とピクニツクに行く事に、お父さんとお母さんは決議したが、承諾するか、どうか、と話し出す始末なのでございます。子供達は勿論、バンザイと両手を上げての喜びやうでございます。和子などは、苺をとりに行くなら牛乳の瓶と、お砂糖をもつて行かなくつちやと云ふ騒ぎ方でございますの。
 おほせに従ひまして、日曜日には、宅でお待ち致すことに致します。どうかそれまで、このまゝのお天氣をもたせたいものでございます。
 では、どうぞお早めにお出かけ下さいませ。なほ食料品の主なる方は奥様が御負擔下さいますさうでございますから、こちらでは、おやつ甘いものゝ方を用意致すつもりでございますから何卒、お含み置き下さいませ。
 何卒、御主人様、敏夫様にもよろしくお傳へ下さいます様。とり急ぎ、御返事まで。

海水浴に誘ふ 深田久彌

白鳥は悲しからずや海の青空の青にもそまらずたよよ
 海が青くなりました。こゝまで書いてちよつと用事に立つたら、兄がこつそり讀んでしまつたの。『海はいつでも青いよ、夏にならなきやお前なんて海を見ないから、殊更青くなつたみたいにびつくりして書くんだらう』つて憎まれ口をききました。私言つてやつたのよ、『黄海だつて紅海だつてあるぢやありませんか』すると『あゝ海は三原色だナ』だつて。書き出しに牧水の歌なんか引出した詩的氣分がすつかり退散してしまひました。
 兄とこんな話しを合ふのもうあとせい、三年よ、と母が取りなすのを聞けば、ほんとにさうよ。泳ぎませうよ、いらつしやいな。今年はヨットの旗の色も鯉茶に變へたのよ。あなたの好きな早稲田びいきなの。まけずに烏帽子岩までクロールで競争しませうよ。

あなた水着を考案していらつたのお出来になつた？ 銀と紺だつたわね。きつと人魚のやうでせう。そのデザイン私にも貸していただきたいわ。お揃ひとはゆかないけど、嫁人魚と家来人魚でも私光榮よ。
 こんどの土曜きつとね。おいてのお時間お電話してよ、譯までお迎ひに參ります。
 残念だからもう一度書かしてね。海が青くなりました。グイナスは海から生れました。いらつしやるのが待遠しわ。

白鷺も此——うらや海の喜せいの喜にこそまじり
た、よふ

海が喜々をわすれたら、まじり、おつてちよつと用事よ
きりたり思ひ、うらや讀をこゝろたの海をうらで
喜いよ、おにうらをわおあをんて海を思ない、うら
殊更喜々をわすれたみよ、まじり、まじり、おつてだらう
つて悟れ口をきこりした私をうらやうたのためよ「貴海
だらう、お海だらう、あるぢや、あるぢやせん、の、するよ
「あ、海も三原ちだす」だらう、喜々、あ、よ、物水の
新たまの引出した詩的氣分のすう、うら、馬散して
し、まじり、すうた

思と、いん話しを、いん話のとも、あ、せ、うぐ、二年よ
と母が取アをすの、お、あ、は、あ、た、ま、ま、よ、泳ぎませう
よ、うら、うら、や、い、お、い、な、今、手はヨットの旗の色も、極楽
に、愛、つたのよ、あ、あ、た、の、あ、ま、い、お、福、田、び、り、き、な、の、ま、け
ず、に、写、帽、子、あ、ま、り、う、ら、い、で、競、争、ま、ま、せ、う、よ、あ、ふ
た、水、着、を、あ、ま、り、い、て、い、ら、ま、た、の、お、あ、ま、よ、な、う
た、の、お、ね、お、甜、た、つ、い、わ、ね、ま、つ、と、人、魚、の、わ、く、を、せ、う
その、チ、サイ、レ、私、にも、読、ま、つ、た、う、さ、た、い、わ、お、接、い、と、え
ゆ、う、な、い、も、お、娘、人、魚、と、家、事、人、魚、でも、私、を、あ、ま、よ
え、ん、ど、の、お、ね、ま、つ、と、ね、お、い、その、お、時、分、お、お、電、話、し、て、よ
譯、ま、つ、と、お、い、に、あ、ま、り、ま、す、殊、急、だ、ら、う、ら、ま、ま、う、一、度、ま
か、つ、と、ね、海、の、喜、々、な、り、ま、ま、つ、と、い、ん、た、ス、は、海、の、う、ら、生
れ、ま、ま、つ、た、い、ら、う、う、ら、の、お、お、結、合、し、い、わ

音楽會に誘ふ

先日の國技館では浴衣がけの男衆も暑さうな顔でしたのに、今日は又梅雨じみた雨で、變に冷えびえ致しますが、お障りもなくお過していらつしやいませうか。

國技館といへばあの節はあの混雜の爲、近ぢかとお顔を見ながら御挨拶にも伺へず、ほんたうに心残りでございます。お話がこんななたまつてゐるのにと、家へ戻つて後もどんなに口惜しかつたか知れません。それに付けても毎日お目にかかつて、好きなお話の出来た在學時代を懐しく思つて居ります。

扱突然ですが、今度の金曜に何かお約束がござりになりまして？ 實はR氏のピアノ獨奏會へ家中でまゐる筈になつて居りましたところ、父が急な社用の爲明晩西下することになりましたので、残りもので失禮だけど織枝さんでもお誘ひしたらと母が申すのです。母は此前R氏の來朝した時、貴女と私とが、よかつたわねよかつたわねと聞いてゐたのを憶えてゐたらしうございます。あの頃は二人ともピアノの始めたてでしたものね。シヨパンのエチュードもどうやら弾きこなせる今の私達に、R氏のタッチがどう感じられるか、——音楽會へ行く樂しみの中には、そんな氣持も混つて居ります。

御先約がなかつたら、なるべく御都合をおつけになつて、いらしつて下さいませんか。母は明るいうち宅まで来ていただいで、御一緒に御夕飯をいただいたらと申して居ります。そして歸りは車でお送り申上げようと思つて居ります。ではどうかよいお返事いただけますやう。鎌傘下で出来なかつた積のお話申上げられる金曜日を、今から樂しみにして居ります。先はお誘ひを兼ね、右まで。かしこ

觀劇會に誘ふ 小寺 菊子

相變らずお稽古ごとや、家事のお手傳ひでお忙しなことせうね。叔母さんも何やかやと例によつて、人さんからいろんな事を頼まれたりして、毎日落着かない日を過してをりますが、幸ひ元氣ですから御安心下さい。

さて、近頃新しい劇團に關係してゐらつしやる、橋田邦夫さんといふ方ね、あなたもお名前を知つてゐるでせう、あの方の奥様から、來月の新興劇團の切符を二枚送つて頂いたので、一枚同封します。

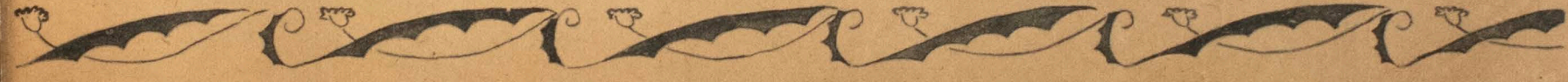
出しものは橋田さんの書きおろして、結婚問題を取扱つた、新しいテーマの物が一つ、それにあまり珍らしくもないけれど、チェホフの『櫻の園』です。櫻の園はあなたまだ御覽になつてゐない筈だから、一度は見ておかれた方がよいと思ひます。舞臺裝置も大分變つた趣向だとかいふ話で、新進の女優さんが一寸評判になるだらう、と橋田夫人がなかく張り切つてゐらつしやるやうですから、出かけて見ませう。場所は公會堂、開演は六時半ですから、都合で叔母さんのところへ來て一緒に夕食飯を頂いて出かけたらいかが。それともあちらで逢つてもいゝよ。歸りは叔母さんの自動車送ります。ではお母さんにも宜しくね、もう一枚あつたらお母さんをも誘ふのに、あしからずつて申上げて頂戴！

博覽會に田舎の母を招く 氣 鴉 君子

此頃はとかく雨がちにて、家の中まで濡つぽくじめく致すにつけ、母上様の御持病が氣遣はれてなりません、其後お變りもなくいらつしやいますか。當方は兩人とも元氣よく、殊に貞雄は最近目に見え肥つてまゐり、先日會社から箱根へ旅行の折、宿にて體重器にかゝりました處、春よりは一貫目もふえてをりましたとの事、此分ですん／＼進みましたら、冬服に經濟上の一大恐慌を來すなどと、大笑ひ致しました程故、どうぞ御安心下さいませ。

先頃一寸御耳に入りました、博覽會の開催も、いよく半月後に迫つてまゐりました。今度は建築の大規模もさる事ながら、内容の豊富なるは未曾有との事、又見物の方法も一會場毎に切符を區ざられ、日をかへての見物も自由にて、足弱の女子供も容易に全部を見盡せるやう、萬事の設備も、行届き居るとの事御座います。殊に母上様は多より夏の方が、お體の調子もおよろしいと承つてゐますから、此際には是非々々御奮發下さいませやう、貞雄も切にお進め申上げるやう申して居ります。今度移りました家には、風通しのよい南向きの六疊が御座いますから、きつと御氣に召す事と信じてなります。博覽會の御見物は元より、ごゆつくり御滞在の御豫定にて御出京下さいませやう。土曜

か日曜に御着きでございますしたら、途中まで御迎ひに參ります。御出立の日時おきまりになり次第御一報御願ひ申します。兩人にて其日をひたすら御待ち致して居ります。



坊頭ととらふ雨にちりて家の中を濡つぱくちめく
 致すもつちりて母と様のお持病の業をなすりませむ
 其後お變りもなしくいらしくわいすのちかんと
 之氣よく強より終を最良同よりそ紀をなすり先日の
 社より笠根へ梅りの折指にて侍を恙にいらわすた
 考よりは一貫同もふそとらふもまたとの事坊分
 なまおたらお娘に経高上の一太お愼を奉すな
 大、笑ひ致しよそた、経高とら梅しおあ心あ
 せ、吹一寸お身は入水すた坊頭会の一井得も
 本日後に向うてまありました今夜も建業の大
 せたる事なすり内家の曲高なるも未
 已物の方法も一急坊女よお符を返さ
 も自由にて足弱の女子供も
 の設備もい届きけるもの事
 とう夏の方のお侍の調子も
 あり坊頭はと心こ
 お毎あ中上げりやう申
 家は、川通し
 此業に居する
 之より少ゆるり
 土曜か日曜に
 又一より少ゆるり
 此業に居する
 致して致すま

せたる事なすり内家の曲高なるも未
 已物の方法も一急坊女よお符を返さ
 も自由にて足弱の女子供も
 の設備もい届きけるもの事
 とう夏の方のお侍の調子も
 あり坊頭はと心こ
 お毎あ中上げりやう申
 家は、川通し
 此業に居する
 之より少ゆるり
 土曜か日曜に
 又一より少ゆるり
 此業に居する
 致して致すま

舊師の謝恩會へ出席を誘ふ

細川 武子

千鶴子様。

其後久しくお目にかりませんが、いつもながら御元氣に、朗らかな日々をお過しの御事と存じ上げます。

さて、すてにお聞き及びかと思存しますが、母校の吉川先生が此度御老年の故を以て御退職になられることとなりました。吉川先生にはどの先生よりも長くお教へ頂いて卒業後もお父様のやうにお慕ひいたし、級友の誰彼となく親身のやうなお世話を受けてをりますこととて誠ににお名残り惜しいことに存じます。就きましては卒業生一同にて謝恩會を催し、心ばかりの御禮の意を表したいと次のやうな申合せに致しました。

一、期日 九月十二日(日曜日) 午後一時より

一、場所 母校講堂

一、會費 金貳圓

御承知のやうに、極く派手なことのお嫌ひな先生ゆゑ、出来るだけ質素にして、唯私共の眞心からのお禮を申し上げたいと存じます。先生は先年奥様を失はれ、家庭的には、大へんお淋しくいらせられるやうに承つてをります。この謝恩會も此度の一回にかぎらず永久性的のあるものとし、先生を少しでも、私共でお慰めしてゆくやうにしたいと思つてをります。なほ會費の中、壹圓は先生への記念品と當日の寫眞の費用にいたします管、必らず御出席下さるとは存じますが、同封の葉書で折返し御都合御知らせ下さいやう、此の町にお住ひの同級生は、芳子様、清子様はじめ、一人残らず御出席の管にて、皆あなたをお待ちいたしてをります。

同窓會へ出席を誘ふ

茅野 雅子

お元氣でいらつしやいますか。

いつぞや日比谷の音楽會の時は失禮しました。久しぶりに御目にかつてお話ししたいことが澤山あつたのですけれど、おつれの方がおありのやうだったので、何だかきまりがわるくなつて大變失禮しました。御めんないね。

その後ゆつくり何はせていただかうと思つてゐましたところ、けふ幹事さんから同窓會のお知らせを頂きました。この二十日にあるのですつてね。是非いらつしやいませよ。ゆつくりお目にかかつてお話ししたいと思ひますわ。

お暑い時ですけれど、三笠園ならお涼しいでせうし、閑静なところですから、きつと皆さんとたのしくお話しが出来たらうと思ひます。久し振で先生方にもおめにかかれるでせうし、遠く朝鮮についていらつしやつた三井様も今歸つていらつしやるので、御出席になるさうですから、あちらの珍しいお話も伺へることとせうとたのしんでをります。又、お食後は、何時ものやうにお遊びもあるでせうしな。

去年は面白かつたでせう。泉亭の芝生の上で、大供達がなりふりもかまはず鬼ごっこをしたり、ボール投げをしたりして木村さんは學生時代に變らず足がお早いので、つかまへるのに汗だくになつてしまひましたことね。おもはず筆がそれてしまひました。御都合がおよろしかつたら是非御一緒にまゐりたいと思ひますが、いかがです。お返事をお待ち致してをります。

同窓會へ出席を誘ふ(返事)

茅野 雅子

お手紙をやつとけふこんな山の中で拜見しました。こま／＼とお知らせ下さつてありがたう。こゝまで来ると東京のおたよりが一層おなつかしうございます。同窓會はこの二十日ださうでございますね。私はまだその通知も見てみませんのですけれど。

實は母が春からの持病の豫後がはつきり致しませんので、お醫者様にすゝめられますまゝに、四五日前から母の郷里のこの温泉へまるつてをります。來た當座ごた／＼してゐましたのでついお知らせもせずをりました。おゆるし下さいませ。おかげ様で母もこちらへまゐりましてからは、大變具合がよいやうで間もなく庭うちの散歩ぐらゐは出来るやうになるだらうと思存しますが、こゝ當分は歸京出来ないことと存じます。

同へば今度の會には、お珍らしい方もお見えの御様子、昨年會の折のことなどまぎ／＼眼に浮びますのに、ほんとは残念でございます。あなたからどうぞ、みなさまによろしくお傳へのほどお願ひ致します。それから勝手なお願ひですけれど、どうぞ會の様子、皆さんの御消息、ぜひお知らせ下さいませ。お待ちしてをりますから。さやうなら

同窓會へ出席を誘ふ(返事)

お母様もまたにけふうんまの申でお返しをまつた
 ころもぐとお知らせを下さうてありうたうころもぐであるが
 ちよとのあたをわの二層おなつううごさいいかなり
 ともこの二十日たさうでございいますね私をまたよの通知
 もしておますしのですちよまじ

室ら母の喜この持病の線後ごころちり致しませ
 んのでお醫者様にするめをさすまうにやあるあ
 らら母の郷土の温泉へすあうてをりますの

またやの付ごたうしてあちのたのでついお知らせも
 せずにもわすれたおゆるしをいませ

おうぢ様で母もころちりへおぬりかきつてころは大変
 申し金ごのよいやうで居てもう癒うちの散歩くらおら
 出来るやうになるたうとちんごをりますの

ころもめおと帰京出来ないころ、あします

何くも今後の念にお知らせの方もおいてその席の様子
 本んとよ陸倉でございませあるころと娘に逢ひますのよ
 せんよによらまうお借ぐおおとお務め致します

そつらら様子をお務めですなまじ

ごうごの念の様子皆せんの時消息をいお知らせりさう

ね

お節ちををりますうらなうなり

結婚の通知

大妻コタカ

拜啓 新縁の候益々御慶儀はしく渡らせられ候御事と御慶び申上候。
 陳者豫て婚約中に有之候。私共、兩人儀木村正一氏御夫妻御媒酌により、本月十日結婚いたし表記に新居を構へ申候間、今後何卒一層の御指導と御交誼を賜り度く幾重にも御願申上げ候。
 略儀ながら書中を以て御挨拶かたぐ右御通知まで申上候。
 敬具

昭和十二年八月二十日

吉田三郎
同光子
(舊姓 鈴木)

出産の通知

小金井素子

先日は御遠方を折角お出で頂きましたのに何のおかまひも申上げず大變失禮致しました。お土産に頂きました瓦煎餅、大變結構でございましたので、弟達はよろこび、夏休みに海水浴に伺はせて頂く時のたのしみが増えたなど申して居ります。厚く御禮申上げます。さて、其節もいろいろ御心にかけて御案じ下さいました東町の姉のところ、今朝早く女の子が生まれました。初めての産には大そう軽く幸だつたとか、鼻すちの通つたい子だとか母は大き過ぎ致して居ります。私もお蔭様で漸く叔母になれたわけでございます。たゞ珍らしいばかりでまだ可愛がる事は出来ませんが、嬉しい事は人一倍嬉しうございます。姉も元氣で居りますからどうか御心安う思召し下さいまし。母は姉の方へ參つて居りますのでとりあへず私から御知らせ申上げるやう仰せつかりました。
 末筆乍らまさ子様、みち子様によるしく。かしこ

入學の通知

大村嘉代子

先頃より梅子の入學試験の事お心におかけ下さいまして度々おたづねいたゞきありがたう存じました。今日発表がございまして、おかげ様で入學が出来ました。先日の學科試験では入學の中には居りましたものゝ、其の後一昨日の口頭試験の結果が氣づかはれてなりませんでしたが、今日の発表で入學確定となりまして漸く安心いたしました。準備中は一と通りならぬ御心配をおかけ申し、いろいろ細々と御注意をいたゞきありがたう存じました。入學の叶ひましたのも、全くおかげ様とあつく御禮を申上げます。近日參上したいと存じます、始終およろにおかけ下さいましたあなた様には、第一にお知らせ申したく取りあへず一筆とりいそぎまして……。

卒業の通知

守屋東

伯母様、御元氣でいらつしやいますか、木の芽たちの頃は例年御手やおみあしがおいたみになるやうでございまして、今年は何でいらつしやいますか、御案じ申してをります。
 伯母さま、およろこび下さいませ、操はおかげ様で卒業いたしました。式の當日は總代で答辭を述べた事になり、皆様からもしつかりやつとと勵まされつゝ、暗れの席に立ちました。おかげ様で自分でも落ついた氣持で、日頃先生方から御うけた御恩の御禮も申す事が出来ました。友達同志の親しいものといよ／＼別れて、今日から社會へ出て行くのだなどといふやうな事を申述べてをりますと、自然に涙さへ出て、卒業式の喜びの悲しみといふやうなことをしみ／＼と味はひました。

職業人としての教育をうけて世に出てゆく私共へ校長先生を初め諸先生方の御慈みは決して忘れて忘れる事は出来ません。私共の歩み方一つで、この學校の價値も信用も高まるのだと、考へますといよ／＼責任を感じます。

この頃になつて急にすべてのものが、事新しく見られます。社會の一年生になつたからでございませう。
 伯母様！ どうぞ今までにも増して此一年生をお教へ下さいませ。お導きを頂いて、よい勉強をしてゆきたう御座います。まづはお知らせをかね御禮まで。かしこ

病氣の通知

橋爪健

お姉さま、しばらく御無沙汰いたしました。皆さまお變りはいかがですか。美佐子ちゃんもずるぶる大きく可愛らしくなつたでせうね。

實は、とうにお知らせする筈でしたけれど、心配性のお姉さまのことですから、どんなに驚きになるかと思つて、今日まで控へてまゐりましたが、先月末からお父様がお加減悪くて、ずつとお隊みになつてをりました。初めはほんのちよつとした風邪だつたのですけれど、少しこじらせたため、運わるく急性肺炎をお起しなされたのです。

一時はお熱がととも高くて、心配でなりませんでしたが、今ではもう殆んどおよろしくなつて、お医者様も、あつと一週間ぐらゐのうちににお床離れできませうと仰有つてゐらつしやいます。どうぞ御心配なくね。ふだん御丈夫なだけに、お母様もずるぶる御心配なさいました。でも、ほんとに良かったと思ひますわ。

では、ちよつとお知らせまで。さよなら

病氣全快の通知

福田正夫

みね子さま。

初夏になりましたのね。碧の空、かゞやいてゐる緑の葉風、なんてうれしき季節でせう、私ももううれしくてうれしくて、胸がからりとしたやうな氣がしてゐますのよ。

だつて、今日またお医者さまに行つたら、——もう薬も止めませう、これで全快ですわ、つておつしやるの。歸り路でも私、涙でも出さうなほど……そのくせとび上がりたいやうな氣持になりましたわ。

あなたにも、あんなに心配して頂いた重病で、病院生活三ヶ月、通院一ヶ月間……ふしぎに生命をとりとめたばかりか、もとの健康をとり戻したんですもの。こんなうれしきことつて、生まれてはじめてですわ。

申遅れましたけれど、度々御見舞して頂いたり、お心にかけて下さつたお禮を、申し上げさせて下さいませ。お蔭様でと、父や母も大よろこび、よろしく申上げてくれと申してをります。

そのうちに、なるべく早くお伺ひしますけれど、何より先づあなたに喜んで頂きたくて……さやうなら

死亡通知

服部嘉香

父太郎儀病臥中の處本日午前八時二十分死。去仕候に付ては来る七日午後二時より三時迄自宅に於て佛式に依りご葬儀執行。候。此段生前の御厚誼拜謝旁と御通知申上候。敬具。

昭和十二年七月五日

東京市世田谷區世田谷三丁目一三九八番地
嗣子 林田 森之助

移轉通知

伊福部敬子

その後は御無沙汰いたしました。皆様お變りもございませんか。

このおたよりは、ずつとお近くからさし上げるので御座います。四五日前、表記の所へ移轉いたしましたの。いつかも申し上げましたやうに、今度百合子が高師附屬の小學校に入學しましたので、これまでの住居では往きかへりにおまり時間をとられまして、本人も家のものも大變でございますので、思ひ切つてこちらに移りました。何分子供本位に考へまして、たゞ通學に便利になつたといふだけのこと、至つて手狭な住居ですけれど、あなたをはじめ、美子さん、大川先生などの御住居にちかくなつたことは、思ひ設けぬ喜びでございます。

私もこれからは度々伺はせて頂きますから、あなたもお子さまおつれになつて、お散歩のついでにでも度々いらして下さいませ。道順は、大塚辻町から池袋通のバスにそつて一丁ばかり、淺川洋品店の角を左に折れて三軒目、低い黒板塀の二階家。尤も、夕ぐれからなれば、くちなしの佳い香りをあてにいらして下さいませ。

荷物の後片附や何かに、まだ三四日はごた／＼してゐて、お伺ひいたしかねます。もしお手すきでしたら、どうぞいらして下さいませ。おもてなして何にも出来ませんが、お好きなゼリーでも冷たくしておまうけいたしますわ。

送金の通知 伊福部敬子

梅雨あけかくなつて急にお暑くなりましたが、お變りありませんか。もうそろ／＼學期試験が近くなつて、忙しいのでせうね。どうぞ體を大切に、しつかり勉強して昨年にまけないよい成績をとつてお父様を喜ばせて下さい。此方はお祖母様お父様はじめ皆々元氣でいますから御安心下さい。今年は蠶の値もよかつたし、畑の作物も今のところよいやうだと、昨日も役場の方とお父様が話してゐられました。さて、こゝに六十圓の爲替券同封致します。十圓の餘分は、夏休みに歸る旅費としてお父様がお加へ下さつたものです。受取つたら早速に御禮をお出し下さいね。

それから、毎月の出納は、あなたのことだからきちんと書きとめてあるのだらうと思ふのですが、それをお母さんのところへ毎月送つて見せて下さい。あなたが無駄づかひなどするのを心配してはなく、いつか、あなたが一家の主婦として立つために、お金の出し入れなどを本當に上手に合理的に出来るやうに習慣をつけておきたい、と思ひながら、離れてゐてはそれも出来ないところから、せめて思ひつきだけでも助言したい心からです。

夏休みに入つたらすぐお歸り下さい。あなたの好きな梅酒や冷麥など、おばあ様が用意して待ちきつてゐられますよ。では體に氣をつけて。

就職の通知 奥むめお

お父様もお母さんも健ちやんも、みんなお達者なこと、存じます。私も相變らず元氣で、タイプの夜學にも休まず通つてゐますから御安心下さい。扱、けふはうれしいお便りです。私いよいよ東都生命保險會社の事務員に採用されました。明日から早速出勤いたします。先達て試験を受けたばかりなのに、こんなに早く採用の通知ですから、全く夢のやうにうれしうございます。二十三人の受験者の内三人だけが合格したやうでございます。外のお二人は東京でも一流の公立女學校の卒業生なので、肩身が狭いやうですが、仕事に精を出して實力で勝つてゆきたいと思ひます。當分は見習で、朝は九時から夕方五時までの勤め、仕事は珠算のお稽古ばかりださうです。珠算ならばお父様にきびしく仕込まれてゐますから、自信があります。必ず立派な成績をあげるつもりでゐます。

二ヶ月ほどたつて一人前になりますと、制服を頂き、月給も三十五圓になります。制服を着られるやうになつたら、寫眞を撮つてお目かけようとか、初めて月給を買つたらどんなふうに使はうかしらとか、昨夜から楽しい空想と希望で頭の中は走馬燈のやうです。伯母様があしたはお祝ひに赤の御飯をたいて下さるさうです。何れ後便でまた委しく申しあげます。みんなお體お大事に。かしこ

新婚旅行安着の通知 守屋東

お母様、只今無事宿につきました。行雄様は早速御風呂にお出になりましたので、其間にペンを走らせませす。お母様の御指圖に従ひ、沼津で途中下車いたしましたしてお父さまの御墓にお詣りいたしました。椎の木の小暗い蔭に立つたお墓に向ひますと、何とも申す事も出来ず、たゞ涙がこみ上げてまゐりました。行雄様も『お父様のお墓だ！』と仰しやつたきり、二人じてお掃除申上げ、お母様のおすきな白百合を澤山捧げて讀經していただきました。お母様も御存じてございませうが、寺男の老人がいろ／＼世話をしてくれまして、『奥様もどんなにか御安心だらう』と申しました。

この宿は、外海にまでつゞく松原の前にし、心も晴れ／＼する見晴しでございます。私共だけ斯うした静かな處に參つて休ませて頂き、申譯ないやうな氣がいたします。でも初めてかうした處に參りました私は何もかも珍らしく、嬉しうございます。

お母様ほんによいお土産話をもつて歸りたうございます。どうぞお待ちになつて下さいませ。先づは右安着の御報らせまで。

お母様

只今恙事無に申すした

し終様を早速に承知にお出なりましたので早速
にペンを走らせました

お母様の指図に任じれば済み申下なりました
お父様の墓にお詣りした

陰にまらたお墓に向いますと海も中する申も出来ず
たに涙のこみ上げておりました

し終様もお父様のお墓だしと仰しやうたやうに
してお帰申すと申お母様のお事な御冥を深山

持参して讀経していたました
お母様もいあじでございませうが古来の志人の

し終様も話をしとらねえと申すあつた様もごんなにか
いあじだらうと申すした

この指をお海にやうに書くとお母様をおいにしつても
するは晴しと申すは

私共いそがしく申すはあつた申すはあつた申すはあつた
頂き申すはあつた申すはあつた申すはあつた

したあつた申すはあつた申すはあつた申すはあつた
まうございませう

お母様あつた申すはあつた申すはあつた申すはあつた
いませう

どうぞお結末にならうと申すはあつた申すはあつた
のりおらせませう

娘の縁談を頼む 仲町貞子

先日は御旅よりの数々の御繪葉書まことにありがたく一同打寄り拜見致しました。子澤山の私は何時になればとて、さういふ楽しい旅が出来ますことやら、つくづくお羨ましく存じました。

そのやうなことから思ひついたわけても御座いませぬが、先日も姑が参られ睦子が花嫁さんになつた夢を見た話され、どこからかさういふ御請望には預からないかとのお話にて、日夜長男次男のことは頭から去らないまでも、十九になつたばかりの睦子のことはさほど氣にも止めず参りましたので、急に目を覺まされたやうにて心急がれ、それにつけましてもおたよりに致しますのは、あなたさまよりほかに無く、睦子のことお願ひにこの手紙認めました。

當人は主人似て體格はよろしく、學業はどうやら全甲、親から申すのは如何と存じますが、なかなかの努力家にて、家事向のことを致させましても、落ちついてじっくり處理して参ると云つた性質でございます。

何しろ田舎の小地主の娘にて、何事にも質素に質素にと育てました故、物質的には兎や角の慾望は無く、矜持もち眞面目で健康な方なれば、喜んで嫁ぐことと存じます。若しそのやうな方に御縁御座いましたら、御世話下さいませやう御願ひ申上げます。寫眞も御送り致して見ました。これは實物より少し美しくして老けてをります。

姑もあなたさまのことお話しいたしましたところ、それは御交際もお廣いし、こちらのこともすべて御承知故ほんとうにありがたいことだと申し喜んでをられました。厚かましいお願ひながら何卒よろしく御願ひ申上げます。

末筆ながら御主人様へも御よろしく御傳へ下さいませ。今日はただお願ひのみ申上げました。

女中の周旋を頼む 宮田多賀子

裏山の樹々の緑の毎日に色増す頃となつて参りました。皆様御機嫌よくゐらせられませう。平素御無沙汰ばかりして居てお願ひだけは遠慮なく、一寸氣取かしの様にぞんじましたが、例のこととお許し下さるものと自分ぎめいたし、早速ながら申上げます。今度女中が國許で縁があつたとかで兩親からお暇を申して來ました。當人は私のお産のある事も知つて居ますから、大變に氣の毒がつて、式の前日迄置いて頂くと申してくれませんが、さうもならず、早く代りを入れて慣らして思ひますので、至急一人お世話願ひたいのでございます。年は十七位から二十頃迄、丈夫で素直な人であれば外になんの洋文もございません。お給金は拾圓、登程には應分の心づけを致します。其外私共の何もかもよく御存じのあなた様、ありのまゝ先方にお話下さいませ。あなた様のお目録に叶つた人なら、お目見えなどの手数をはぶき、直ぐにお取りきめ下さいませ。一寸も早くおよこし頂きたいと存じます。

私は不思議にも女中運がよいので、今度もきつとよい人が來てくれるものと信じて楽しみにして居ります。どうか何分にもお願ひ申上げます。かしこ

就職の世話を頼む 河崎なつ

先生！今日は折入つての御願ひでございます。あまり御無沙汰申上げてゐましたので、何か申上げてよいかわからぬ位でございますが、實は豫てより長病の母が昨秋死去し、續いて暮には頭健を頼みにしてゐた父の頓死にあひ、小さい三人の弟妹達を、私と十七になる弟の手で支へてゆかなければならなくなつたのでございます。

末の妹はもう尋常二年生で手はかりませんが、市役所から頂く二十圓の遺族扶助料ではどうにもなりませんので、弟は中學四年で退いて、さる自動車工場に臨時工となり、毎朝七時から勤めて日給六十五錢を頂いてをります。私も弟の健氣さを見るにつけ、何か職業をと焦つてをりますが、今は時期が悪くてどこにも勤め口がございません。私が一番上ではあり、私だけ女學校を卒業させてもらつたしあはせを、今こそ弟妹達の上に生かさなければと思ふと、夜も目がさえて眠れぬ位でございます。

昨夜もいろ／考へてをります中、先生のお顔がふつと目に浮び、さうだ先生に御願ひして見たらと、長い間の御無沙汰の申譯なさを存じ乍ら、この手紙を書きはじめました。

先生、何なりと私に勤め口は御座いませぬでせうか。慾を申せばいろ／理想もございませぬが、私に出来る事ならどんな事でもいたしますから、どこかよきところへお世話願へませぬでせうか。

先生の御高配にひたすらおすがりする次第でございます。どうぞ何分とも御願ひ申上げます。

弟の保証人を頼む

宮田 多賀子

伯父様、新聞でも御覽下さつたこと、存じますが、三郎は幸に試験が受かりました。伯父様もどんなにかお喜び下さること、存じます。一高は初めから望みはなし、さりとて思ひ切つて地方へ手離すのも心配、静岡なら第一伯父様も居て下さるし、それにおすゝめ下さるのを力草に背水の陣を敷いたのがよかつたかも知れません。三郎の中學からは只一人の入学、當人よりは私の方が夢中になつて喜びました。その慶びの中でも両親が居たら嘸と涙ぐみまして、これでも忙い両親への心の約束の一部を果して、肩の荷も幾分軽くなりました。つきましては保証人のことで御座いますが、御地在住の人に頼むる様にとのこと、この後は尙更重事お世話を取頂いて伯父様にお願ひいたしたい、決して御迷惑などはおかけしないから、と當人も申ししますし、私もさう願ふのが何よりも安心でございますから、どうぞお願ひ申上げます。

一寸伺つて御禮もお願ひも申上げたいと存じますが、會社は只今繁忙期で御座いますので、休暇の願ひを出し兼ねまして、據所なく書類一式と學校へ差出します金員別封書留に致しました故、お手數恐れ入りますがよろしく御取計ひお願ひ申上げます。早々

娘の上京について監督を頼む

佐々木 邦

先頃は御轉任の途次、皆様お揃ひでお立寄り下され、誠に有難く存じます。何の風情もなく、失禮申上げました。田舎町の醫家の簡易生活にはさぞお驚きになつたこと、ございませう。もう少し御ゆつくりして戴ければ、御案内申上げるところがありましたのと、主人も返す、残念がつてをります。

その後もはやお落ちつきのこと、存じます。久しぶりで又々東京の御生活、お子様方の御勉強の爲めにも御好都合と萬々お羨ましく存じ上げます。私達は今までは何うしたものと迷つてしまつて、動けさうにもございませぬ。しかし田舎の生活も慣れてしまへば氣安く、毎日を楽しく過してをります。

さて、その折お耳にお入れ申上げました通り、長女貞子近く當方高女卒業後東亞女子大學校入学のことに相談が纏まりました。お宅の正子様の後について勉強させたいと存じます。本人も正子様にお目にかかり、種々とお話を承はつて、すっかり決心を固めました。私達は今までは何うしたものと迷つてしまつてしまつたが、姉上様御一家の東京御轉任とその折の御親切な言葉によりまして、安心して娘を手放すことが出来まして嬉しうございませぬ。

ついでには來月早々連れ立つて上京致します。右から左へお言葉に甘えるやうでございませぬが、何分宜しくお願ひ申上げます。本人は正子様の御寮舎生活のお話を承はつて、入室を希望してをり、私達も差當りは他人の間に揉まれることが本人の爲めと存じて、その予定にしてをります。何れお目もの上、御相談申上げ、萬事御指圖仰ぎたく存じます。御主人様初め皆様宜しくお傳へ下されたく、上京までには又お便り申上げます。貞子は正子様へお手紙を差上げると申して、書いたり消したりしてをります。かしこ

手傳ひを頼む

杉浦 翠子

美代子さん。

朝晩は少し冷えん、して來ましたが、お父様もお母様もお障りなくいらつしやいますか。さて、ひとつあなたに御相談ですが、實は私もおかげ様で、何の異状もなく、いよく産月も近づきました。お産婆さんのお話では、來月にかゝる早々、お産の用意をしなければならぬ様子です。ところが、御存じの通り女中は來たばかりで、まだ家の勝手のみこむまがなく、私がお床についてしまつたら、さぞ不行届ばかりでまごつくだらうと氣がかりになります。それで、お兄様に相談しましたら、この際美代子ちゃんに來て手傳つてもらひなさい、と仰有るんです。家政の實習にもなつて、丁度いいぢやないか。

でも、あなたもお若いのですから、お産の手傳ひなどおいやでせうと思ひますが、お願ひ出來ますかしら？

尤も、お産の手傳ひとはいつても、何もあなたにその方のお願ひするのではありませぬのよ。看護婦は別に頼みますから、あなたに、お料理だの、お兄様のお身の廻りの世話だの、お客様の應對だの、ねえやを監督しながらそんなことをして頂きたいのですわ。

お母様にお話して御承諾を願ひ、その上でどうぞせいらして下さるやう御ねがひします。御禮にはお兄様が美代子さんの何でもお好きなものを買つて上げるさうですよ。それでは御返事おまちしてゐます。

美代子さま

朝晩を少し冷えてくるとまよーたのにお父様もお母様
もお降りなすくいらりやいすすのすくしりあるた
よにお話ですの空を私もおいす様で何の空状も
るくひよくき月もとづきすたおきき母さまのお話で
をき月にくるおとおき月の用さるるもききはならん
撮子ですのともおあおあおあおあおあおあおあおあ
また家の様子をおみこむひまうるく私のお床にほいし
まつたらさあおいふい届はうりておこおえたらうとま
ごうまなめしますの

それでお兄様はお話すたりこの際美代子ちゃん
もききおききすくすくすくすくすくすくすくすくすく
は笑おにもなつてアおいひぢわないうらや
でもあやいとおきいのですよらおき世のおき世とおい
やひせうと思ひますのおき世ききすのきりの

むもおき世のおき世はいつても何もあるたよその方
のうとちにおき世するのではあやますせこのよおき世婦
もよおき世するのりあるたよおき世だのおき世のおき
の廻りのお話だのおき世のおき世だのおき世やおき世
なうらそんなことおき世をききたりのですわ

お母様にお話しておき世をき世その上でおき世の
しやうやうやうおき世をき世すおき世におき世の
代子さまの何でもおき世をき世すおき世すおき世す
それでおき世のおき世おき世おき世おき世

お願ひの手紙

良人の兄に金融を頼む

田中孝子

梅雨の候も近づきました。北國の初夏も又一しほでございませう。皆様お健かでいらつしやいますか。私共も一同無事でございます。

扱今日はお兄上様に折入つてお願ひがございまして筆をとりました。本来は手紙で申上げる筋合のものではございませぬが、主人はつとめもあり、又私も小さい子供を抱へて家を明けることも出来かねますので、失禮ながら書面でお願ひいたす次第でございます。

御承知の通り、私共では大勢の子供が小さい上に、良人は昨年病氣以來何となく元氣が衰へましたやうで、心許なく存じてをります。ついでには良人ともいろいろ相談しまして、私に多少心得のございます手藝材料、それに文房具なども置く店を開いて家計の足にしよう、まあ考へだけはきまりましたが、しかし、何と申しても第一になくてはならぬのは資金でございます。経験のある方に伺ひましたら、造作や元手其他でどうしても小千圓は要るとのこと、ところが、私共では昨年の病氣の後とて少しの貯へもなく、種々奔走いたしました結果やうやく三百圓ほどは調達出来ましたが、不足の出所が他にないので全くゆきなやんで居ります。さういふ次第でございますから、誠に申しかねるお願ひでございますが、お兄上様の御助力を仰ぎたく、厚かましくもこの手紙認めました。本當に重々御迷惑とは存じますが、一家の將來を考へてのことでございますから、私共の境地をお察し下さいまして、御無理なお願ひをおき、届け頂けますれば、この上ない仕合せと存じます。金額はお宅様の御都合にお任せ致します。末ながらお姉上様にもくれくれよろしくお願ひ申上げます。

借金の返済延期を頼む

弘木丘太

拜啓、お詫びを申し上げる方に氣が急ぎますので、時候の御挨拶は失禮させていたゞきます。お詫びと申しますのは、他のことでもございませぬ。昨年末厚かましい申出を御快諾下さいまして拜借致しました金子、その際この六月にはお返し致しますと、固く約束致しましたが、どう遺縁をいたしましてもお返しする事が出来兼ねますので、何んとお詫びしてよろしいやら、唯々御寛大なお心にお願いして、お許しを願ふより外ございませぬ。

こんな事は、あの急場をお助け下さいました御厚意を考へますと、申し上げられた義理でないことは、萬々承知致して居りますが、何分にもこの五月に主人が思はぬ大病を致しまして、その入院費用に會社からこの六月の賞與の一部を前借致しましたところ、近頃の諸材料高や何やら彼やらで、會社の方が餘り成績がよくなく、そのため賞與が案外に少くて、どうにも斯うにも遺縁が出来ず、ほんとに困り切つてしまつたやうな次第でございます。

右のやうな事情でございますので、勝手な上に勝手なことをお願い致しまして何んとも恐縮ではございますが、十二月の賞與まで御猶豫願へれば、何んとか都合をつけましてお返しする決心をして居ります。主人からもお詫びする筈でございますが、まだお目にかゝつてみませんので、私からよくお詫びしてお願ひするやう申して居ります。何卒事情御察し下さいまして、勝手な申出をおき入れ下さいますやうお願ひいたします。敬具

都會の友に買物を頼む

横瀬多喜

お元氣ですつてね。二三日前お母様にお目に懸つて御様子お聞き致しましたの、お母様東京であなたに見立てておもらひになつたと言つて好い柄のおひとへ着ていらつしやいましたわ。あなたお見立てほんとうに御上手ね。それで御願ひするわけではありませぬけれど、買物少しなすつていたゞけませんから。べつに急ぐものでもありませんから夏やすみに、あなたが御歸省になる時で結構です。

品物はフランス刺繍の材料一切、そして虫のいゝ考へかも知れませんが、お休みの間にあなたに教へて頂かうといふ計畫なの、いゝでせう。私毎日御宅へ通つて、あの落葉松の綠蔭で教へて頂くことにすつかり決めてをるんですもの。それにも一つ、メリヤスとガーターの手編器お願ひしたいんですけれど、田舎に居てはろくなものは手に入らないんですから、面倒だなんておつしやらないでどうぞお願ひ致します。

御返事も伺はないで、勝手ですけれど、こゝへ爲替をお入れしておきました。どうぞ御自分のうお積りで、萬事よろしきやう御選び下さいませ。もうしばらくの間を左様なら。たけ子より

光子様。

佛え言葉ですらねに言ふお母様にお同よ思つて少振
子お少き致去りたのお母様お母様 あなたに思き
ておゆるいよなつたと云つて好い柄のおいとく思きいらしや
いよしたわあるたお思きやわんとうに御上子ね

それでお振ひするわ布ではありません分れも買物少
なすうと云つたはけませんよちうべつに急ぐものでせぬ
せしうら夏やまみよあさたごう梅者にならぬ時で結構で
す

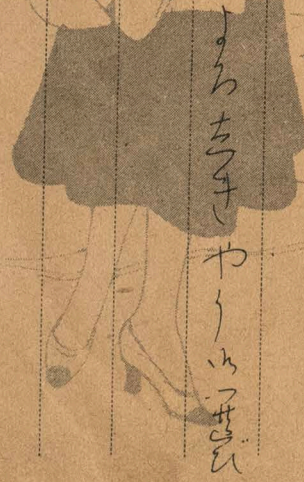
買物をつうレス刺繡の材料一切そと虫のい、老人も
知りませんごお休みの習よあなただよ教へて振うとよ
汁煮らのつ、ちせう私あ日ゆもへ通うてあの新義
松の緑蔭で教へて頂えごにまらう決意ををるんむす
ものそれよも一つメリヤスとカーターの手編お振ひし
いんちすけね

田舎よ成てはらくなものを手に入れないですうら面倒
たうておろし物なりやとてお振ひ致し

おひかりておまよた
おひかりておまよた

とうそお振ひの、お振ひて美る
ちやいませ

もう ちやいませ
らうか留をな振ひ



たごるより

お願ひの手紙

借家探しを頼む

伊福部敬子

その後は御無沙汰いたしてをります。お變りございませんか。今年も麥秋の季節になりました。あなたにお見送り頂いて此方にまゐりましたのは、まだ昨日のやうに思つてゐますのに、もう近々二年の任期が満ちまして、來月には本社詰として東京に歸ることになりました。

つきましては、まことに恐れ入りますが、私共の住居に手頃のお借家一軒お探し頂きたいのでございます。御承知の通り、私の生家も昨年東京を引上げて、身寄りもなく、殊にはじめての借家住居、萬事あなたを頼りにさせて頂くつもりで致してをりますので、お住居から程遠からぬ場所にて御願ひいたします。伊藤は丸ノ内まで省線にて通ふ事に致しますから、驛からは十五分がほど距離があつてもよろしく、間数は四間位、庭少々あつて花の一莖も植ゑられれば結構でございますが、陽當りさへよろしければそれは割愛いたしてもよろしく、何にても、御經驗をおもちのあなたに全部おまかせ申します。さう、肝心のお家賃を忘れるところでございました。収入の二割までと家事の先生に伺ひましたけれど、十八圓でそんなに好條件が揃ひますかしら？ あら、月給も申上げてしまひましたわね、やつと九十圓に昇給いたしましたの。

來月十日には伊藤だけ上京、二三日おくれれて、私も引上げたいと存じますから、出来れば今月中に然るべくお取決めおき下さいませ。敷金其他の費用は、御報らせ次第、いつにてもお送りいたしますから、何分よろしく御願ひいたします。

小兒科醫の紹介を頼む

宮田多賀子

昨日は、計らずお目に懸りました嬉しさに、途中ながらの長話、さぞ御迷惑だつたこととぞんじます。其節のお話に近頃大變によい小兒科の先生と御懇意になられ、其御指導でお子様方の御體質が一變されて、至極御元氣と伺ひまして何よりお羨ましくぞんじました。御承知の通り宅の二人もあまり丈夫な質ではありませんので、心配の絶間なく、どうか然るべき先生にお指圖を願つて、何か健康法を考へて居りました矢先故、歸宅早々主人に話しました處、日頃育児に御熱心なあなた様の御信用篤い方なら此上なきこと、何時拜見しても伸々と朗かなお宅のお子様方に、あやかり得ましたらどんなに幸福か、早速今からでも其先生へお願ひに行く様にと例の氣ぜはしく申しますが、知らぬ者が突然伺ふよりは、御紹介の御名刺でも頂いて持参するのが禮だとぞんじまして、御迷惑ながら御願ひ申上げます。子供達の身の爲にはたと夢中な親の心をお察し下さいます、取急ぎましたお願も何卒お聞入れ下さる様に。かしこ

お花の先生へ紹介を頼む

加宮貴一

暫らく御無沙汰いたしてをりますが、お變りはございませんか、さぞかし、いろ／＼の御稽古事にお忙しいことと存じます。私は例によりまして、古風なお嬢様らしく家事のお手傳ひ、お裁縫の稽古にばかり過してをりました。皆様からはおとなしい娘だと褒められてをりますが、好きなお稽古事の出来ないことがどんなに淋しかったです。

ところが、最近、お花のお稽古も少しはしておかなくては、といふ私の主張がどうやら認められて、父母の御許しが出ました。早速飛び立つ思ひで、ペンをとる次第でございます。いつぞや貴女にすゝめて頂いた池坊流の先生のところへは、今もお通ひになつていらつしやいますか？ あの時のお話では、大變いゝ先生とのことでしたが、お稽古を始めるのなら、わたし矢張り池坊流を習つてみたいと存じます。若しお差支が御座いませでしたら、是非々々あなたの御稽古日にお伴させて頂いて御紹介をお願いしたいのでございます。

いづぞやは、折角の御すゝめを頂きながら、家庭の事情で御好意を無にするやうな御返事をいたしておき乍ら、今になつて、御紹介を頂きたいなどと大變むしのいゝ話でございますが、何卒お叱りなく、何分よろしく御願ひいたします。お宅の皆々様にもひさしく御目にかゝりませんが、よろしく御傳へ下さいませ。先は、取急ぎ御願ひまで。かしこ

縁談に就いて身元を問合せる

白鳥省吾

その後は御無沙汰いたしました。御家内様皆々ごきげんよく御暮らしのことと存じ上げます。さて、突然のことで、且つお忙しきところへ御迷惑な御願ひ乍ら、おきき届け下しますやう願ひ上げます。外でもございませぬが、長女的美那子の縁談のことと存じますが、美那子も二十三にもなりますので、これまで種々お話もありましたが、俗に言ふ帯に短し袴に長しとやらにて、又、こちらにて気が進めば、向ふ様にて滞滞するといふやうなわけにて、存外面倒なことに月日を送り、いつまでもねんねと思つてゐられなくなりました。今度のはどうやら良きさうで、お話をすゝめて下さるのも美那子の出身女学校の教諭山本氏といふ確かな方でございます。

相手といふのは姓名は佐澤勇治、三十一歳、早稻田英文科出身、福島縣人、雑誌日本の記者で、新進の小説家としても認められてゐる人なさうです。

美那子はたゞ一度、さる劇場で、山本氏と連れ立つてゐたその青年に一寸逢つて挨拶を交はしたことがあるきりなさうですが、きいて見ると印象は温厚で地味な人のやうに思へたのでした。

向ふではこちらのことをよく調べて、もはや話はこちらで承知さへすれば纏まるといふところまで行つて居るのでございます。

申しおくれましたがその佐澤さんの實家は中農で、血統も正しく、両親も御健在、弟妹二人のことで、至極圓滿の御家庭らしいのですが、何しろ、主人は官吏で、文學方面の知人もなく、幸ひあなたの御主人が同じ大學の同じ科の御先輩といふことで、何かと御聴及びのこともあるかと存じ御同ひ致す次第でございます。

だいたい輪廓はわかつてゐますので、こちらでおききたい要點は先づ人物、品行などでございます。文學者といふと中には奇矯な方もあるやうに伺つてゐますので、これが、一番知りたいのでございます。次に收入の點でございますが、どうせ、美那子にも手綱さけても覺悟をさせて居りますが、ともかく大體のことを知りたいと存じます。

右のこと勝手ながら管々しく御願ひまで。御主人様にくれぐれもよろしく。

学校の模様を問合せる

平山信子

先日、同窓會の折には皆様にお目に懸かれて本當に嬉しう御座いました。

十一ヶ年の學校生活から解放されて、家庭で、時間や規則の制限を受けない伸びくした生活をする事はどんなに幸福だらうと、楽しい幻を畫いて、どここの學校にも入らない事にしたのでした。が、もう家の中で三ヶ月ものび／＼暮して見ると、單調な不規則な生活にすつかり魅力を失つてしまひました。そして學校に行つて御稽古していらつしやる皆様が羨ましくなつてしまひました。

加藤先生のお口癖ではないけれども、「人生の黄金時代」を生かして暮さなければ勿體ない、かうしては居られないと、私としては上出来の決心をしたのです。そして今から入れて頂けるなら洋裁學校に入りたいと思ふのです。それで御手數誠に恐入りますが、貴女の學校の規則書を一部御送り下さいませんか。それから次の事を何卒御きかせ下さいませ。

- 一、中途からでも入學出来ませうか。
 - 一、生徒は大體どういふ種類の方が多う御座いますか。そして校風は。
 - 一、材料は自由でせうか、そして材料費はどの位かゝりませうか。
 - 一、通學の服装は自由でせうか。
 - 一、學校へ持つて行くべき物品は何々でせうか。
- 母たちへ相談の都合もありますので、右勝手ながら至急お知らせ下さいませ。
- 右御願ひまで。早々



洋服裁縫の参考書を問合せる

仲町 貞子

みつ子さま。
先達てお便りに書いた私のミシン昨日やつと着きました。どつこもかも銀々光つてシャツ〜と氣持よく音をたてて動くので嬉しくなりました。
つきましてはよい洋服の参考書をお教へ下さいました。
去年講習を受けて、あれほど評判だった春木女史も早や今年は型が古いのだとか申しますし、どれがほんとうやら田舎では井戸の中の蛙で全くわかりません。お忙しいあなたに御面倒かけてすみませんけれど、どうぞお願ひいたします。
一冊にまとまつた本を、今お心當りでなければ、夏の洋服新全集とか、型紙つきの婦人子供服集とかいふやうな、さし當り役に立つものであれば結構ですの。
近いところだつたら、昨夜でもあなたのところへ飛んで行つて、お伺ひしたいほどでしたのよ。どうぞ早くお教へ下さいまし。どうぞね。

荷物の着否を問合せる

新妻 伊都子

前略御免下さいませ。
先日御依頼の浴衣十反、一週間前に小包二個にわけてお送り申上げましたが、お手元にどきましたでせうか。
いつの間にか、道ゆく人もすつかり夏の装ひになりましたので、湯上りに、紺の香りの新しい浴衣をお待ちかねと存じ、少しも早くお送りしようと、郵便局が近いまゝに、小包に致しました。後で、鐵道便の方が矢張り早かつたかもしれないと氣がつかしました。
柄など、お好みにはあはないものがあつてはいけないと存じまして、あらかじめ呉服屋には了解を得てございますから、何卒御遠慮なく御返し下さいませ。然し、あまりおそくなりましては、季節のある品物でもございますし、取替へさすのも如何と存じ、荷物の着否おたづねかたく御意をお伺ひ申上げる次第でございます。
先は要用のみ。早々

母の病氣を問合せる

伊福部 敬子

雪子さん、その後お母様の御病状いかゞですか。だん／＼とおよろしい方でせうか。少し涼しくなれば、ずつとお元氣になれるのだと思ふのですけれど、この頃のやうに暑くては、丈夫な私たちでさへ體がもちにくいのに、歎のさしひきのあるお母様にはさぞお苦しいだらうと心配してゐます。
お手紙にあつた築太樓の玉だれはお送りしました。
もう届いた筈と思ひますが、お母様喜んで召し上つたかしら？ あれを召し上げるやうになつたのなら、大分お氣もいゝのだと安心したりもしてゐるのですよ。
この間あなたのお手紙をよむと、すぐ日本橋へあれを買ひに出かけたんですよ。そして夕暮れの三越前の雜沓をわけて歩いてゐる中にくつと涙が出て來たんです。この前、やつぱり今時分からしてお父様の御病氣の時西瓜を買ひに行つたことを思ひ出したんです。あれからも丸々五年もの間お傍をはなれて過してることや、その間のお母様の御苦勞が、急に思ひ出されて。
でもあの時は、メロンの味が太變よかつたとお手紙書いて、本當にうれしかつた事も覚えてゐるわ。今度もお母様、これでお元氣になれるかと思ふれないと思ふだけだ。
雪子さん、あなたも長い看病で大變でせうけれど、どうか私の分もと思つて、つくして上げて下さいね。そして、御様子なるべく委しく知らせて下さい。あなたもどうか體を大切に、ではお手紙まつてますよ。

女中を紹介する

西崎綾乃

日に増し新緑深くなりました。御手足の折柄御疲れはございませんか伺ひ上げます。拙過日一寸お話しになりましたお女中さん、幸ひ宅の召使の従妹に當ります者、可然方へ御奉公申上げたき希望にて、四五日前郷里より上京致し参りました。私宅にて少々手傳ひ致させました處、至極順良にて、人柄としましては先々申分なき様に見受けまされども、何分田舎から参つたばかりの者で、すぐに萬事のお役にはたかかねると思ひますが、御家風になじみますやうお氣長にお仕込み下さいます思召で、試みに御使ひになつていただければまことに仕合せと存じます。

一二月月はお互に氣心を飲み込みます迄苦心が要ることでございますが、氣立さへお氣に召せば、或點迄は許して使つて頂ける事と存じまして、兎も角も差遣はしてみます。唯呉々もお願ひ申上げた事は、私からの紹介であるからと御遠慮下さいまして、お氣に召さない者を無理にも御耐へになつて御使用にならないやう遊ばして頂き度いのでございます。私がよいと申上げましても、わづか二三日の間の見聞に過ぎない事でございます故、折紙附と申すわけではございません。なほ、お給料などはとくと本人御覽の上のことでございますが、たくさん頂くことを望みませず、將來主婦として役立ちますやう、御行儀其他お仕込み頂きたいと申しをります故、序ながらお含みお下さいます。何卒親しく御使用の上よろしく御取決め願ひ上げます。かしこ

洋裁家を紹介する

加宮貴一

すつかりお暑くなりましたが、お宅様皆々様お變りございませんか、御伺ひ申上げます。御職様方もお元氣で御通學のことと存じ上げます。宅でも、來年は女學校でございまして、今迄の香氣坊主が、泥繩式の勉強振り、無事に入学してくれればよいがと、今から頭痛の種でございます。

さて、いつぞやお目にかゝりました折にも一寸お話ししました洋裁家の田邊きぬ子様が、近くお宅へ参上なさいますさうでございますから、さぞ御多忙でいらつしやいませうけれど、何卒その節は御引見下さいますやうお願ひ申上げます。田邊様は、いつも奥様からお褒めを頂いてをります宅の子供達のお洋服を前々からお願ひしてゐる洋裁家で、婦人服にも大變優れた手腕を持つていらつしやる方でございます。若し、今度お嬢様なり奥様の御洋服をおつくりの節は、是非一度御用命になつてみていただきたく存じます。決して御失望なさるやうなことはないでせうと、私が太鼓判を捺して御推薦申上げます。私が参上致しましてお願ひ申上げるべきでございますが、何しろ毎日の強勉強手でございますので、失禮とは存じましたが、お手紙で御紹介申上げます。かしこ

お花の先生へ友人の娘を紹介する

加宮貴一

先夜同愛社觀劇會の折、御挨拶いたさせました片岡我江子、此の畫持參、御伺ひ致させました。何卒御引見下さいませ。あの日の幕合に御挨拶に見えられました美しい方々、みなお弟子の方と伺ひますばかりでも、お忙しさほどお察しいたし、よくお心づかひのお届きあそばさす事と、我江様お母様とも後で申したことでございます。

その御多忙の中を枉げて御入門お許し頂きまして誠に有がたり存じます。只今突然に、我江様見えられ、お日柄よろしければ、おねがひ致したくとの事に、お打合せも致さず御都合いかゞと存じながら、ぶしつけにも御伺ひ致させました。何分よろしく願ひ上げます。

先夜も申上げた通り、あなた様のお人柄をお慕ひいたし、是非にこの親御のお申出でに、御無理をお願ひいたしました次第、我江様の朗かすぎますところは極め、永い間には幾分なりとも落ち付の出来ますやう、よろづに御指導頂きたく存じます。お茶の方もお話しもございましたが、一時に始めましてはこれまでがこれまで故、窮屈すぎで意りがちになりましたとは、少し様子をこらん頂き、その上にて是非ともお願ひ致したい心組みと申されて居ります、左様おふくみ置き下さいませ。實は私にお連れいたすべきところ生憎、例のリウマチにて御無禮ながら本人のみお伺ひ致させます。いづれお目もこの折に。かしこ

その略知なりませませ

先般旧交社親割会の新しき挨拶いたしました事よした片言花
は子此の書持表し何れ致させやうた何事少引見りませ
ませ

あの日の幕台にう挨拶に思えられりた羨しい方、みふ
お弟子の方何れ伺いますをりてもお叱りそのあつた
お交した志よとお心づのひのお届はあをさする事し
精に様お母様とも後で申きたうとをいませ

その御多忙の中を拒絶して御入門お許し候けよませ御
有うたう存じます御分冥然に萩は様見えられお日柄
よらしは斗はお何れ致したくともる事にお折合せ致され
御都合いふと存じらぶしつと希にも何れ致させ申し
た何分よあまう存じ上げ可い

先般申上げられた通りあなた様のお人柄をお慕ひ
したし是れにとの親師のお申出にう無難をお祈りした
しまたい分萩に様の朗かすきよすともを撫め承い習
にも歳分なりとも落ち付の申すやうなるにう指導頂か
たり存じますお筆の方とものお話してございませうたう一
何れ始めよませは、お申すのこら斗を故宗師屈すやう急り
うちにたりませともい少し極子をいん候きその上に
是れとお祈り致したい心強きと申すを許りふに様
おやみませませいませ実を私おなれにたすん手いとも
生憎候のりうマキにて御無礼なるが、お人かみお何れ致させ
せよませいづれお同様の折よませ

お花の先生へ友人の眼を紹介する

知人を小兒科醫に紹介する

中河 幹子

梅雨とは申しながら何とよく降りますこととございませう。全く閉口いたしてをります。折柄先生にはますます御元氣の御事と、およろこび申しあげます。

さて私の友達草野廣子様を御紹介申しあげます。今年七歳の御子様が、どうも顔色がわるく、瘦せてゆくのがこのごろとくに目につくことにて大變御心配になり、私によい小兒科のお醫者さまを教へてほしいとのことでございます。ついでには先生にとくと御診察を願ひ、今後もずっと御指導によつて御子様の健康を進めることが出来ましたら、親御さんの御喜びだけではなく、私も大變うれしいことに存じます。

近日その御子様をつれて病院の方へ上ること存じますが、どうぞその節はよろしくお願ひ申しあげます。

まづは右お願ひのみ。不順の候、御多忙な先生にはかくべつ御身御大切に遊ばしますやう祈りあげます。かしこ

就職希望の娘を紹介する

平山 信子

先日は久々にて御目もじ致し誠に嬉しく存じました。

その節一寸御話申上げました就職希望の娘さんを履歴書を持たせて伺はせますから、何卒御引見下さいましてよろしく御配慮頂きたく御願ひ申上げます。

本人は、私の同窓の友の長女で、女學校の五ヶ年間を無缺席無遅刻で通した程健康でもあり、意志も強固な娘さんで御座います。學校の成績は上の部で、性質は温順、明朝、機敏とは言へないかも知れませんが正確で御座います。無駄口はきくませんが言ふことは明瞭いたしてをります。人づきあひもよろしいやうで同級生の間に入望があつたやうで御座います。元は生活に餘裕のある良家に育つたので御座いますが、昨年女學校卒業を前にして父君に急逝せられましたので、健康にもお母様を助けて弟妹の學資の一端なりとも手傳ひたいとて、特に選んで商業簿記、商業英語、邦文及び英文タイプライター等を一年間熱心に勉強されたので御座います。

本人の希望としては、勞務は厭ひませぬから、立派な御人格の方が管理をなさる眞面目な商會なり事務所なりで働かせて頂きたいと申す事と、出来れば日曜日を休ませて頂ける所をと申してをります。それで、私も色々考へまして、若し貴女様のお側で働かせて頂けるので御座いましたら、日々貴女様の御人格に接しまして、働かせて頂きながら申分のない教育をして頂ける事を思ひまして、御無理でも御願ひ申上げたいので御座います。

然し若しそれが叶ひませんで御座いましたら、お知合の廣い貴女様の御事故、本人御觀察の上何卒適當な所へ是非御世話を御願ひ申上げたので御座います。

本人の身元保証人は私共でよろしければ喜んでお引受致します。何卒よろしく御願ひ申上げます。かしこ

知人の妹を友達に紹介する

小寺 菊子

いつのまにか朝夕お涼しい時候となりました。

田舎住ひの私共、とかく手紙など書くことのおつくうさに、日頃は心ならずもつい御無沙汰をいたしてをります。さて、私が不斷お親しくしてをります中田さんの妹さんで、此春女學校を卒業された美子さんといふ方が、東京に出て洋裁や手藝を一通り修業したいとのことで、親御さんの御承諾の上、此度上京されることになりました。同家はこの土地でも評判の物堅い舊家でございまして、東京には確りした叔父様が一人ゐられますが、然しその叔父様は全然別方面の仕事をしてゐられますので、洋裁學校入學その他の手つき等については、その道の消息にお委しいあなた様にお頼みいたしたく存じます。

御多用中誠に恐縮でございますが、私の紹介狀持参月未御訪問の折には、是非御引見下さいまして、何分の御配慮を頂きたくお願ひ申上げます。なんと申しましても田舎育ちのこと、氣が利かぬ點もいろいろある事でございませうから、都會生活についての日常のこまかい注意などおきかせ頂ければ、この上もなく仕合せのことと存じます。勝手なときのみお便り申上げお許し下さいませ。知人の方よりもくれぐれもよろしくと申されました。

では右御願ひまで。かしこ

見本に依つて毛糸を註文する

氣 駕 君 子

御送り下さいましたT印毛糸見本、今朝確かに落手、有難う存じました。ついでには御面倒ながら左記の品何卒御願ひ致します。

三一七番(クリム)二封度。一五七番(薄鼠)一封度。二五六番(薄茶)一封度。外に進物用として、三一七番一封度いづれも吟味の上、勝手乍ら至急御届け下さるやう御願致します。代金は引換にお渡致しますから、さやう御承知願ひます。

カタログに依つて洋服を註文する

小 堀 杏 奴

拜啓 過日お店で拜見した夏服カタログの中で、避暑地の不期着にも散歩服にも應用のきく百十一號を一着作つて頂きたいと存じます。胸の上部は白と濃い藍の縞物にして、外は全部薄い水色、ベルトも共布がいと思ひます。生地は矢張りリネン、寸法はいつもの通りにして、裾を一種位短か目に、胸の餘裕は見本帖のよりもう少したつぶりにして下さい。御忙しいのでせうが、來月五日には旅行に出ますので、是非それまでに仕上げて頂きたく、代金は假縫の出来た時にお支拂ひいたします。

仕立物を註文する

長 谷 川 時 雨

わざわざお便をありがたうございました。染は大層よく出来上りました。それですぐに仕立てにまはしていただきたいのですが、何時も申すやうに、この頃は、どうも直にひき解いたり、染直しをしたりして、皆さんが異つたものを着てゐるやうに見えるのが流行せるるか、仕立が、(仕上げは綺麗なのですが)どうもだん／＼ぞんざいになつて手が抜いてあるのが多くつて困ります故、お店では大丈夫と存じますが、入念にいたしますやうに、御面倒ながらよくお申付け下さいまし。ことに、單物ゆゑ腰のところから下までの針目を細かくして、あしきあてなしに細く、かくしぶせに上まで共ぎれで願ひます。それに、縫糸は本絹糸をお用ひ下さるやう。近ごろ細い、燃のちつともない糸でくけてくるので、すぐにほころびて困ります。

も一ツ御註文申したいのは、襟かたのクリが、お若い方のやうに大きく深くクツツである、ぬき衣紋になつて厭味になりますから、あまりクラないで下さいまし、といつて、男ものやうでも困りますから、五分ぐらゐるところにお願ひ申します。日限は、なるべく一週間以内仕立上るやうお頼み申します。

反物を註文する

美 川 き よ

相變らず御忙しいことと存じます。又一つ御面倒ながらおねがひ致します。先日熱海へまゐる途中、汽車の窓から眺めた海の色があまり美しいので、あんな着物が出来ないかしらとふと考へついたので、青の一角だけでもすゑぶん素晴らしいのですが、私には少々地味かしらと思ひますので、波頭だけでも白い絞りで一列か二列のところへ散らしてみたらなどと思つたりして居ります。

色もの故裕の一枚着がいと思ひます。生地は波模様の地紋のあるもの縮子などいかゞでせうか。もつと、面白い生地があれば尚更結構ですが何卒探して見て下さい。

海の色なんて大變漠然とした言ひ方ですが、はなやかな色よりは、深い落ち着いた色が好ましいのです。生地も色も柄もおまかせ致します。せい／＼御工夫の上おもしろい出来ばえを見せて下さい。この頃流行の金糸銀糸のあるのや光つた生地は御めんです。

餘りお金をかけず五十圓位までの豫算でやつて見て下さい。一寸心づもりもあり、來月中頃までに拵へて頂きたく、楽しみに待つて居ります。ついでに、共色の裾廻しも一枚分染めておいて下さい。

右、勝手な註文でございますが宜しくお願ひ申上げます。

八月十五日

舟車

五月十日

舟車

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

舟車の記述... 舟車の記述... 舟車の記述...

寫眞を催促する

浅原 六郎

十二日に寫して頂いた、一人寫しと二人組と二枚の寫眞、まだ出来ませんでせうか。一週間で届けて下さるといってお話でしたので、お待ちしてゐるのですけれど、實は、一人寫しの方は、自分で作つてみた洋服の着初めを寫しましたので、どんな風になつてゐるか、楽しみにして待つてゐるのです。出来上つた上で、をかしくなかつたら記念にさし上げませうと、お友達にもお約束してしまひましたので、一日も早く、下見をしたいと思ひます。

お約束の日から、もう二日も過ぎてゐるのですから、すぐおしらべになつて、もしまだ現像にかゝつてゐないのでしたら、どうぞ早急に仕上げて下さいませ。では、急ぎお願ひまで。かしこ。

仕立物を催促する

橋爪 健

先日はお世話様でした。

その節お願ひ申上げました四ツ身の單衣、「あまり急ぎませんから」と申しましたが、實は今日よそ様からお慶びのお招きを受けまして、この八日に參ることに成り、子供にもあれを着せてゆきたいと存じますので、勝手ながらせひ間に合せて頂きたいのでございます。肩あげ腰あげなど致さねばなりませんから、おそくも七日の夜までにはお間違ひなくお届け願ひたいのですが……。もし間に合はないやうでしたら、恐入りますが、この手紙着き次第、そのままで結構ですから、お届け下さいませ。なほ、つけ紐はやはり綿色にしておいて頂きます。

では、くれぐれも日にちをお間違へなきやうお願ひ申上げます。とり急ぎ右要用御願ひまで。かしこ

註文の品を催促する

伊 福 部 敬 子

先日はカタログ早速にお送り下さいましてありがとうございました。

あの夏家具の中、塗骨猫足大内行燈、朱房白統張鼓早提燈二張求めたく、先月二十五日、右代價に送料添へて十三圓五十錢也の小爲替同封、手紙にて御註文いたしましたのですが、まだ品物が到着いたしません。どういふことになつてをりませうか、お手数ながら至急にお取調べ下さい。

いつもお間違ひのない貴店のこと、本来なら御催促などいたさないのでありますが、何分右の二品とも餘日何程もな孟蘭盆に間にあはせたく取急ぎ註文いたしましたもので、それを過しては用いたゝぬものでございまして、心急ぐまゝにおたづねいたします。何卒よろしく御願ひ申上げます。もし又、季節のことにて註文の品買切の節は、最も似寄りのもの見立て、十日までにお送り下さいますやう、代金の過不足も御申送り下さい。先は右御願ひまで、

貸した書物を催促する

川 路 柳 虹

その後御無沙汰いたしてをります。此度は専檢に目出度パスなすつてほんとに嬉しく御慶び申上げます。さぞいらく御取込みで御忙しなことと思つてゐます。私も毎日の勤めの餘暇に教員免状目的の勉強するぶん大変ですわ。なんとしてもパスしなければならぬと思ふと気が氣であります。あなたのやうに一心不亂に勉強出来るのですといふのですが、何しろ朝六時から夕方五時迄の勤めは、家へ歸ると全くぐたりしてしまひます。御飯がすむと一やすみしてそれから机に向ふのですが、晝間の疲れてつうと〜となりませう。それではいけないとあなたの勉強振りを思ひ乍ら自らを勵まして、この頃は一時までハリ切つてをります。

氣のせるか健康で元氣ですから御安心下さい。もう御忘れになつたかも知れませんが、昨年春頃あなたが宅から持つていらしたたま〜になつてゐる『日本國語文典』(S博士著) 多分御不用のことと思ひますが、おあきでしたらお返し願へないでせうか。要らないと思つてをりましたが、私の手元にある本だけで一寸解しかねる所がありますので参考にしたと存じます。御迷惑でせうが折返し速達でお送り下さると幸いです。いづれ私も試験でも済みましたらゆつくり御目にかゝりたく存じます。お互に減多に逢へない境遇故いつか日を選んでゆつくり遊びませうよね。では

秋によろしく。